

資料編 INDEX

I 現在継続中の助成事業

日本心臓財団研究奨励	108
日本心臓財団・バイエル薬品海外留学助成	125

II 現在継続中の褒賞事業

日本心臓財団佐藤賞	133
日本心臓財団草野賞	135
日本心臓財団予防賞	137
日本不整脈心電学会学術奨励賞	139
日本心臓財団小林太刀夫賞	140
「心臓」賞	141
日本心臓財団・日本循環器学会 矢崎義雄奨励賞	142

III 過去に行われた助成事業

1. 研究助成

日本心臓財団研究助成	143
日本心臓財団・東京海上火災研究助成	145
日本心臓財団・日本 IBM 研究助成	147
日本心臓財団入澤宏・彩記念研究奨励	149
日本心臓財団・ゼリア新薬工業分子循環器研究助成	152
日本心臓財団・ファイザー心血管病研究助成	156
日本心臓財団・ファイザー高血圧と血管代謝研究助成	162
日本心臓財団・ファイザー高血圧・高脂血症と血管代謝研究助成	162
日本心臓財団・アステラス・ファイザー「動脈硬化 Update」研究助成	166
日本心臓財団若年研究者研究奨励（藤基金）	169
日本心臓財団・ノバルティス循環器分子細胞研究助成	171
日本心臓財団・日循協・アストラゼネカ臨床疫学研究助成	175
日本心臓財団拡張型心筋症治療開発研究助成（ほのかちゃん基金）	176

2. 海外研修助成

不整脈の非薬物治療 Scholarship 短期海外研修助成	177
日本心臓財団 Cardiac Rhythm Management 短期海外研修助成	178

IV 過去に行われた褒賞事業

日本心電学会木村栄一賞	180
日本心臓財団・フィリップス心不全陽圧治療研究奨励賞	181

V 学会との共催事業

美甘レクチャー（日本循環器学会）	182
日本循環器病予防セミナー（日本循環器病予防学会）	184

VI 啓発活動

日本循環器学会市民公開講座	186
出版・刊行物	192

巻末資料

● 役員在任期間一覧	198
● 1970年、財団発足にあたってのご挨拶	211
ご寄附を賜りましたすべての方々へ	217
編集後記	220

資料

日本心臓財団研究奨励

Japan Heart Foundation Research Grant

日本心臓財団の根幹事業として、設立当初より循環器領域専門の若手研究者(40歳未満)に研究助成を行っており、この研究奨励を受領した多くの研究者が日本循環器学の中核を担う研究者に育っていることから、わが国の循環器学研究的の登竜門といわれています。

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
1975年 (第1回)	1	「心筋における二価イオン電流の研究」	大地 陸男	自治医科大学助教授	50
	2	「心筋機能不全における小胞体膜機能の分子生理学的研究」	多田 道彦	大阪大学助手	50
	3	「日本人における左冠動脈主幹部病変の特異性に関する臨床的研究」	中西 成元	沖中記念成人病研究所	50
	4	「動脈硬化症の成因、予防に関する研究」	沼野 藤夫	東京医科歯科大学助手	50
1976年 (第2回)	5	「血管炎および動脈アテロスクレーゼの成因としての白血球プロテアーゼの研究」	青木 洋祐	自治医科大学講師	50
	6	「心筋イオン電流の異常からみた不整脈の成因とその対策」	平岡 昌和	東京医科歯科大学助手	50
	7	「サルを中心とした哺乳類の血管平滑筋の電気生理学的研究」	目片 文夫	京都大学助手	50
	8	「先天性心奇形の発生要因に関する細胞遺伝学的研究」	山本 正治	新潟大学講師	50
1977年 (第3回)	9	「高血圧症における心・血管壁の病態生化学的研究ー(とくにコラーゲン代謝の研究)」	大島 章	島根医科大学助手	50
	10	「心筋の特異的収縮制御におけるトロポニンの意義」	小浜 一弘	東京大学助手	50
	11	「体外式ヒス束心電図の新しい記録方法の開発」	栗本 透	関西医科大学講師	50
	12	「培養心筋細胞による移植免疫の研究ー特に心筋の拒絶反応時の電気生理学的変化について」	廣瀬 一	大阪大学助手	50
1978年 (第4回)	13	「動脈硬化の初期予防に関する臨床病理学的アプローチ。殊に若年層日本人の大動脈、冠状動脈硬化性病変の質的・量的解析及び risk factor との関連について」	石井 壽晴	慶應義塾大学助手	50
	14	「左軸偏位例(脚ブロックを伴わぬ)における刺激伝導系の病理組織学的研究」	大川真一郎	東京都養育院附属病院医長	50
	15	「Release arrhythmia の発生機序に関する研究」	杉山 理	名古屋大学助手	50
	16	「局所心筋収縮能異常と局所心筋血流量の低下との相関性に関する研究ー特に心筋虚血境界域における局所心筋異常運動のメカニズムについて」	友池 仁暢	九州大学助手	50
	17	「アルコール性心筋症の発生機序に関する心筋内微小血管病変の果たす役割」	松原 修	東京医科歯科大学助手	50
	18	「大動脈内の乱流に関する研究ー心行動態の変化と乱流の程度の関係について」	山口 隆美	東京女子医科大学助手	50
1979年 (第5回)	19	「心筋細胞におけるイオンチャンネルの発生と分化に関する研究」	飯島 俊彦	東北大学助手	70
	20	「虚血心筋細胞膜の生化学的及び電子顕微鏡的研究」	片桐 敬	昭和大学講師	70
	21	「超音波血流マッピング法による冠動脈疾患病態診断のための心臓形態・心腔内血流検出に関する研究」	北畠 顕	大阪大学助手	70
	22	「脳動脈及び冠状動脈硬化の発生、進展及び退縮の機序に関する免疫電顕的研究」	黒住 武史	佐賀医科大学助教授	70
	23	「高安病の発症に関する遺伝要因の解明」	笹月 健彦	東京医科歯科大学教授	70
	24	「脳におけるプロスタグランジンの代謝と機能ー脳出血、脳血栓症の予防・治療に対する基礎的研究」	清水 孝雄	京都大学助手	70
	25	「虚血性心筋に対する開心術中並びに直後の心筋保護。特に虚血後血流再灌流の至適条件の研究」	砂盛 誠	順天堂大学助手	70
	26	「重症心不全、心原性ショックに対する補助人工心臓の臨床応用に関する基礎的研究」	高野 久輝	国立循環器病センター研究所室長	70
	27	「本態性高血圧症における食塩負荷による血管抵抗上昇の機序に関する研究」	竹下 彰	九州大学講師	90
	28	「アセチルコリン及びアドレナリンの洞房結節に対する作用のノイズ解析による解明」	野間 昭典	岡崎国立共同研究機構生理学研究所助教授	70

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)	
1979年 (第5回)	29	「体表面心臓電位図による心筋梗塞の部位及び拡がり並びに急性梗塞の大きさの変動の診断」	林 博史	名古屋大学	70	
	30	「刺激伝導系の病理形態学的研究—肥大と変性を中心に—」	福田 圭介	順天堂大学助手	70	
	31	「川崎病における冠動脈瘤の形態発生に関する立体構築法による病理学的解析」	増田 弘毅	昭和大学助手	70	
	32	「家族性高コレステロール血症の疫学及び臨床研究」	馬淵 宏	金沢大学助手	70	
1980年 (第6回)	33	「右心カテーテル法によるヒト肺“静脈”系コンプライアンスの推定—方法上の問題点とコンプライアンスに影響を与える因子についての検討」	荒川 迪生	岐阜大学講師	60	
	34	「トニンのアフィニティークロマトグラフィーによる精製とその血管作動物質(昇圧及び降圧物質)生成に関する生理化学的研究」	池田 正春	福岡大学講師	80	
	35	「抗狭心症薬の作用機序に関する細胞薬理学的研究」	伊東 祐之	九州大学助教授	80	
	36	「バルーンを用いた血管内視鏡の開発とその治療への応用」	伊藤 翼	筑波大学講師	80	
	37	「虚血心筋の収縮機能及びエネルギー代謝変化を光学的に連続観察する方法の開発」	金出 英夫	九州大学講師	80	
	38	「我々が世界で初めて開発に成功したハイブリッド型のエミッショントモグラフィ装置を用いた三次元的局所脳血流量測定法の定量化に関する研究」	菅野 巖	秋田県立脳血管研究センター	80	
	39	「左心室内圧容積関係と心臓酸素消費量との相関—特に収縮期内圧容積を中心として」	菅 弘之	国立循環器病センター研究所室長	80	
	40	「同時二断面断層心エコー法による左室壁局所の収縮・拡張運動様式の病態生理学的研究」	千田 彰一	大阪大学	80	
	41	「デジタル肺血流量像(DPI) 肺内血流分布異常の程度を画像化し、これによって心機能の低下程度を非観血的、客観的評価を試み、さらに本方法普及のために装置の改良、小型化を試みる」	田中 健	東京女子医科大学	80	
	42	「心筋梗塞時の房室結節イオン電流の研究」	西村 昌雄	名古屋保健衛生大学総合医科学研究所	80	
	43	「超音波心臓断層法による先天性心疾患の臨床的研究—特に中隔欠損の検出と大きさ・位置の判定について」	日比 範夫	名古屋大学助手	80	
	44	「冠動脈狭窄性状の差異に基づく冠動脈血流変動」	伯耆 徳武	川崎医科大学助教授	60	
	45	「体表面電位図より心外膜面電位分布を逆計算する方法及びその臨床実用化に関する研究」	山下 安雄	東海大学講師	80	
	1981年 (第7回)	46	「血液循環系の機械式モデルを用いた心臓代用弁の機能評価と弁膜症の治療方法の解明」	梅津 光生	国立循環器病センター研究所	80
		47	「臓器機能障害における微小循環動態に関する研究—リンパ輸送機構の生理学的研究」	大橋 俊夫	信州大学助教授	80
48		「超音波ディメンジョンゲージのコンピュータ制御による心筋梗塞の局所心筋動態の解析」	小坂田元太	京都大学助手	70	
49		「急性心筋虚血に伴う不整脈の発生機序に関する研究」	児玉 逸雄	名古屋大学助手	80	
50		「左心室拡張機能に及ぼす肥大と虚血の影響」	芹澤 剛	東京大学助手	70	
51		「レーザ・ドブラ法による冠血管の空間血流速度ベクトル計測とこれに基づく冠血行力学的特性の評価」	友永 轟	川崎医科大学講師	80	
52		「心血管系におけるリポキシゲナーゼによる不飽和脂肪酸の代謝と代謝物の生理活性の研究」	成宮 周	京都大学助手	80	
53		「超音波心断層像より急性心筋梗塞サイズを定量する試み」	野瀬 善明	九州大学助教授	70	
54		「臨床用プッシュプレート型補助人工心臓の開発と評価」	林 紘三郎	国立循環器病センター研究所室長	80	
55		「脳のレニン・アンジオテンシン系の酵素レベルでの解析」	広瀬 茂久	筑波大学講師	80	
56		「急性心筋梗塞時の血流再開による心筋及び冠血管障害について」	福山 尚哉	九州大学助手	80	

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
1981年 (第7回)	57	「洞不全症候群に関する実験的研究 洞結節機能と心房細動の発現及び持続との関連について」	矢野 捷介	長崎大学講師	70
	58	「血漿アポリポタンパクの機能の生化学的、生物物理学的解明とその動脈硬化症治療への応用の可能性」	横山 信治	国立循環器病センター研究所室長	80
1982年 (第8回)	59	「鶏胚心 loop 振動刺激による複雑心奇形の作成と心 loop 異常に関する心形態発生の研究」	石川 自然	昭和大学講師	70
	60	「エバン法を用いたヒト心筋内微小循環の走査型電子顕微鏡的研究」	和泉 徹	新潟大学助手	80
	61	「キニノーゲン遺伝子の構造と調節に関する研究」	喜多村直実	京都大学助教授	80
	62	「心筋細胞内 Ca ²⁺ の経時的定量法とその応用に関する研究」	栗原 敏	東京慈恵会医科大学助教授	80
	63	「脳血管障害発生に及ぼす頸部交感神経支配の意義に関する実験的研究」	佐渡島省三	九州大学助手	70
	64	「血管壁細胞表面ムコ多糖のリポ蛋白代謝における役割について」	島田 和幸	高知医科大学講師	80
	65	「心筋内蛋白分解酵素の阻害薬による心筋壊死の阻止、または遅延効果の検討」	豊岡 照彦	自治医科大学講師	70
	66	「大動脈中膜平滑筋細胞の遊走に関する研究」	中尾 純子	東京都養育院附属病院	80
	67	「心臓短軸面の高速切断凍結法の開発—急性虚血の代謝の映像化をめざして」	堀 進悟	慶應義塾大学助手	80
	68	「細胞内 Ca により活性化される内向き電流チャンネルについて」	松田 博子	岡崎国立共同研究機構生理学研究	80
	69	「断層エコー・ドプラ法による心拍出量非侵襲的、連続的計測とその臨床応用」	宮武 邦夫	国立循環器病センター医長	80
70	「脈管作動物質合成に関わるリポキシゲナーゼの研究」	吉本 谷博	徳島大学助手	70	
71	「心臓及び脳の虚血時におけるアラキドン酸代謝物の果たす役割」	渡辺 恭良	京都大学放射性同位元素総合センター助手	80	
1983年 (第9回)	72	「心筋ペースメーカー細胞におけるイオン担体系電流」	倉智 嘉久	岡崎国立共同研究機構生理学研究助手	100
	73	「川崎病による冠動脈狭窄性病変の検討—その頻度の実態、出現・進展の様相、その防止方策、その心筋への血流供給に及ぼす影響」	鈴木 淳子	国立循環器病センター	100
	74	「血液凝固線溶系制御物質 protein C 及びそのインヒビターに関する病態生化学的研究」	鈴木 宏治	三重大学講師	100
	75	「埋め込み型無拍動流ポンプの開発」	高谷 節雄	国立循環器病センター研究所室長	100
	76	「フォスファチジン酸類の冠血管収縮作用」	竹縄 忠臣	東京大学助教授	100
	77	「レーザ回析法による心筋サルコメアの収縮・弛緩動態の解析」	辻岡 克彦	川崎医科大学講師	100
	78	「血管運動の神経性統御機構の解明」	遠山 正彌	大阪大学助教授	100
	79	「細胞培養系による動脈硬化症の研究：ナトリウムイオンによる動脈壁細胞のコラーゲン、酸性ムコ多糖合成活性化の分子機構の解析」	畑 隆一郎	東京医科歯科大学助手	100
	80	「高血圧発症予知及び食塩感受性因子としての赤血球膜ナトリウム輸送機構異常に関する研究」	藤田 敏郎	筑波大学講師	100
	81	「急性心筋虚血の発生機序に関する実験的研究—特に冠動脈スパスムの役割」	横山 光宏	神戸大学助手	100
1984年 (第10回)	82	「急性心筋梗塞症に対する再灌流治療の定量的評価：病理組織及び生化学的指標物質による実験的検討」	磯部 光章	東京大学	100
	83	「冠動脈攣縮発現機序に関する研究—ヒト冠動脈平滑筋細胞の収縮に及ぼす細胞内及び細胞外カルシウムの影響」	川崎 建市	自治医科大学講師	100
	84	「虚血心における左室壁局所仕事量の定量的解析」	後藤 葉一	国立循環器病センター研究所	100
	85	「刺激伝導系の三次元的構築」	島田 達生	大分医科大学助教授	100

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
1984年 (第10回)	86	「本態性高血圧症の病因、病態生理に与る諸種降圧系の役割について」	島本 和明	札幌医科大学助教授	100
	87	「冠動脈圧の左室機能に及ぼす動的影響」	砂川 賢二	九州大学助手	100
	88	「塩分負荷高血圧の中樞機構」	高田 豊	九州大学助手	100
	89	「血管平滑筋収縮機構及び血小板放出反応におけるカルモデュリンの役割」	田中 利男	三重大学講師	100
	90	「ATP減少を検出する心筋カリウムチャンネルの性質と役割」	野間 昭典	岡崎国立共同研究機構生理理学研究所助教授	100
	91	「心不全における心室弛緩と心室充満の関連に関する実験的検討」	堀 正二	大阪大学助手	100
1985年 (第11回)	92	「虚血性心疾患におけるロイコトリエンの役割」	伊藤 隆之	名古屋大学講師	100
	93	「圧受容体反射による腰部交感神経活動調節に及ぼすANP投与の効果」	今泉 勉	九州大学助手	100
	94	「虚血により脳組織が不可逆的障害となる血流量、酸素消費量の閾値に関する研究—脳卒中患者のポジトロンCTによる局所脳血流量、酸素消費量の経時的観察」	穴戸 文男	秋田県立脳血管研究センター	100
	95	「変調副調律理論による不整脈モデルの構築と診断治療への応用」	田中 博	東京大学教授	100
	96	「心房性ナトリウム利尿ポリペプチドの臨床応用」	中尾 一和	京都大学助手	100
	97	「容量及び浸透圧負荷時のラット心房性ナトリウム利尿ペプチドの動態及び利尿反応の検討」	平田 恭信	東京大学助手	100
	98	「培養血管平滑筋及び内皮細胞と心由来間葉細胞における心房性Na利尿ペプチドの受容体の解析とその作用機構」	平田結喜緒	国立循環器病センター研究所室長	100
	99	「動脈硬化のInitiating Factorとしての血栓の役割—血流のマイクロレオロジーの立場から」	福嶋 孝義	信州大学講師	100
	100	「化学修飾リポ蛋白に対するマクロファージ系細胞のスカベンジャー機能—細胞内コレステロール蓄積機構解明への実験的アプローチ」	堀内 正公	熊本大学講師	100
	101	「 ¹¹¹ In 標識抗心筋ミオシン重鎖モノクローナル抗体を用いた実験的急性心筋梗塞の画像診断法—定量的評価」	山沖 和秀	東京大学助手	100
	1986年 (第12回)	102	「血管収縮の閉塞性血栓形成に及ぼす影響—生体顕微鏡を用いた実験的研究」	荒木 春夫	熊本大学助教授
103		「血管壁プロテアーゼによるアンジオテンシンII生成と高血圧」	奥西 秀樹	滋賀医科大学助手	100
104		「心筋虚血進展における多核白血球活性化の意義：リポキシゲナーゼ反応の役割について」	葛谷 恒彦	大阪大学助手	100
105		「視床下部由来Na・K・ATPase抑制因子の本態性高血圧症における役割の解明」	後藤 淳郎	東京大学助手	100
106		「高血圧動物における、心臓で新しく発見されたペプチド作動性神経の研究」	斉藤亜紀良	筑波大学講師	100
107		「経食道ドップラ断層法による解離性大動脈瘤の構造と血流動態に関する研究—その手術術式、予後との関連について」	高本 眞一	埼玉医科大学講師	100
108		「心筋α-アドレナリン作動性受容体の細胞膜刺激伝達機構」	辻本 豪三	山梨医科大学助手	100
109		「特発性心筋症の病態生理の解析：細胞工学を用いた収縮及び収縮調節蛋白の分子生理学検討」	土持 英嗣	東京大学	100
110		「高血圧自然発症ラット(SHR)の膜機能異常とカルモジュリン遺伝子」	野島 博	自治医科大学講師	100
111		「ヒト単球LDLレセプターからマクロファージ、スカベンジャーレセプターへの変換機構」	平松 和子	東海大学講師	100
1987年 (第13回)		112	「移植心拒絶反応の研究：拒絶反応に関与するリンパ球のカルシウム動態の検討」	上田 恵介	埼玉医科大学助手
	113	「サイクリックAMPによる血管内皮細胞傷害の機構」	上田 清悟	東京都老人医療センター 医長	100

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
1987年 (第13回)	114	「局所脳虚血による神経機能障害」	片岡 和夫	大阪大学	100
	115	「血管平滑筋細胞の増殖制御機構におけるCキナーゼの役割とその病態」	川原 康洋	神戸大学助手	100
	116	「Ca拮抗剤によるヒト血管平滑筋Caチャンネルの修飾作用」	国分真一郎	東京慈恵会医科大学講師	100
	117	「末期重症心不全患者の救命・治療を目的とした日本人用全人工心臓システムの開発とその応用に関する研究」	妙中 義之	国立循環器病センター 研究所室長	100
	118	「動脈硬化巣内平滑筋細胞の発現型に関する研究—単クローン抗体による検討」	塚田 豊弘	三楽病院院長	100
	119	「単一心筋におけるNa/Kポンプ電流の膜電位依存性に関する研究」	中尾 正和	広島大学助手	100
	120	「心筋 α_1 リセプターを介する膜電流変化のパッチクランプ法による解析」	堀江 稔	京都大学	100
	121	「 ^{31}P -NMR連続スペクトル走査法の開発による筋細胞内エネルギー動態の解析」	吉崎 和男	京都府立医科大学講師	100
	1988年 (第14回)	122	「心電図マッピングによる心筋虚血時の心電図変化の実験的検討」	池田こずえ	山形大学助手
123		「開心術中の心筋組織pHのモニタリングによる心筋保護法の評価に関する検討」	大谷 肇	関西医科大学助手	100
124		「光ファイバ型ドプラ血流速計による心筋深部冠血行動態の解析」	小笠原康夫	川崎医科大学講師	100
125		「心筋Caチャンネルの調節機構」	亀山 正樹	岡崎国立共同研究機構生 理学研究所助手	100
126		「ウイルス性心筋炎進展における抗原特異的T細胞の意義」	岸本 千晴	富山医科薬科大学助手	100
127		「心肥大及びアイソフォーム変換の機序に関する分子生物学的研究」	小室 一成	東京大学	100
128		「システム解析法を用いた新しい運動負荷法の開発」	陶山 晶子	九州大学	100
129		「心筋及び平滑筋細胞における収縮制御蛋白質遺伝子の発現制御機構」	高橋 克仁	愛媛大学	100
130		「血管培養細胞による血小板活性化因子及びエイコサノイドの産生—血球、血漿因子との相互反応及びシグナル伝導システムによる制御」	高山 博史	福井医科大学助手	100
131		「ポジトロンCTによるエネルギー代謝画像を用いた虚血心筋の障害程度の評価の試み」	玉木 良長	京都大学助手	100
132		「血管平滑筋ミオシンのアイソフォームの発現と、生理的機能に関する基礎的検討」	永井 良三	東京大学講師	100
133		「未治療男性高血圧者における通常の仕事日の血圧値と左室形態、機能との関連—24時間携帯自動血圧計を用いた患者対照研究」	馬場 俊六	国立循環器病センター	100
134		「脳梗塞易発症砂ネズミの系統樹立」	松本 昌泰	大阪大学助手	100
135		「家族性高コレステロール血症における低比重リポ蛋白(LDL)レセプター変異の解析」	三宅 康子	国立循環器病センター研 究所室長	100
136		「心臓のK ⁺ チャンネル遺伝子クローニング」	横山 茂	金沢大学助手	100
1989年 (第15回)		137	「心肥大の成因としてのNa K-ATPase—遺伝子レベルでの検討」	池田 宇一	自治医科大学助手
	138	「アテローム硬化巣のマクロファージ及び内膜平滑筋細胞の泡沫化におけるリポ蛋白リパーゼの役割」	池田 康行	国立循環器病センター 研究所	100
	139	「高齢化社会での脳卒中、心筋梗塞発症予防に関する疫学的研究—CT検査により病型分類した脳卒中及び都市・農村の心筋梗塞と血中脂肪酸組織・凝固因子との関連」	磯 博康	大阪府立成人病センター	100
	140	「心筋小胞体Ca放出チャンネルの構造と機能—カテコールアミンの β 刺激による活性調節」	今川 敏明	国立循環器病センター 研究所	100
	141	「低酸素—再酸素化に伴う冠血管平滑筋の弛緩障害」	岡田 隆夫	順天堂大学講師	100

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
1989年 (第15回)	142	「心筋の起電性 Na-Ca 交換の輸送形式」	木村 純子	山形大学助手	100
	143	「細胞内カルシウムの動態異常が虚血・再灌流障害に果たす役割：多核種 NMR 法を用いた摘出灌流心における直接的検討」	楠岡 英雄	大阪大学助手	100
	144	「血管内皮細胞における血流にตอบสนองする遺伝子発現調節機構の解明」	栗原 裕基	東京大学	100
	145	「ナトリウム利尿ペプチドファミリーの循環器疾患における臨床的意義に関する研究」	斎藤 能彦	京都大学	100
	146	「心筋の新しいカルシウム結合蛋白質の分子機能に関する研究」	田中 利男	三重大学教授	100
	147	「細胞レベルでの情報伝達からみた高血圧の病態生理に関する研究」	津田 和志	和歌山県立医科大学助手	100
	148	「レーザーによる冠動脈形成術の基礎的・臨床的検討」	中村 文隆	東京大学	100
	149	「ずり応力の血管内皮 von Willebrand 因子分泌。プロトロンビナーゼ活性におよぼす影響」	服部 隆一	京都大学助手	100
	150	「食塩感受性ラットの高血压発症における腎髄質遠位尿管上皮細胞の増殖の役割」	馬場 是明	長崎大学	100
	151	「Na ⁺ 排泄に対する神経性及びホルモン性の調節機構」	森田 啓之	香川医科大学講師	100
1990年 (第16回)	152	「Na チャネル抑制薬と心筋細胞 Na チャネルとの相互作用について」	安野 尚史	名古屋大学助手	100
	153	「ポジトロンエミッショントモグラフィを用いた虚血性心疾患における局所酸素代謝量、局所血流量、梗塞巣における心筋組織残存率の定量的かつ非侵襲的測定及びその病態生理に関する研究」	飯田 秀博	秋田県立脳血管研究センター	100
	154	「くも膜下出血後脳血管攣縮における内皮細胞由来血管収縮性及び弛緩性物質の役割」	伊藤 猛雄	九州大学講師	100
	155	「平滑筋の収縮・弛緩反応における分子メカニズムの解析」	伊藤 正明	三重大学助手	100
	156	「静脈系からの逆行性脳灌流に関する研究」	碓氷 章彦	名古屋大学	100
	157	「K ⁺ チャンネル活性を示す新しい膜蛋白 (Isk) の構造と機能に関する分子生物学的研究」	大久保博晶	京都大学助教授	100
	158	「細胞内 pH 及び血小板容積変化を用いた血小板 Na ⁺ /H ⁺ 交換経路活性の測定。高血压症のコントロール評価への応用」	尾崎由基男	山梨医科大学講師	100
	159	「肺微小血管圧の直接測定—エンドセリンとエンドトキシン障害肺との関連」	鬼塚 正孝	筑波大学講師	100
	160	「組織レニンアンジオテンシン系の生理学的意義(循環血中アンジオテンシン II に対する人工心肺下肺切除の影響)」	川村 実	国立循環器病センター	100
	161	「慢性高頻拍刺激による可逆性心不全犬モデルにおける興奮-収縮連関異常のメカニズム解明」	木原 康樹	富山医科薬科大学助手	100
	162	「ウイルス性心筋炎及び拡張型心筋症における心筋細胞障害機構の解明と予防・治療法の開発」	世古 義規	東京大学	100
	163	「地域集団における高血圧危険因子の分子遺伝学的解析」	竹下 達也	山梨医科大学助手	100
	164	「収縮蛋白質 isoform の分化と筋原線維形成に関する分子生物学的・細胞生物学的研究」	豊田 直二	千葉大学講師	100
	165	「動脈硬化の発生進展における免疫担当細胞とサイトカインの役割」	益田 順一	国立循環器病センター研究所	100
	166	「脂肪酸活性化酵素とその遺伝子ファミリーの構造と機能」	山本 徳男	東北大学助教授	100
	1991年 (第17回)	167	「ヒトエンドセリン受容体のクローニング、及び遺伝子構造の解析」	荒井 宏司	京都大学
168		「心筋症ハムスターの灌流心におけるアンジオテンシン II の作用と 1,2-ジアシルグリセロールの産生」	奥村 健二	名古屋大学	100

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
1991年 (第17回)	169	「光学的計測による脳梗塞急性期における病巣回復可能領域の画像化—神経活動の電圧感受性色素・受光素子アレイによる画像化」	黒岩 俊彦	東京医科歯科大学助教授	100
	170	「自己免疫性心筋細胞傷害の機序の解明—新しい動物モデルを用いた検討」	小玉 誠	新潟大学	100
	171	「蛍光 Ca/Mg 指示薬 furaptra の細胞内への微小注入による温血動物単離心室筋細胞内 Ca transient 及び静止時 Mg 濃度の測定」	小西 真人	東京慈恵会医科大学講師	100
	172	「血管病(動脈硬化・高血圧・血管攣縮)における細胞内情報伝達機構の異常」	小林 誠	九州大学助教授	100
	173	「心血管系におけるアルギニン-NO 産生系の意義に関する研究」	小林 裕太	島根医科大学助手	100
	174	「電磁石によるプースターアクチュエーターを内蔵した骨格筋駆動型人工心臓の開発」	榊原 直樹	金沢大学助手	100
	175	「アドレナリン受容体の細胞内シグナル伝達機構の解明と新しい細胞内機能制御法の確立」	西本 育夫	東京大学助手	100
	176	「Nitric Oxide(NO) 合成酵素の cDNA 塩基配列決定と組織における酵素の発現、局在」	服部 隆一	京都大学助手	100
	177	「経皮経管拡張法後の再狭窄に対するアンチセンスオリゴマー導入による予防治療法の確立」	檜垣 實男	大阪大学助手	100
	178	「ブラジル日系人における栄養と循環器疾患の関係に関する移民研究」	水嶋 春翔	島根医科大学	100
	179	「交互配列静磁場の動脈内皮再生促進効果に関する基礎的研究」	宮脇富士夫	東京女子医科大学講師	100
180	「カテーテル先端型リアルタイム冠血流量計測装置の開発と臨床応用」	山岸 正和	国立循環器病センター	100	
181	「急性左室容量負荷の心室再分極特性、心室不整脈に与える影響」	八巻 通安	山形大学助手	100	
1992年 (第18回)	182	「微小血管性狭心症の病態生理における血管内皮細胞機能異常の役割に関する臨床研究」	江頭 健輔	九州大学助手	100
	183	「心筋梗塞発症までの危険因子の経年変化」	川村 孝	愛知県総合保健センター室長	100
	184	「高感度ニードル型 CCD マイクロスコープを用いた心内膜側微小循環の解析」	後藤 真己	川崎医療短期大学助教授	100
	185	「イン・ビトロ再構成系を用いた心筋収縮システムの研究」	杉浦 清了	東京大学	100
	186	「動脈硬化の抑制に関わる遺伝子群の解析—カルボニン遺伝子転写調節領域の解明と平滑筋分化誘導遺伝子のクロニング」	高橋 克仁	大阪府立成人病センター主査	100
	187	「ラット心臓移植モデルを用いた抗 T 細胞抗原レセプター抗体による移植片生着延長機序の解析」	田中 和生	九州大学助手	100
	188	「血管平滑筋細胞における受容体情報伝達機構の解明」	西村 淳二	九州大学講師	100
	189	「高血圧易発症ラット (SHR) における L-アルギニンの低値と高血圧との関連について」	長谷川卓志	日本医科大学講師	100
	190	「心臓移植後動脈硬化性病変進行における細胞間接着因子の役割」	半田 宣弘	埼玉医科大学助手	100
	191	「経皮的冠動脈形成術後の再狭窄の予防法に関する研究—Targeted Toxin Therapy の応用」	枇榔 貞利	鹿児島大学助手	100
	192	「Na,K-ATPase α サブユニット間の電気生理学的性状の相違に関する検討」	古川 哲史	東京医科歯科大学	100
	193	「心筋虚血障害に対する耐性獲得とその成因に関する研究—フリーラジカル消去系酵素の役割」	星田 四朗	大阪大学助手	100
	194	「心筋クロール・チャネルの分子機構の解明—電気生理 (パッチ・クランプ) 及び遺伝子工学的手法を用いて」	堀江 稔	京都大学助手	100
	195	「Conduction 反応における細動脈平滑筋細胞及び内皮細胞間の Cell-Cell Communication: electrical coupling と dye coupling の定量化」	松木 孝道	信州大学助手	100

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
1992年 (第18回)	196	「高血圧発現機序の解析：細胞内情報伝達系因子の分子生物学的解析」	八木沢 仁	姫路工業大学助教授	100
1993年 (第19回)	197	「変異型受容体遺伝子導入による心血管系における細胞増殖因子(PDGF, FGF, VEGF)の生体内作用の解明」	上野 光	九州大学講師	100
	198	「日本の脳卒中・心筋梗塞死亡率の地域格差の推移と危険因子との関連及び死亡率の予測に関する疫学的研究」	岡山 明	滋賀医科大学講師	100
	199	「脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)遺伝子過剰発現及び欠損マウスの開発」	小川 佳宏	京都大学	100
	200	「DISCORDANT 異種心臓移植における異種抗体減量の効果—脾臓摘出とFK506による移植前処理の機序」	川内 基裕	東京大学助手	100
	201	「Ischemic preconditioningの心筋壊死縮小効果におけるアデノシン産生酵素活性化の意義」	北風 政史	大阪大学	100
	202	「新しい降圧ペプチド“アドレノメデュリン”(AM)の研究」	北村 和雄	宮崎医科大学助手	100
	203	「哺乳類の第2のCNP、末梢型CNP(C型ナトリウム利尿ペプチド)の検索」	児島 将康	国立循環器病センター研究所	100
	204	「ラットを用いた新たな冠微小循環障害モデルの開発とその治療への応用」	佐久間一郎	北海道大学	100
	205	「レーザ光による超微操作系を用いた心筋クロスブリッジの張力測定」	佐田 政隆	東京大学	100
	206	「両側性脳主幹動脈閉塞症の脳循環動態に関する研究—動脈硬化性両側性脳主幹動脈閉塞症とウイルス動脈輪閉塞症の対比」	篠原 保	慶應義塾大学助手	100
	207	「抗心筋抗体のイオンチャネル活性化機序の解明」	富永 真琴	岡崎国立共同研究機構生理学研究所助手	100
208	「冠微小血管内皮細胞による心筋細胞表現型の修飾機構：混合培養系を用いた検討」	西田 昌司	大阪大学	100	
209	「活性酸素による心筋細胞の障害とそのメカニズムの解明」	橋爪 裕子	旭川医科大学講師	100	
210	「心臓支配の迷走及び交感神経活動による心拍動制御機構とその破綻に関する基礎研究」	松川 寛二	国立循環器病センター研究所室長	100	
211	「心血管系細胞におけるNa,K-ATPase遺伝子の発現と病態への関与」	山本 啓二	自治医科大学	100	
1994年 (第20回)	212	「虚血性脳組織障害の不可逆性決定要因の究明—分子メカニズムから画像計測まで」	上田 周一	大阪大学	100
	213	「低酸素環境における血管平滑筋の増殖メカニズムの解明」	小川 智	大阪大学	100
	214	「心形態形成におけるホメオテック遺伝子Msx-1およびMsx-2の機能に関する研究」	里方 一郎	新潟大学講師	100
	215	「動脈硬化病変における平滑筋細胞の形質変換および増殖の病因としてのサイトカインの役割」	田中 啓之	東京医科歯科大学助手	100
	216	「血清脂質、アポ蛋白におよぼす遺伝子多型とライフ・スタイルの交互作用に関する研究」	中山 健夫	東京医科歯科大学助手	100
	217	「エンドセリンの心筋細胞イオン・チャネル機能に対する作用—パッチクランプ法と生化学的手法を用いた研究」	James Andrew Frederick	岡崎国立共同研究機構生理学研究所	100
	218	「実験的高血圧心における心内臓側微小血管の拍動パターンおよび血管反応性の解析」	矢田 豊隆	川崎医科大学助手	100
	219	「高血圧負荷によって生じる心肥大・心機能不全の発生機序の解明とその機序に基づいた治療・予防法の開発」	山崎 力	東京大学助手	100
	220	「急性心筋梗塞症における酸素代謝に関する研究」	山本 雄祐	国立循環器病センター	100
	221	「LDL受容体の肝細胞内輸送機構(ソーティング)とそれに基づくリポ蛋白代謝異常の解析のためのトランスジェニックマウスの開発」	横出 正之	京都大学講師	100

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
1995年 (第21回)	222	「心筋 K ⁺ チャンネルクローンの電流とネイティブな K ⁺ 電流との相違をもたらす原因の解明」	石井 邦明	東北大学講師	100
	223	「心筋 Ca シグナリング蛋白質の遺伝子発現調節機構の解明」	大津 欣也	大阪大学	100
	224	「脳虚血時における神経細胞死防御遺伝子蛋白に関する発現メカニズム」	加納 道久	豊橋市民病院副部長	100
	225	「無拍動流体循環の循環生理に関する実験的研究」	巽 英介	国立循環器病センター研究所室長	100
	226	「アデノウイルスベクターを用いた vascular endothelial growth factor 遺伝子発現の虚血性疾患に対する治療的応用」	橋本 悦男	東京大学	100
	227	「分子トレーサを用いた血流分布デジタル画像解析による高血圧心・毛細血管床レベルにおける冠血流調節異常の解明」	松本 健志	川崎医療短期大学講師	100
	228	「心不全の進展におけるエンドセリンの関与に関する分子生物学的検討とそれに基づいた新しい治療法の開発」	宮内 卓	筑波大学講師	100
	229	「肥満関連遺伝子 obese 産物の肥満の病態生理への関与に関する研究」	村上 尚	徳島大学助手	100
	230	「 <i>In vivo</i> 遺伝子導入法を用いた中枢性血圧調節機構の解明」	守口 篤	大阪大学助手	100
	231	「ラット培養心筋細胞のアポトーシスによる電気生理学特性の変化」	安井 健二	名古屋大学	100
1996年 (第22回)	232	「脳循環系における血管の新生と分化」	池田 栄二	慶應義塾大学助手	100
	233	「虚血性脳障害の発生、進展における細胞接着因子の関与 - ICAM1 ノックアウトマウスを用いた検討」	北川 一夫	大阪大学	100
	234	「循環器疾患の危険因子としての血漿フィブリノーゲン値に関する追跡研究」	佐藤 眞一	大阪府立成人病センター主任	100
	235	「高血圧症と無症候性脳血管障害の原因遺伝子に関する疫学的研究」	辻 一郎	東北大学助教授	100
	236	「心肥大の細胞内情報伝達機構における低分子量 G 蛋白 Rho の意義の解明」	中川 修	京都大学助手	100
	237	「gp130 活性化によって引き起こされた心肥大における核内情報伝達機構の解明」	長谷川浩二	京都大学	100
	238	「アポ蛋白(a) 過剰発現トランスジェニックウサギ・モデルの開発とその動脈硬化研究への応用」	范 江霖	筑波大学講師	100
	239	「肥大心および不全心における心筋収縮力の長さ依存性調節とその細胞内機序」	本郷 賢一	東京慈恵会医科大学助手	100
	240	「ヒト血管内皮細胞における NO 合成酵素遺伝子の発現とその調節メカニズムの解析」	宮原 馨	高知医科大学助手	100
	241	「冠攣縮性狭心症の発症機序における血管内皮型一酸化窒素合成酵素遺伝子変異の関与」	吉村 道博	熊本大学助手	100
1997年 (第23回)	242	「ヒト心血管系における新規ミオシンホスファターゼ調節サブユニットの機能解析」	市川 和人	三重大学	100
	243	「ノックアウトマウスを用いた未知のエンドセリン変換酵素の単離および解析」	江本 憲昭	神戸大学助手	100
	244	「前向き研究による高血圧原因遺伝子の同定」	勝谷 友宏	大阪大学	100
	245	「0℃未満心筋未凍結温度 (-1℃) 領域における心保存効果の実験的研究」	坂口 秀仁	奈良県立医科大学助手	100
	246	「ヒト心筋特異的ホメオドメイン蛋白 CSX の機能解析」	塩島 一朗	東京大学	100
	247	「脳血管障害における IL-6 と赤血球凝集能の経時的変化について」	高尾 昌樹	慶應義塾大学助手	100
	248	「インターロイキン 15 の血管内皮の成長調節における役割」	中野 正幸	群馬大学	100

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
1997年 (第23回)	249	「血管内皮細胞増殖の接触抑制を制御するタンパク質の単離同定」	平野 勝也	九州大学講師	100
	250	「洞房結節におけるイオンチャネルの多様性に関する研究」	本荘 晴朗	名古屋大学助手	100
	251	「心筋細胞障害における calpain 活性化の役割—心筋細胞内 calpain 活性の計測」	松村 泰志	大阪大学助手	100
1998年 (第24回)	252	「洞房結節における過分極誘発陽イオンチャネルの分子解析」	石井 孝広	京都大学助手	100
	253	「心臓におけるカベオリンと cAMP シグナルの関連」	石川 義弘	横浜市立大学講師	100
	254	「Mints 1 & 2 が脳循環障害過酸化ストレスによる蛋白分解異常に果たす役割」	岡本 昌也	兵庫医科大学助手	100
	255	「心筋細胞特異的 VEGF 過剰発現による圧負荷心再構築に対する血管新生治療」	甲斐 久史	久留米大学助手	100
	256	「心不全進展におけるエンドセリンの心筋細胞傷害作用の関与に関する研究」	酒井 俊	筑波大学助手	100
	257	「自己細胞と吸収性ポリマーを用いた組織工学による心血管外科用補填材料の開発、応用」	新潟 俊治	東京女子医科大学助手	100
	258	「移植心冠動脈硬化の病態と遺伝子治療」	鈴木 淳一	信州大学助手	100
	259	「AT1 受容体の活性化機構および非ペプチド性拮抗薬の結合部位の解明」	野田 慶太	福岡大学講師	100
	260	「デコイ法を用いた高血圧関連遺伝子の組織特異的遺伝子発現機構の解明」	森下 竜一	大阪大学助手	100
	261	「能動的負荷による心筋細胞肥大の形成と翻訳調節の役割」	和田 久泰	岐阜大学助手	100
1999年 (第25回)	262	「伸展刺激による心筋細胞肥大における Rho ファミリータンパクの役割」	相川 竜一	東京大学助手	100
	263	「血管内皮機能よりみた肺高血圧症の発症機構と治療に関する基礎的研究」	大池 正宏	九州大学講師	100
	264	「脳虚血による神経細胞死を救う試み」	玉谷実智夫	大阪大学助教授	100
	265	「アドレノメデュリン投与による心不全治療および肺高血圧治療の臨床評価」	永谷 憲歳	国立循環器病センター	100
	266	「外因性(食事由来)リポ蛋白の動脈硬化惹起性に関する研究—外因性リポ蛋白マーカーとしての血清アポ蛋白 B-48 の測定法の開発とその臨床的意義に関する研究」	平野 賢一	大阪大学	100
	267	「心筋におけるサイトカインの分子制御に関する研究」	廣田 久雄	大阪大学助手	100
	268	「心筋細胞に発現する新規カリウムチャネル cTBAK の生理的役割の解明」	藤田 秋一	大阪府立大学助手	100
	269	「遺伝子組換えヒト神経幹細胞の移植による脳卒中の治療」	本望 修	札幌医科大学助手	100
	270	「キメラマウスを用いたアンジオテンシンによる心臓繊維化進展機構の研究」	松阪 泰二	東海大学講師	100
	271	「自己骨髄単核球細胞移植による心筋梗塞後血管新生療法の実験的試み」	室原 豊明	久留米大学講師	100
2000年 (第26回)	272	「モデル動物を用いた multiple risk factor 症候群の遺伝的基盤の解明」	加藤 規弘	帝京大学講師	100
	273	「難治性肺循環障害における炎症学的機序および肺血管内皮障害の関与の検討」	坂巻 文雄	国立循環器病センター	100
	274	「トランスジェニック動物を利用した異種間心臓移植に関する研究」	佐田 政隆	東京大学	100
	275	「カルシニューリン活性化阻害による心不全治療の検討」	下山 晶樹	鳥取大学	100
	276	「ジャンクトフィリンと心臓機能」	竹島 浩	久留米大学教授	100
	277	「本態性高血圧症、心筋梗塞、脳梗塞の発症に関連する候補遺伝子の検索」	中山 智祥	日本大学助手	100

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
2000年 (第26回)	278	「内皮由来過分極因子(EDHF)の血管新生作用機構の解明と臨床応用」	野出 孝一	大阪大学	100
	279	「心筋における JAK-STAT シグナル伝達系の標的遺伝子の解析」	藤尾 慈	大阪大学	100
	280	「移植心冠動脈硬化症に対するサイトカイン/抗サイトカイン療法の開発」	古川 裕	京都大学	100
	281	「くも膜下出血後の脳血管攣縮における細胞障害因子に関する研究」	谷中 清之	筑波大学講師	100
2001年 (第27回)	282	「心筋特異的転写因子 CSX と相互作用する新規 LIM タンパク CAL の機能解析」	赤澤 宏	千葉大学	100
	283	「病的肥大心と生理的肥大心の成立機序の差違に関する分子生物学的検討」	柿沼 由彦	筑波大学	100
	284	「心筋胎児型遺伝子発現調節因子 NRSF の心不全発症における役割の解明」	桑原宏一郎	京都大学	100
	285	「心筋細胞での BMK1 活性化の意義: トランスジェニックマウスによる検討」	竹石 恭知	山形大学講師	100
	286	「大腸菌人工染色体・遺伝子導入マウスによる血圧制御関連転写因子の解析」	谷本 啓司	筑波大学講師	100
	287	「地域一般住民での高血圧関連遺伝子の遺伝要因と生活習慣に関連する研究」	環 慎二	滋賀医科大学助手	100
	288	「ミトコンドリア病モデルマウスを用いた mtDNA の突然変異と心筋症の因果関係の解明」	中田 和人	筑波大学講師	100
	289	「末梢性血管疾患に対する骨髄細胞移植-新生血管での血管内皮機能評価」	東 幸仁	広島大学	100
	290	「動脈硬化病変形成における感染症の関与と Interleukin 関連遺伝子多型の影響」	樺山 幸彦	防衛医科大学助手	100
	291	「胚性幹細胞を用いた内皮分化制御因子の同定と内皮再生治療への応用」	山下 潤	京都大学助手	100
2002年 (第28回)	292	「心血管系疾患における APV 受容体の生理機能に関する研究」	石田 純治	筑波大学助手	100
	293	「血管平滑筋細胞の増殖、遊走、細胞外基質産生における PROTEIN KINASE C (PKC) ISOENZYME の機能に関する研究」	伊東 啓行	九州大学助手	100
	294	「移植後冠動脈硬化症進展における PPAR γ の意義」	岡田 健次	神戸大学助手	100
	295	「心臓粘液腫の成因に関する分子病理学的検討: 未分化幹細胞の関与とその意義」	小玉 博明	慶應義塾大学	100
	296	「脂肪細胞由来内分泌因子および脂質応答性転写因子の動脈硬化に対する影響の研究」	下村伊一郎	大阪大学教授	100
	297	「3歳時の社会経済環境・生活習慣と小児肥満に関する10年間の追跡研究」	関根 道和	富山医科薬科大学講師	100
	298	「ヘリコバクターピロリ除菌の血管内皮機能に及ぼす効果の検討」	寺川 宏樹	広島大学助手	100
	299	「骨髄単球系細胞移植による内膜障害血管再狭窄予防を目的とした内皮再生医療」	藤山総一郎	関西医科大学	100
	300	「心筋虚血時の細胞外シグナル伝達因子による体内環境シンクロナイズ機能」	水上 洋一	山口大学助教授	100
	301	「局所脳虚血におけるプロスタグランジンの役割: 神経受容体機能・脳循環代謝との関連」	横田 千晶	国立循環器病センター研究所	100
2003年 (第29回)	302	「骨形成蛋白(BMP)システムの異常による原発性肺高血圧症の発症機序の研究」	大塚 文男	岡山大学助手	100
	303	「血管内皮 barrier 機能を制御する shear stress 関連新規 RhoGTPase の標的分子の同定」	小室竜太郎	大阪大学	100
	304	「冠動脈プラークにおける免疫学的機序の研究」	副島 弘文	熊本大学助手	100
	305	「心筋トロポニンのリン酸化とカルシウム調節機構の構造的な研究と創薬への応用」	武田 壮一	国立循環器病センター研究所室長	100

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
2003年 (第29回)	306	「新規 HB-EGF 結合蛋白 Nardilysin の心血管疾患における病理学的意義の検討」	西 英一郎	京都大学助教授	100
	307	「血栓標的性ナノパーティクルを利用した超音波破砕による非侵襲的血栓溶解療法の開発」	萩沢 康介	防衛医科大学	100
	308	「AKT による血管細胞老化の誘導メカニズムとその病態生理学的意義の検討」	南野 徹	千葉大学助手	100
	309	「肥満動物脂肪細胞における中性脂肪合成系遺伝子発現の負のフィードバック機構の研究」	矢作 直也	東京大学	100
	310	「P75 特異的結合ペプチドによる中枢神経軸索再生」	山下 俊英	大阪大学助教授	100
	311	「リアノジン受容体の安定化による心不全抵抗性心筋細胞作成の試み」	山本 健	山口大学助手	100
2004年 (第30回)	312	「遺伝性心筋症におけるクロマチン構造関連蛋白質 LAMR1 を介した新規病態機序の解明」	朝野 仁裕	大阪大学	100
	313	「ヒト心筋及び骨格筋から心筋再生医療に用いる心筋幹細胞株の樹立」	王 英正	京都大学助教授	100
	314	「遺伝疫学から解析する高血圧におけるインスリン抵抗性の意義—端野・壮瞥研究」	勝谷 友宏	大阪大学講師	100
	315	「プロスタシンによる食塩感受性高血圧症発症機序の解明および診断・治療への応用」	北村健一郎	熊本大学助手	100
	316	「心臓血管病の発症・進展における新規プロテオグリカン podocan の役割」	清水 良子	慶應義塾大学助手	100
	317	「虚血・腫瘍・発生におけるアドレノメデュリンの血管新生作用」	新藤 隆行	東京大学助手	100
	318	「アルドステロンによる血管内皮細胞障害作用の研究—遺伝子改変マウスによる検討」	長田 太助	京都医療センター室長	100
	319	「動脈弾性板の形成における DANCE と LTBP2 の役割の解明」	中邨 智之	京都大学助教授	100
	320	「Ca ²⁺ 結合タンパク質 NCS-1 の新規機能としての心筋保護効果とその作用機構の解明」	西谷 友重	国立循環器病センター研究所室長	100
	321	「胎生期及び成体期における血管幹細胞の単離及びその虚血性疾患への応用」	山田 賢裕	金沢大学がん研究所	100
2005年 (第31回)	322	「小児開心術における人工心肺に伴う Glucose Spike の炎症誘起」	安藤 誠	榊原記念病院	100
	323	「アンジオポエチン様増殖因子 (AGF) の血管新生及び抗動脈硬化作用の分子機構」	尾池 雄一	慶應義塾大学講師	100
	324	「機械的補助循環時の心補助効果に対する心筋細胞機械受容チャネルの影響のモデル解析」	大内 克洋	東京医科歯科大学助手	100
	325	「脂肪細胞分化制御に関する遺伝子の網羅的解析—脂肪由来エンケファリンを標的としたメタボリックシンドローム治療法の開発」	尾野 亘	京都医療センター室長	100
	326	「循環器疾患予防のための血管内皮機能評価：明日香村研究」	斉藤 功	奈良県立医科大学講師	100
	327	「血清 DNase I 活性上昇は超早期の急性心筋梗塞の診断マーカーになる」	竹下 治男	島根大学教授	100
	328	「ペリオスチン特異的中和抗体による心不全治療薬の開発」	谷山 義明	大阪大学助手	100
	329	「心筋リモデリングにおけるカテプシン S の分子病態生理学的意義及び心機能障害マーカーとしての有用性に関して」	成 憲武	名古屋大学助手	100
	330	「G タンパク質を介した心筋線維化のメカニズム解析」	西田 基宏	九州大学講師	100
	331	「アテローム動脈硬化に関与するマクロファージ特異的 microRNA 群の同定」	深尾 太郎	東京大学助手	100
2006年 (第32回)	332	「カルシウム結合蛋白 S100A4 の制御による新規心不全治療法の開発」	岩永 善高	京都大学講師	200

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
2006年 (第32回)	333	「循環器疾患予防抑制のための脳血管画像評価：前高齢期の疫学調査と新たな行政戦略」	金井 恵理	京都府立医科大学助手	200
	334	「動脈硬化進展におけるアドレノメデュリン-RAMP2 システムの役割」	新藤 隆行	信州大学教授	200
	335	「血管疾患における酸化傷害の直接検出法の開発ならびに解析」	鈴木 亨	東京大学	200
	336	「末梢血単核球細胞移植による虚血組織再生の分子機序」	館野 馨	千葉大学	200
	337	「動脈硬化病変の活動性と治療効果に対して FDG-PET を用いた新しい判定法の開発」	田原 宣広	久留米大学助手	200
	338	「心不全患者への夜間 ANP 持続投与による睡眠時呼吸障害および血行動態改善効果の検討」	土肥 薫	三重大学	200
	339	「心血管病発症におけるアディポネクチンとアクアポリンの分子機構の解明」	前田 法一	大阪大学	200
	340	「小型魚類を用いた心筋再生遺伝子のスクリーニング」	牧野 伸司	慶應義塾大学助手	200
	341	「新規 non-coding RNA の大血管および心臓発生への関与」	渡辺 徳光	東京大学助手	200
2007年 (第33回)	342	「心筋ミオシン軽鎖リン酸化制御に基づく心不全新規治療戦略」	有村 卓朗	東京医科歯科大学助教	200
	343	「物理的力、機械的刺激による心臓発生制御の新機構」	木田 泰之	東北大学助教	200
	344	「酸化ストレス制御による骨格筋機能と運動耐容能改善を目指した新規心不全治療法の開発」	絹川真太郎	北海道大学助教	200
	345	「メタボリックシンドロームの冠動脈プラーク性状および冠動脈インターベンション後の冠微小循環障害に関する検討」	小島 淳	熊本大学助教	200
	346	「線溶酵素の特異的開口放出動態と細胞表面酵素活性発現に対するずり応力の修飾作用」	鈴木 優子	浜松医科大学助教	200
	347	「心筋-内皮細胞間のパラクラインシグナルネットワークと心不全の関連性の検討」	中岡 良和	大阪大学特任助教	200
	348	「動脈硬化の新たな治療標的分子、脱コビキチン化酵素の同定および解析」	中神 啓徳	大阪大学助教	200
	349	「生体内分子イメージング手法によるメタボリックシンドロームに伴う血管機能異常・末梢組織リモデリングの可視化」	西村 智	東京大学	200
	350	「脳血管障害における MKP-1 (MAPkinase phosphatase-1) の機能解析」	山口 淳	千葉大学准教授	200
	351	「胚性幹細胞を用いた心筋細胞分化誘導方法の確立と再生医療への応用」	湯浅 慎介	慶應義塾大学特別研究助手	200
2008年 (第34回)	352	「病院外心停止例の大規模コホートによる心臓突然死予防のための危険因子・前駆症状の検討」	石見 拓	京都大学助教	200
	353	「小型魚類を用いた心筋再生の生体内イメージングと定量的解析の試み」	大石 勲	産業技術総合研究所	200
	354	「骨髄細胞移植による microglia をターゲットとした虚血損傷脳に対する治療法確立の可能性」	木村 英仁	神戸大学特定助教	200
	355	ACE2 - Apelin によるレニン-アンジオテンシン系の制御、心不全の治療研究」	久場 敬司	東京医科歯科大学特任講師	200
	356	「心筋-線維芽細胞関連を担う新しい内因性免疫システムによる心不全進展抑制機構の解明」	真田 昌爾	大阪府立急性期・総合医療センター医長	200
	357	「肺高血圧症に対する骨髄由来血管内皮前駆細胞と抗凝固療法の併用治療効果に関する検討」	佐原 真	東京大学助教	200
	358	「メタボリックシンドローム・個体老化の新規バイオマーカーの探索」	鷹見 洋一	大阪大学	200
	359	「エピジェネティック因子群のフィードバック機能と心肥大回復機構」	竹内 純	東京工業大学特任助教	200
	360	「非アポトーシス性心筋細胞死の分子機構と心不全への関与の解明」	山口 修	大阪大学助教	200

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
2008年 (第34回)	361	「プロスタグランジンEを介するエラスチン蛋白制御による新規先天性心疾患治療の開発」	横山 詩子	横浜市立大学助教	200
2009年 (第35回)	362	「新規遺伝子ARIAの生体内における血管新生および血管発生に対する役割の解明」	池田 宏二	京都府立医科大学助教	200
	363	「心不全発症に関わるシグナルネットワークの解明とその治療法の開発」	伊藤 薫	千葉大学	200
	364	「筋小胞体カルシウム放出チャネル安定化による新しい致死性不整脈の治療法の開発」	奥田 真一	山口大学	200
	365	「酸化ストレス関連遺伝子多型の集積が糖尿病患者の心血管イベント発症に及ぼす影響」	片上 直人	大阪大学	200
	366	「内皮リパーゼを標的とした新たな動脈硬化の治療戦略—遺伝子改変ウサギモデルの応用」	小池 智也	山梨大学助教	200
	367	「ヒトESおよびiPS細胞を用いた血管老化機構の解明と応用」	曾根 正勝	京都大学助教	200
	368	「心臓発生におけるエピジェネティックな遺伝子発現制御機構の解明」	二村 圭祐	大阪大学	200
	369	「ストレス応答性分泌蛋白に着目した動脈硬化性心臓弁・血管病変の新規治療法の開発」	伯野 大彦	防衛医科大学校助教	200
	370	「概日リズムに注目した循環器疾患の予防および時間治療のための基盤研究」	平山 順	東京医科歯科大学特任講師	200
	371	「大動脈瘤関連遺伝子解析と臨床的検討による大動脈瘤のリスク評価の確立」	三宅 紀子	横浜市立大学助教	200
2010年 (第36回)	372	「心不全における胎児型遺伝子発現制御メカニズムの解明と新しい心不全治療の開発」	穴戸 哲郎	山形大学助教	200
	373	「アドレノメデュリン-RAMP2系による血管恒常性制御と治療標的としての展開」	新藤 優佳	信州大学	200
	374	「脳血管病態の制御を基軸としたアルツハイマー病の革新的治療法の開発」	武田 朱公	大阪大学	200
	375	「右室ペーシング治療を行った徐脈性不整脈患者の心機能低下を予測する因子の検討」	田中 秀和	神戸大学助教	200
	376	「 <i>In vivo</i> 心筋ナノイメージングを用いた心筋収縮・弛緩の分子メカニズム解析」	照井 貴子	東京慈恵会医科大学助教	200
	377	「代謝酵素AMPKの新しい基質と心臓における役割」	中野 敦	大阪大学	200
	378	「エンドセリン変換酵素阻害が持つ広範な血管作動性ペプチドへの影響評価とその臨床応用」	中山 和彦	神戸薬科大学助手	200
	379	「マイクロRNAの機能制御による新規動脈硬化予防法・治療法の開発」	堀江 貴裕	京都大学助教	200
	380	「脂肪酸分画および脂肪酸触媒酵素から考える心血管病予防戦略」	松井 弘樹	群馬大学助教	200
	381	「神経血管ガイドランス分子を標的とした新規血管新生治療法の開発」	森谷 純治	千葉大学	200
2011年 (第37回)	382	「心血管病態における細胞修復反応を司る新規DNA修復シグナル経路のプロテオーム解析」	相澤 健一	東京大学特任助教	200
	383	「心臓カルシウムチャネル異常に伴う遺伝性心臓突然死症候群のメカニズム解明」	大野 聖子	滋賀医科大学特任助教	200
	384	「脳由来神経栄養因子による心筋梗塞後の心不全抑制効果の検討」	岡田 将	千葉大学	200
	385	「高血圧関連遺伝子多形による周産期(産褥)心筋症の発症メカニズム解明」	神谷千津子	国立循環器病研究センター	200
	386	「病院外心停止患者における病院内蘇生登録システムの確立と集中治療の実態に関する研究」	北村 哲久	京都大学	200
	387	「脳卒中急性期の病態を反映するトロロビン切断型オステオポンチン測定の有用性」	倉田 美恵	愛媛大学助教	200
	388	「Rho-kinase-Cyclophilin A系による血管恒常性破綻機構の解明と治療戦略の確立」	佐藤 公雄	東北大学助教	200

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
2011年 (第37回)	389	「新規3次元培養システムを用いたiPS細胞による心筋再生療法の開発」	柴 祐司	信州大学助教	200
	390	「心筋細胞におけるグルココルチコイド受容体(GR)の病態生理学的意義の解明」	松橋 智弘	慶應義塾大学助教	200
	391	「DPP-4阻害剤の心血管系疾患における効果」	松原 純一	熊本大学特任助教	200
2012年 (第38回)	392	「冠動脈血管内皮細胞における接着因子VCAM-1誘導機構解析」	神吉 康晴	東京大学	200
	393	「新規バイオマーカー：ペントラキシン3を用いた肺高血圧症の早期発見」	田村 雄一	慶應義塾大学助教	200
	394	「脳細小血管障害における血管内皮機能と血液バイオマーカーに関する研究」	柘津 智久	広島大学	200
	395	「患者iPS細胞由来の心筋細胞を用いた心筋緻密化障害の病態解明」	廣野 恵一	富山大学助教	200
	396	「高血圧における脳内アルドステロン・ミネラルコルチコイド受容体の交感神経亢進機序」	藤田 恵	東京大学特任助教	200
	397	「Rho依存性転写共役因子MRTF-Aの病的血管リモデリングにおける意義の解明」	南 丈也	京都大学	200
	398	「直接心筋誘導を改善するマイクロRNAの同定及びその分子基盤の解明」	村岡 直人	慶應義塾大学助教	200
	399	「肺動脈性肺高血圧症におけるeNOSアンカッピングの関与機序の基礎ならびに臨床的検討」	山本英一郎	熊本大学助教	200
	400	「Biolimus A9 Eluting Stent留置後の冠動脈への副作用－血管内エコーを用いた検討」	若林 公平	昭和大学助教	200
	401	「二次心臓形成領域発生のイメージングによる心臓流出路形成における細胞動態の解明」	渡邊 裕介	東北大学加齢医学研究所助教	200
	2013年 (第39回)	402	「サーチュインファミリーSirt7による血管新生制御機構の解明」	泉家 康弘	熊本大学助教
403		「局所熱パルスによるヒト心筋収縮系の制御－心疾患病態の新規診断法の開発」	大山廣太郎	早稲田大学助教	200
404		「ヒトiPS由来心筋球を用いた新しい細胞移植法の開発」	金澤 英明	慶應義塾大学特任助教	200
405		「心外膜下脂肪組織の多面的病的意義の解明－画像診断と組織学的解析による検討」	北川 知郎	広島大学助教	200
406		「冠動脈CTにおける非狭窄性の非石灰化または混合性プラークの長期予後悪化因子の同定」	高岡 浩之	千葉大学	200
407		「成獣心筋細胞の分裂機序の解明と制御に向けた研究」	武田 憲文	東京大学特任助教	200
408		「深部静脈血栓症における静脈内皮機能について」	竹藤 幹人	名古屋大学病院助教	200
409		「免疫代謝システムの変動に基づく生活習慣病の分子機構の解明」	田中由美子	東京医科歯科大学准教授	200
410		「ハイパースペクトラルイメージングを用いた冠動脈バイパス術評価」	長岡 英気	JA長野厚生連北信総合病院医長	200
411		「急性左心不全を来すHFpEF患者の予後予測における心室動脈連関と左室心筋ストレインの意義－茨城心血管疾患評価研究を用いた報告」	針村 佳江	筑波大学	200
2014年 (第40回)		412	「新しい虚血性心疾患治療法の開発に向けた冠血管形成分子機構の解明」	有田 陽	大阪大学
	413	「長鎖非コーディングRNAによる肺高血圧症のepigenetic病態機構の解明」	片岡 雅晴	慶應義塾大学特任講師	200
	414	「下肢陽圧負荷心エコー図法による大動脈弁狭窄症の予後予測」	楠瀬 賢也	徳島大学助教	200
	415	「心不全における血管－骨髄老化の病態生理学的意義の解明」	清水 逸平	新潟大学特任准教授	200
	416	「心筋オートファジー活性化による左室縮小術後の心筋肥大抑制」	新宮 康栄	北海道大学助教	200
	417	「動的ずり応力による高血圧時の血管機能障害：生体光・微小力学負荷解析」	瀬尾 欣也	自治医科大学助教	200

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
2014年 (第40回)	418	「心筋梗塞時の死細胞の貪食を行う、新しい筋線維芽細胞サブセットの性質解明」	仲矢 道雄	九州大学准教授	200
	419	「カテコラミン誘発性多形性心室頻拍の重症化に關する遺伝な修飾因子の解明」	長谷川 奏恵	柏崎総合医療センター医 長	200
	420	「冠動脈硬化症の進展発症予測のバイオマーカーとしてのRho キナーゼ活性に関する研究」	渡邊 琢也	国立循環器病研究セン ター	200
	421	「Transcatheter aortic valve implantation 患者における血小板凝集能の研究」	渡邊 雄介	帝京大学助教	200
2015年 (第41回)	422	「血管病変における Sirt7 の機能解明」	荒木 智	熊本大学特任助教	200
	423	「冠動脈吻合の数値流体力学および粒子画像流速測定法を用いた流体力学的解析」	飯野 賢治	金沢大学臨床教授	200
	424	「エストロゲンによる肥満制御と動脈硬化抑制機序の解明」	上田 和孝	東京大学特任助教	200
	425	「心筋疾患に対する四次元 CT、経胸壁心エコーを用いた最新心筋ストレイン解析の有用性」	小澤 公哉	千葉大学	200
	426	「全心臓脱細胞化技術を用いた生体組織由来補助人工心臓の作成」	北原 大翔	慶應義塾大学助教	200
	427	「代謝制御による臨床グレードのヒト iPS 細胞由来成熟心筋細胞の作製と創薬への応用」	遠山 周吾	慶應義塾大学助教	200
	428	「心臓サルコイドーシスの発症・進展における局所リンパ管増生および樹状細胞」	永井 利幸	国立循環器病研究セン ター	200
	429	「新規の血管接着因子、JCAD が血栓形成を制御する分子機構の解明」	原 哲也	神戸大学特命助教	200
	430	「新しい心筋ストレイン解析指標を用いた虚血メモリー診断の開発」	増田 佳純	大阪大学助教	200
	431	「大動脈瘤マウスモデルを用いた血管壁の機械刺激応答と弾性線維形成機構の解明」	山城 義人	筑波大学助教	200
2016年 (第42回)	432	「脳血管障害による神経回路の再編と機能回復の機序」	上野 将紀	新潟大学脳研究所 特任教授	200
	433	「死体心臓の脱細胞化三次元細胞骨格とヒト胎児由来間葉系細胞を用いた補助人工心臓の創造」	河西 未央	慶應義塾大学助教	200
	434	「新規長鎖非コード RNA の Frailheart に着目した心臓リモデリングの病態解明」	桑原 康秀	京都大学特任助教	200
	435	「線維芽細胞、ES 細胞から心臓中胚葉細胞を誘導する転写因子の同定及び分子基盤の解明」	貞廣威太郎	慶應義塾大学助教	200
	436	「脳梗塞後の炎症を治癒に導く修復因子の探索」	七田 崇	慶應義塾大学講師	200
	437	「マイクロ RNA を介した心不全病態形成の新規分子探索とその分子機構解明」	田 哲	熊本大学	200
	438	「高齢心不全患者における身体的・社会的フレイルに関する疫学・予後調査」	前川 恵美	北里大学助教	200
	439	「小動物用超音波イメージングシステムによる胎仔心不全の病態解明及び新規治療法の開発」	三好 剛一	国立循環器病研究セン ター	200
	440	「脳梗塞予防の新規標的因子としての頸動脈プラーク内新生血管増生の検討」	山田 清文	兵庫医科大学講師	200
	441	「褐色脂肪不全による新たな心筋リモデリング機構の解明」	吉田 陽子	新潟大学特任助教	200
2017年 (第43回)	442	「脱細胞組織工学で作製される僧帽弁複合体人工弁の開発」	稲葉 佑	慶應義塾大学助教	200
	443	「心筋細胞核クロマチン形態解析による新たな心不全可塑性予測」	神崎万智子	大阪大学	200
	444	「Vector Flow Mapping の開発と循環器疾患への臨床応用」	塩見 紘樹	京都大学病院特定助教	200
	445	「血管平滑筋細胞における脂肪酸合成系を標的とした動脈硬化治療戦略の開発」	須永 浩章	群馬大学	200
	446	「ヒト心不全心筋組織におけるマクロファージ由来線維化抑制因子の解析」	仙波 宏章	公益財団法人心臓血管研 究所室長	200

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
2017年 (第43回)	447	「心不全の発症・進展におけるミトコンドリア複合体合因因子の役割解明と治療法の確立」	高田 真吾	北海道大学	200
	448	「未病段階からの心不全先制医療へ向けたバイオマーカー研究」	田中 敦史	佐賀大学	200
	449	「乳がん治療に合併する心機能障害の危険因子検索と心機能画像評価の標準化の検討」	後岡広太郎	東北大学特任講師	200
	450	「一酸化窒素修飾によるβアレスチン2のCX3CR1における役割-動脈硬化との関連性」	林 宏樹	大阪大学助教	200
	451	「血管内皮テロメアを標的とした肺動脈性肺高血圧症における閉塞性病変形成機序の解明」	宮川 一也	神戸薬科大学特任助教	200
2018年 (第44回)	452	「心臓MRIとバイオマーカーに着目した進行性筋ジストロフィーによる心筋障害定量法の確立」	相川 忠夫	北海道大学	200
	453	「脂肪浸潤を伴う心房線維化の同定と解析-心房細動の新たな治療戦略」	安部一太郎	大分大学	200
	454	「補体副経路を標的とした右心不全特異的な分子標的療法の創出に向けた基盤研究」	伊藤 章吾	慶應義塾大学助教	200
	455	「先天性心臓形成不全・重篤化におけるヒストンH2Aユビキチン化因子の機能解析」	櫛笥 博子	東京医科歯科大学 難治疾患研究所 プロジェクト助教	200
	456	「現代日本人虚血性心疾患患者のための最適な2次予防戦略の開発」	澤野 充明	慶應義塾大学特任助教	200
	457	「 <i>cnm</i> 遺伝子陽性 <i>Streptococcus mutans</i> に起因する脳内出血、深部脳微小出血のモデル動物作成と病態解明」	殿村 修一	京都大学	200
	458	「核酸受容体 STING を介した血管の炎症と動脈硬化の発症機序の解明」	西本 幸子	徳島大学	200
	459	「多遺伝子リスクスコアを用いた家族性高コレステロール血症の新たな発症機序の解明」	野村 章洋	金沢大学特任助教	200
	460	「シングルセルオミックス解析による心筋リプログラミングを介した心不全治療法の開発」	野村征太郎	東京大学特任助教	200
	461	「核-ミトコンドリア間ネットワークの解明と心不全治療応用」	星野 温	京都府立医科大学助教	200
2019年 (第45回)	462	「骨髄造血幹細胞に着目した動脈硬化に対する新規治療標的の同定」	安 西 淳	慶應義塾大学助教	200
	463	「重症機能性僧帽弁逆流症を伴う非虚血性拡張型心筋症に対する僧帽弁手術の遠隔期成績-全国データベース研究」	石垣 隆弘	北海道大学	200
	464	「腹部大動脈瘤における動脈壁虚血の臨床的意義の解明」	伊藤 栄作	東京慈恵会医科大学附属柏病院助教	200
	465	「ラミン関連拡張型心筋症の治療候補化合物の探索」	伊藤 正道	東京大学特任助教	200
	466	「糖尿病による血管新生ダイナミクス障害の生体内解析」	加藤 勝洋	名古屋大学病院助教	200
	467	「一細胞 RNA 解析を用いたアテローム性動脈硬化症の新規発症機序の解明」	木 村 舞	慶應義塾大学	200
	468	「心筋ダイレクトリプログラミングでの成熟型心筋細胞誘導法の確立とその分子機構の解明」	児島 秀典	慶應義塾大学助教	200
	469	「線維化のアクティビティに着目した左室リバースリモデリングの機序と予測因子の検討」	花谷 信介	熊本大学	200
	470	「長寿遺伝子 SIRT1 活性化による脳血管拡張を介した脳血管障害新規治療法の開発」	吉本 武史	国立循環器病研究センター	200
	471	「急性心筋梗塞後の心血管合併症の予測における MDCT 遅延造影の有用性の検証」	渡部 浩明	筑波大学病院講師	200

※研究者が応募できる期間は短いので、一度助成対象に選出された人も2006年(第32回)までは、再応募可能でした。2006年から奨励金額を200万円に引き上げたことを機に、2007年(第33回)より過去に選出された人は応募ができませんこととしました。

日本心臓財団・バイエル薬品海外留学助成

Japan Heart Foundation / Bayer Yakuhin Research Grant Abroad

バイエル薬品株式会社より日本における利益を日本社会に還元したいという趣旨を受けて、日本心臓財団では循環器学に携わる若手研究者を対象とした海外留学助成を行うこととしました。1988年より開始された本助成は、現在も継続しており、企業のCSR事業として大変価値あるものになっています。

年度 (回数)	番号	氏名	留 学 前 の 所 属	留 学 先 (国名)	助成額 (万円)
1988年 (第1回)	1	飯田 秀博	秋田県立脳血管研究センター	ロンドン大学ハマースミス病院 (英国)	300
	2	上村 喜彦	京都大学	ハーバード大学マサチューセッツ病院 (米国)	500
	3	貝原 宗重	長崎大学	カルガリー大学 (カナダ)	300
	4	高安 徹雄	自治医科大学	イリノイ大学 (米国)	500
	5	土持 英嗣	東京大学助手	メイヨーセントメリー病院 (米国)	500
	6	本荘 晴朗	名古屋大学	アムステルダム大学 (オランダ)	500
	7	的場 芳樹	京都大学	ハーバード大学ブリガム・ウィメンズ病院 (米国)	500
	8	八巻 通安	山形大学助手	ユタ大学 (米国)	300
	9	山下 静也	大阪大学	シンシナティ大学 (米国)	500
	10	山本 雄祐	九州大学	ロンドン大学ハマースミス病院 (英国)	500
1989年 (第2回)	11	小野 克重	大分医科大学	シカゴ大学 (米国)	500
	12	小室 一成	東京大学	ハーバード大学ベイスイスラエル病院 (米国)	500
	13	竹内 和久	東北大学	ハーバード大学ブリガム・ウィメンズ病院 (米国)	500
	14	福田 祐典	厚生省保健医療局主査	ピッツバーグ大学 (米国)	300
	15	毛利 正博	飯塚病院院長代理	マックス・プランク研究所 (西独)	500
	16	桃井 京子	国立循環器病センター研究所	テキサス大学サウスウェスタンメディカルセンター (米国)	300
	17	森 聖二郎	千葉大学	ルードヴィッヒ癌研究所 (スウェーデン)	500
	18	和田 晃	大阪大学	テキサス大学 (米国)	500
1990年 (第3回)	19	青山 武	京都大学	スタンフォード大学 (米国)	300
	20	池ヶ谷貴愛	浜松医科大学	ワシントン大学 (米国)	300
	21	石井 賢二	京都大学助手	カリフォルニア大学サンフランシスコ校 (米国)	300
	22	石川 智久	筑波大学	ネバダ大学 (米国)	300
	23	浦風 雅春	富山医科薬科大学助手	ハーバード大学 (米国)	300
	24	浦澤 一史	北海道大学	カリフォルニア大学サンディエゴ校 (米国)	300
	25	北村 昌也	東京女子医科大学助手	スタンフォード大学 (米国)	300
	26	清川 裕朗	大阪大学	スローン・ケタリング記念癌研究所 (米国)	300
	27	倉林 正彦	東京大学助手	南カリフォルニア大学 (米国)	300
	28	長澤 一成	浜の町病院	マックス・プランク研究所 (西独)	300
1991年 (第4回)	29	伊藤 博之	東京大学	ルーベン大学 (ベルギー)	300
	30	岡田幾太郎	京都大学	ハーバード大学ブリガム・ウィメンズ病院 (米国)	300
	31	巽 英介	国立循環器病センター研究所	ユタ大学 (米国)	300
	32	中山 啓子	東京医科歯科大学	ワシントン大学 (米国)	300
	33	松岡 達	鳥取大学	テキサス大学 (米国)	300
	34	向山 政志	京都大学	スタンフォード大学 (米国)	300
	35	森下 竜一	大阪大学	スタンフォード大学 (米国)	300
	36	八尾 博史	九州大学	マイアミ大学 (米国)	300
	37	山本 光昭	厚生省課長補佐	メリーランド大学 (米国)	300
1992年 (第5回)	38	横井 克彦	京都大学助手	テキサス大学 (米国)	300
	39	横山知永子	国立循環器病センター研究所	テキサス大学 (米国)	300
	40	伊藤 和幸	大阪府立成人病センター研究所主査	国立衛生研究所 (米国)	300

年度 (回数)	番号	氏名	留 学 前 の 所 属	留 学 先 (国名)	助成額 (万円)
1992年 (第5回)	41	大池 正宏	九州大学	ルーベンカトリック大学 (ベルギー)	300
	42	小口 朝彦	自治医科大学助手	エモリー大学 (米国)	300
	43	甲斐 久史	九州大学	エモリー大学 (米国)	300
	44	栗原 裕基	東京大学助手	スタンフォード大学 (米国)	300
	45	平井 忠和	富山医科薬科大学	ペンシルベニア大学 (米国)	300
	46	松原 光伸	東北大学	ハーバード大学ブリガム・ウィメンズ病院 (米国)	300
	47	宮内 卓	筑波大学	ネバダ大学 (米国)	300
	48	安井 健二	名古屋大学	テキサス大学 (米国)	300
1993年 (第6回)	49	荒井 秀典	京都大学助手	カリフォルニア大学サンフランシスコ校 (米国)	300
	50	荻野 和秀	鳥取大学	コロンビア大学 (米国)	300
	51	島野 仁	東京大学	テキサス大学 (米国)	300
	52	鈴木 越	東京大学	ボストン小児病院 (米国)	300
	53	鈴木 哲	九州大学	フリンダース大学 (オーストラリア)	300
	54	高橋 克敏	東京大学	ハーバード大学マサチューセッツ病院 (米国)	300
	55	中井 淳一	京都大学助手	コロラド州立大学 (米国)	300
	56	長谷川浩二	京都大学	アルバートアインシュタイン医科大学 (米国)	300
	57	福田 洋之	北海道大学	アラバマ大学 (米国)	300
	58	室原 豊明	済生会熊本病院	トーマスジェファーソン医科大学 (米国)	300
1994年 (第7回)	59	相川 眞範	順天堂大学	ハーバード大学ブリガム・ウィメンズ病院 (米国)	300
	60	石田 万里	広島大学	ワシントン大学 (米国)	300
	61	市川 和人	三重大学	アリゾナ大学 (米国)	300
	62	岩井 孝明	東京慈恵会医科大学青戸病院 助手	ミュンヘン大学 (ドイツ)	300
	63	大槻 俊輔	大阪大学	国立公衆衛生研究所 (米国)	100
	64	佐瀬 一洋	京都大学	ハーバード大学ブリガム・ウィメンズ病院 (米国)	300
	65	佐藤 洋	浜松医科大学	シドニー大学 (オーストラリア)	300
	66	宮田 昌明	鹿児島大学	ロックフェラー大学 (米国)	300
	67	安田 聡	東北大学	カリフォルニア大学サンディエゴ校 (米国)	300
1995年 (第8回)	68	阿部 純一	東京大学	ワシントン大学 (米国)	300
	69	飯野 重夫	名古屋大学	オックスフォード大学 (英国)	300
	70	石川 和信	山形大学助手	カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (米国)	300
	71	岸本 一郎	京都大学	テキサス大学 (米国)	100
	72	久保田 徹	九州大学	ピッツバーグ大学 (米国)	300
	73	坂本 知浩	熊本大学	バーモント大学 (米国)	300
	74	畑 勝也	神戸大学	南カリフォルニア大学 (米国)	100
	75	原田 征樹	聖マリア病院	エモリー大学 (米国)	300
	76	東 登志夫	京都大学	ワシントン大学 (米国)	300
	77	藤田 昌宏	大阪大学	エール大学 (米国)	300
1996年 (第9回)	78	伊苅 裕二	東京大学助手	ワシントン大学 (米国)	300
	79	伊藤 修	東北大学	ウィスコンシン医科大学 (米国)	300
	80	猪又 孝元	新潟大学	マックス・プランク研究所 (ドイツ)	300
	81	川井 真	東京慈恵会医科大学助手	リーズ大学 (英国)	300
	82	戸田 宏一	国立循環器病センター研究所	コロンビア大学 (米国)	300
	83	西田 和彦	大阪大学	カリフォルニア大学サンディエゴ校 (米国)	300
	84	沼口宏太郎	九州厚生年金病院	ヴァンダービルト大学 (米国)	300

年度 (回数)	番号	氏名	留 学 前 の 所 属	留 学 先 (国名)	助成額 (万円)
1996年 (第9回)	85	畠山 治彦	金沢大学	ペンシルベニア大学(米国)	300
	86	前村 浩二	東京大学	ハーバード大学(米国)	300
1997年 (第10回)	87	青木 元邦	大阪大学	ハーバード大学(米国)	300
	88	五十嵐淳介	大阪大学	ハーバード大学(米国)	300
	89	伊藤 昭	福岡赤十字病院	スタンフォード大学(米国)	300
	90	今井 泰平	東京医科歯科大学	ヴァンダービルト大学(米国)	300
	91	加藤 秀樹	浜松医科大学	ロヨラ大学シカゴ校(米国)	300
	92	絹川弘一郎	東京大学	カリフォルニア大学サンフランシスコ校(米国)	300
	93	竹石 恭知	山形大学助手	シンシナチ大学(米国)	300
	94	中川 修	熊本大学助手	ハーバード大学ブリガム・ウィメンズ病院(米国)	300
	95	古川 裕	京都大学	ハーバード大学ブリガム・ウィメンズ病院(米国)	300
	96	南野 徹	東京大学	ハーバード大学(米国)	300
97	村田 光延	自治医科大学	ハーバード大学ブリガム・ウィメンズ病院(米国)	300	
1998年 (第11回)	98	市原佐保子	名古屋大学	ヴァンダービルト大学(米国)	300
	99	坂東 泰子	三重大学	タフツ大学エリザベス病院(米国)	300
	100	小室 太郎	京都大学	シカゴ大学(米国)	300
	101	佐々木紀仁	京都大学	ジョンズ・ホプキンス大学(米国)	300
	102	筒井順一郎	鹿児島大学助手	ダナ・ファーバー癌研究所(米国)	300
	103	中村 裕一	新潟大学	カリフォルニア大学アーバイン校(米国)	300
	104	西 英一郎	京都大学	ハーバード大学(米国)	300
	105	林 真一郎	大阪大学	タフツ大学エリザベス病院(米国)	300
	106	松元幸一郎	九州大学	マクマスター大学(カナダ)	300
	107	三瀬 直文	東京大学	マリオ・ネグリ研究所(イタリア)	300
108	山下 俊英	大阪大学助手	マックス・プランク研究所(ドイツ)	300	
1999年 (第12回)	109	石田 達郎	神戸大学非常勤講師	スタンフォード大学(米国)	300
	110	打田 俊司	東京女子医科大学助手	ルードヴィッヒ・マキシミリアン大学(ドイツ)	300
	111	海北 幸一	熊本大学	ヴァンダービルト大学(米国)	300
	112	鍵山俊太郎	九州大学	フロリダ大学(米国)	300
	113	鹿子木将夫	東京大学	ウィスコンシン医科大学(米国)	300
	114	片岡 宏	京都大学	カリフォルニア大学(米国)	300
	115	原田光一郎	東京大学	ハーバード大学ブリガム・ウィメンズ病院(米国)	300
	116	前田 喜一	自治医科大学助手	ハーバード大学ブリガム・ウィメンズ病院(米国)	300
	117	百瀬 満	東京女子医科大学助手	ミュンヘン工科大学(ドイツ)	300
2000年 (第13回)	118	相澤 達	東京大学	ロチェスター大学(米国)	300
	119	井村 徹也	京都大学	カリフォルニア大学ロサンゼルス校(米国)	300
	120	上山 知己	神戸大学非常勤講師	ハーバード大学(米国)	300
	121	大久保孝義	東北大学	国際健康研究所(オーストラリア)	300
	122	佐野 元昭	慶應義塾大学助手	ベイラー大学(米国)	300
	123	谷山 佳弘	東北大学	エモリー大学(米国)	300
	124	鶴田 敏博	宮崎医科大学	メイヨークリニック(米国)	300
	125	長田 太助	東京大学	タフツ大学(米国)	300
	126	森本 達也	京都大学	ハーバード大学(米国)	300
	127	八木田佳樹	大阪大学	マウントサイナイ医科大学(米国)	300
2001年 (第14回)	128	石森 直樹	北海道大学	ジャクソン研究所(米国)	300
	129	坂田 泰彦	大阪大学	ハーバード大学ブリガム・ウィメンズ病院(米国)	300

年度 (回数)	番号	氏名	留 学 前 の 所 属	留 学 先 (国名)	助成額 (万円)
2001年 (第14回)	130	新保 昌久	自治医科大学	ハーバード大学ブリガム・ウィメンズ病院 (米国)	300
	131	杉下 靖之	東京大学	ケースウェスタンリザーブ総合大学 (米国)	300
	132	高橋 暁行	慶應義塾大学助手	テキサス A&M 大学 (米国)	300
	133	辻 幸臣	名古屋大学	ユトレヒト医科大学 (オランダ)	300
	134	中嶋 康文	京都府立医科大学助手	アイオワ大学 (米国)	300
	135	福田 紀男	東京慈恵会医科大学助手	ワシントン州立大学 (米国)	300
	136	安田 保	金沢大学助手	トロント大学 (カナダ)	300
	137	山本 圭	大阪大学	ロチェスター大学 (米国)	300
2002年 (第15回)	138	小柳 雅孔	九州大学助手	フランクフルト大学 (ドイツ)	300
	139	清水 一郎	九州大学	マサチューセッツジェネラルホスピタル (米国)	300
	140	高田 康徳	愛媛大学	カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校 (米国)	300
	141	廣谷 信一	大阪大学	ベス・イスラエル・ディーコネス・メディカルセンター (米国)	300
	142	布施 公一	新潟大学	トロント大学 (カナダ)	300
	143	盛重 邦雄	九州大学	ハーバード大学ブリガム・ウィメンズ病院 (米国)	300
	144	森本 将史	京都大学	フランダース生物工学大学 (ベルギー)	300
	145	山村 憲	慶應義塾大学助手	国立保健衛生研究所 (米国)	300
	146	力武 良行	神戸大学非常勤講師	ハーバード大学ブリガム・ウィメンズ病院 (米国)	300
	147	和田 啓道	京都大学	フランダースバイオテクノロジー研究所 (ベルギー)	300
2003年 (第16回)	148	阿部 倫明	東北大学	ウィスコンシン医科大学 (米国)	300
	149	有馬 久富	九州大学	シドニー大学 (オーストラリア)	300
	150	佐々木健一郎	久留米大学助手	フランクフルト大学 (ドイツ)	300
	151	鈴木 重明	慶應義塾大学助手	ニューヨーク医科大学 (米国)	150
	152	竹下 享典	名古屋大学	ハーバード大学ブリガム・ウィメンズ病院 (米国)	300
	153	伯野 大彦	慶應義塾大学助手	ハーバード大学ブリガム・ウィメンズ病院 (米国)	300
	154	樋口 義治	大阪大学	ゲッティンゲン大学 (ドイツ)	300
	155	的場 哲哉	九州大学	ロチェスター大学 (米国)	300
	156	村上 政男	熊本大学助手	テキサス大学 (米国)	300
	157	渡 邊 哲	山形大学助手	ロチェスター大学 (米国)	300
2004年 (第17回)	158	牛込 秀隆	京都府立医科大学	ピッツバーグ大学 (米国)	300
	159	大石 勲	神戸大学助手	ソーク研究所 (米国)	300
	160	大山 尚貢	北海道大学	ハーバード大学ブリガム・ウィメンズ病院 (米国)	300
	161	川内 潤也	東京医科歯科大学	オックスフォード大学 (英国)	300
	162	鯉淵 信孝	大阪大学	ハーバード大学ブリガム・ウィメンズ病院 (米国)	300
	163	杉本 研	大阪大学	カリフォルニア大学サンフランシスコ校 (米国)	300
	164	田場 洋二	琉球大学	ロチェスター大学 (米国)	300
	165	野間 玄督	広島大学	ハーバード大学ブリガム・ウィメンズ病院 (米国)	300
	166	細田 徹	東京大学	ニューヨーク医科大学 (米国)	300
	167	万木 貴美	京都大学	インペリアル大学 (英国)	300
2005年 (第18回)	168	相澤 義泰	新潟大学	マソニック医学研究所 (米国)	300
	169	荒川 芳輝	京都大学	カリフォルニア大学サンフランシスコ校 (米国)	300
	170	市川 朝永	筑波大学	モアハウス医科大学 (米国)	300
	171	太田 嗣人	金沢大学	コロンビア大学 (米国)	300
	172	岡本 里香	金沢大学	サニーブルック女子大学病院 (カナダ)	300
	173	阪部 優夫	富山医科薬科大学	モントリオール心臓研究所 (カナダ)	300
	174	清水 誠	姫路工業大学	テキサス大学 (米国)	300

年度 (回数)	番号	氏名	留 学 前 の 所 属	留 学 先 (国名)	助成額 (万円)
2005年 (第18回)	175	長谷川智巳	神戸大学	ミシガン大学(米国)	300
	176	二松 秀樹	東京医科歯科大学	フロリダ大学(米国)	300
	177	前川裕一郎	慶應義塾大学	トロント大学(カナダ)	300
2006年 (第19回)	178	石橋 哲	東京医科歯科大学	国立衛生研究所(米国)	300
	179	猪又 兵衛	国立国際医療センター研究所	エモリー大学(米国)	300
	180	岩崎 真佳	関西医科大学	フランクフルト大学(ドイツ)	300
	181	小川 愛子	岡山大学	カリフォルニア大学サンディエゴ校(米国)	300
	182	川村 晃久	京都大学	ソーク生物学研究所(米国)	300
	183	小坂橋紀通	群馬大学	ジョンズ・ホプキンス医学研究所(米国)	300
	184	佐藤 公雄	東北大学	ロチェスター大学(米国)	300
	185	為広 紀正	医薬基盤研究所	ハーバード大学マサチューセッツ総合病院(米国)	300
	186	藤谷 昌司	千葉大学	トロント大学(カナダ)	300
	187	松本 泰治	広島赤十字・原爆病院	ライプツィヒ大学(ドイツ)	300
2007年 (第20回)	188	赤崎 雄一	鹿児島大学	ボストン大学(米国)	300
	189	梅村 隆史	広島大学	ボン大学(ドイツ)	300
	190	後藤 純	東京大学	ハーバード大学ブリガム・ウィメンズ病院(米国)	300
	191	境 倫宏	横浜市立大学	ハーバード大学(米国)	300
	192	辻田 賢一	熊本大学	コロンビア大学(米国)	300
	193	土井 宏	群馬大学	コロンビア大学(米国)	300
	194	秦 広樹	大阪大学	ハノーファー医科大学(ドイツ)	300
	195	福田 大受	東京大学	ハーバード大学ブリガムウィメンズ病院(米国)	300
	196	元山 宏華	大阪市立大学	ワシントン大学(米国)	300
	197	矢部麻里子	慶應義塾大学	スクリプス研究所(米国)	300
2008年 (第21回)	198	石丸 和宏	かみいち総合病院	テンプル大学(米国)	300
	199	辛島 詠士	九州大学	メリーランド心臓・高血圧・腎臓病センター(米国)	300
	200	木津あかね	大阪市立大学	ハーバード大学ベス・イスラエル・ディーコネス医療センター(米国)	300
	201	腰野 結希	筑波大学	メイヨークリニック(米国)	300
	202	館野 透	東京医科歯科大学	トロント大学(カナダ)	300
	203	中山 雅敬	名古屋大学	マックスプランク分子医学研究所(ドイツ)	300
	204	藤岡 大佑	山梨大学	ハーバード大学ブリガム・ウィメンズ病院(米国)	300
	205	峰晴 陽平	京都大学	シダースサイナイメディカルセンター(米国)	300
	206	安田 知行	神戸大学	ペンシルバニア大学(米国)	300
	207	山本英一郎	熊本大学	ロチェスター大学(米国)	300
2009年 (第22回)	208	家串 和真	大阪大学	フランクフルト大学(ドイツ)	300
	209	上田 和孝	千葉大学	タフツメディカルセンター(米国)	300
	210	大木 宏一	慶應義塾大学助教	ルンド大学病院(スウェーデン)	300
	211	眞田 文博	大阪大学	ハーバード大学ブリガム・ウィメンズ病院(米国)	300
	212	下平 政史	名古屋市立大学	ドッター研究所(米国)	300
	213	白戸 崇	東北大学	ハーバード大学ブリガム・ウィメンズ病院(米国)	300
	214	菅村 公一	熊本大学	マサチューセッツ州立大学(米国)	300
	215	田邊 克幸	岡山大学	コロラド大学(米国)	300
	216	本庄 友行	神戸大学	シダースサイナイメディカルセンター(米国)	300
2010年 (第23回)	217	梅村 将就	横浜船員保険病院	ニュージャージー州立医科歯科大学(米国)	300
	218	海野 一雅	名古屋大学	ハーバード大学ブリガム・ウィメンズ病院(米国)	300
	219	沖 健司	広島大学	ミシシッピ医科大学(米国)	300

年度 (回数)	番号	氏名	留 学 前 の 所 属	留 学 先 (国名)	助成額 (万円)
2010年 (第23回)	220	笠井 高士	京都府立医科大学助教	ランカスター大学 (英国)	300
	221	佐々木英之	国立循環器病センター研究所	ジョンズ・ホプキンス大学 (米国)	300
	222	篠原 充	大阪大学	ワシントン大学 (米国)	300
	223	都島 健介	東京大学助教	ユタ大学 (米国)	300
	224	内藤広太郎	埼玉病院	トロント大学 (カナダ)	300
	225	中村 太志	熊本大学	ジョンズ・ホプキンス大学 (米国)	300
	226	門田 欣也	広島赤十字・原爆病院	ニュージャージー州立医科歯科大学 (米国)	300
2011年 (第24回)	227	魚崎 英毅	京都大学	ジョンズ・ホプキンス大学 (米国)	300
	228	鶏内 伸二	京都大学助教	マウントサイナイ医科大学 (米国)	300
	229	加藤 浩司	日本医科大学助教	ハーバード大学マサチューセッツ総合病院 (米国)	300
	230	清水 岳久	群馬大学	コロンビア大学 (米国)	300
	231	中澤 文恵	理化学研究所	マックス・デルブリュック・セントルム (ドイツ)	300
	232	中平 敦士	大阪市立大学	ライプツィヒ心臓センター (ドイツ)	300
	233	西 仁 勇	京都大学	ニューヨーク大学 (米国)	300
	234	西山 知佳	京都府立医科大学助教	ワシントン大学 (米国)	300
	235	森 雅 樹	大阪大学	ボストン小児病院 (米国)	300
236	山田 清文	岐阜大学	ワシントン大学 (米国)	300	
2012年 (第25回)	237	天 木 誠	国立循環器病研究センター	マウントサイナイ医科大学 (米国)	300
	238	石田 秀和	大阪大学特任助教	ロンドン大学クィーンメリー校ウィリアムハーベイ研究所 (英国)	300
	239	大野 洋平	慶應義塾大学助教	カタール大学 (イタリア)	300
	240	大山 直紀	大阪大学	シャリテ・ベルリン医科大学 (ドイツ)	300
	241	佐田 悠輔	国立循環器病研究センター研究所	ベイカー研究所 (オーストラリア)	300
	242	品川 弥人	北里大学助教	ヴェルツブルグ大学 (ドイツ)	300
	243	中神 太志	大阪大学	スタンフォード大学 (米国)	300
	244	牧 盾	聖マリア病院臨床部長	カリフォルニア大学サンフランシスコ校 (米国)	300
	245	丸山 園美	順天堂大学	ボストン大学 (米国)	300
	246	丸山 剛	東京大学	マサチューセッツ工科大学ホワイトヘッド研究所 (米国)	300
2013年 (第26回)	247	江頭 裕介	岐阜大学特任講師	ミシガン大学 (米国)	300
	248	岡 史 朗	山口大学	ハーバード大学 (米国)	300
	249	齊藤 寿郎	九州大学	ニュージャージー州立医科歯科大学 (米国)	300
	250	篠崎広一郎	千葉大学	ペンシルバニア大学 (米国)	300
	251	二村 圭祐	大阪大学助教	国立衛生研究所 (米国)	300
	252	原 梓	国立がん研究センター	ルーヴェン・カトリック大学 (ベルギー)	300
	253	古庄 優子	鹿児島大学	スタンフォード大学 (米国)	300
	254	穆 勝 宇	東京大学特任助教	アーカンサス大学 (米国)	300
	255	堀 大治郎	自治医科大学附属さいたま医療センター臨床助教	ジョンズ・ホプキンス大学 (米国)	300
	256	宮部 千恵	東京医科大学	ハーバード大学マサチューセッツ総合病院 (米国)	300
	2014年 (第27回)	257	池崎 裕昭	九州大学	タフツ大学 (米国)
258		江 頭 徹	慶應義塾大学特任助教	アイオワ大学 (米国)	300
259		大 西 央	自治医科大学病院助教	カリフォルニア大学サンディエゴ校 (米国)	300
260		片桐 大輔	東京大学	スタンフォード大学 (米国)	300
261		北村 彰浩	京都大学助教	エディンバラ大学 (英国)	300
262		小島智亜里	東京女子医科大学助教	インペリアルカレッジ (英国)	300

年度 (回数)	番号	氏名	留 学 前 の 所 属	留 学 先 (国名)	助成額 (万円)
2014年 (第27回)	263	谷本 貴志	和歌山県立医科大学助教	マウントサイナイ医科大学 (米国)	300
	264	堀田 一樹	東北大学	フロリダ大学 (米国)	300
	265	松岡 研	大阪大学	シーダースサイナイメディカルセンター (米国)	300
	266	宮川 一也	神戸大学	スタンフォード大学 (米国)	300
2015年 (第28回)	267	池田 尚平	岩手県立中央病院医長	ニュージャージー医科大学 (米国)	300
	268	大塚憲一郎	石切生喜病院	マサチューセッツ総合病院 (米国)	300
	269	木谷 友哉	京都府立医科大学	スタンフォード心血管研究所 (米国)	300
	270	神津 英至	札幌医科大学助教	ファインバーグ心血管研究所 (米国)	300
	271	塩野 泰紹	和歌山県立医科大学助教	インペリアルカレッジ (英国)	300
	272	中沢 大悟	北海道大学	ミュンヘン大学 (ドイツ)	300
	273	二井 偉暢	九州大学	テキサス大学 (米国)	300
	274	服部 頼都	国立循環器病研究センター	ウェイルコーネル医科大学 (米国)	300
	275	東邦 康智	東京大学助教	マサチューセッツ工科大学 (米国)	300
	276	藤木 亮輔	大阪大学助教	ハーバード大学 (米国)	300
2016年 (第29回)	277	秋山 英一	横浜市立大学附属市民総合医療センター助教	ラリボワジエール病院 (フランス)	300
	278	石井陽一郎	群馬大学助教	ギーセン大学 (ドイツ)	300
	279	井戸田佳史	東京大学助教	クリーブランドクリニック (米国)	300
	280	今村 輝彦	東京大学特任助教	シカゴ大学 (米国)	300
	281	桂田 健一	自治医科大学病院助教	ネブラスカ大学 (米国)	300
	282	野田 一樹	岩手県立中央病院医長	キングスカレッジ (英国)	300
	283	原 田 成	慶應義塾大学助教	インペリアルカレッジ (英国)	300
	284	関 庚 徳	国立循環器病研究センター	ボストン大学 (米国)	300
	285	村上 正憲	東京医科歯科大学特任助教	ミュンヘン大学 (ドイツ)	300
	286	森川 久未	鳥取大学特命助教	コロンビア大学 (米国)	300
2017年 (第30回)	287	池田源太郎	福岡県済生会福岡総合病院医長	スタンフォード大学 (米国)	300
	288	池田 次郎	浜の町病院	トロント大学 (カナダ)	300
	289	檉山 紀幸	大阪大学	ピッツバーグ大学 (米国)	300
	290	久間 昭寛	産業医科大学非常勤講師	エモリー大学 (米国)	300
	291	小 林 基	自治医科大学	ハワイ大学 (米国)	300
	292	寺本 了太	金沢大学特任助教	ブリガム・ウィメンズ病院 (米国)	300
	293	西 清 人	京都大学	ワシントン大学 (米国)	300
	294	福満 雅史	国立循環器病研究センター	アムステルダム自由大学 (オランダ)	300
	295	峯岸慎太郎	横浜市立大学助教	Duke-NUS (シンガポール)	300
	296	山本 恒久	慶應義塾大学助教	ペンシルベニア大学 (米国)	300
2018年 (第31回)	297	大竹 誠	横浜市立大学助教	サウスカロライナ医科大学 (米国)	300
	298	篠原 務	名古屋市立大学病院助教	スタンフォード大学 (米国)	300
	299	清水 悠	東京大学	臨床実験医学研究所 (チェコ)	300
	300	高橋 利匡	大阪大学特任助教	トロント大学 (カナダ)	300
	301	塚本 昌子	国立病院機構東京医療センター	ノースカロライナ大学チャペルヒル校 (米国)	300
	302	福富 基城	自治医科大学助教	リスホスピタリティ、コペンハーゲン ユニバーシティホスピタル (デンマーク)	300
	303	藤野 雅史	国立循環器病研究センター	ハーバード大学 (米国)	300
	304	松浦 良平	大阪大学特任助教	マックス・プランク心肺研究所 (ドイツ)	300
	305	安原 潤	慶應義塾大学助教	ネイションワイド小児病院 (米国)	300

年度 (回数)	番号	氏名	留 学 前 の 所 属	留 学 先 (国名)	助成額 (万円)	
2019年 (第32回)	306	稲葉 佑	慶應義塾大学助教	スタンフォード大学 (米国)	300	
	307	小川 隼人	名古屋大学	バージニア大学 (米国)	300	
	308	表 和 徳	北海道大学	メイヨークリニック (米国)	300	
	309	川上 りか	兵庫医科大学	シーブイパス インスティテュート (米国)	300	
	310	齋藤 純一	横浜市立大学助教	イェール心臓血管研究センター (米国)	300	
	311	齋藤 恒徳	日本医科大学助教	シーダーズサイナイメディカルセンター (米国)	300	
	312	多村 知剛	慶應義塾大学助教	ハーバード大学 (米国)	300	
	313	中出 泰輔	群馬県立心臓血管センター医 長	カリフォルニア大学 (米国)	300	
	314	西山崇比古	慶應義塾大学特任助教	テキサス大学 (米国)	300	
	315	水野 篤	聖路加国際病院医幹	CHIBE (チャイブ) (米国)	300	
	316	矢嶋 真心	JCHO 大阪病院医長	スタンフォード大学 (米国)	300	
	2020年 (第33回)	317	安部一太郎	大分大学特任助教	ハーバード大学 (米国)	300
		318	江尻健太郎	岡山労災病院医長	ジョンズホプキンス大学 (米国)	300
		319	奥谷 孔幸	徳島赤十字病院	イリノイ大学 (米国)	300
		320	久保田暁彦	千葉大学	アルベルト・アインシュタイン医学校 (米国)	300
		321	福馬 伸章	東京大学	コロンビア大学 (米国)	300
322		松下 誠人	日本医科大学助教	ラトガーズ大学 (米国)	300	
323		三島 英換	東北大学院内講師	ヘルムホルツ ゼントラム ミュンヘン (ドイツ)	300	
324		山添 正博	東京医科歯科大学助教	ハーバード大学 (米国)	300	
325		吉井 顕	東京慈恵会医科大学助教	ワシントン大学 (米国)	300	
326		吉田 賢明	麻生飯塚病院医長代理	アムステルダムユニバーシティーメディカルセン ター (オランダ)	300	

日本心臓財団佐藤賞

Japan Heart Foundation Sato Prize

わが国循環器学の振興発展を願い、故佐藤喜一郎当財団初代会長を追悼記念して、日本循環器学会と協同して制定した学術褒賞です。1975年から1994年までは、その年1年間に日本循環器学会誌に掲載された研究論文の中より、その年の日本循環器学会会長のもとで選考され、当財団理事会にて承認された優秀論文一編に対し、その年の日本循環器学会総会にて賞牌と副賞50万円が贈呈されました。1995年以降は、「選考方法を「近年循環器領域で顕著な業績をあげ、今後もこの分野で中心的な役割を果たすことが期待される50歳未満の研究者1名を受賞の対象とする」に変更し、その年の日本循環器学会学術集会にて賞牌と副賞100万円(2009～2012年は250万円)が贈呈されています。

年度 (回数)	受賞論文	受賞者	所属(受領時)	発表巻・号	金額 (万円)
1975年 (第1回)	「高血圧自然発症ラットの種々亜系における血管病と慢性食塩負荷の影響」	狭間 章忠	京都大学助教授	39巻1号	50
1976年 (第2回)	「動的運動時における右心作業状態の非侵襲的評価、特に左心疾患について」	平川 千里	岐阜大学助教授	40巻1号	50
1977年 (第3回)	「ショックの病態生理」	岡田 和夫	帝京大学教授	41巻4号	50
1978年 (第4回)	「先天性心疾患の形態発生—球室部の異常—」	岡本 直正	広島大学教授	42巻10号	50
1979年 (第5回)	「川崎病の原理—(1)血管病変の病理及び形態発生、(2)血管病変の分布及び頻度」	天野 殖	滋賀医科大学助手	43巻7・8号	50
1980年 (第6回)	「特発性心筋症における心内膜心筋生検の組織病理—多変量解析による定量的評価—」	野田信一路	大阪医科大学助手	44巻2号	50
1981年 (第7回)	「血中心筋ミオシン軽鎖IIの測定による心筋梗塞の大きさの推定—実験的心筋梗塞における検討—」	永井 良三	東京大学助手	45巻6号	50
1982年 (第8回)	「日本における脳卒中と高血圧の食餌性危険因子(part 1～3)」	家森 幸男	島根医科大学教授	46巻9号	50
1983年 (第9回)	「抑制されたNチャンネルによる遅い伝導に対するリドカインとベラパミルの効果、カテコラミンによるイオンチャンネル移行現象との関連」	有田 眞	大分医科大学教授	47巻1号	50
1984年 (第10回)	「大きさの異なる心臓の収縮末期圧容積関係とEmaxの正規化」	菅 弘之	国立循環器病センター 研究所部長	48巻2号	50
1985年 (第11回)	「心筋内高エネルギー磷酸化合物の心周期内変動における収縮初期エネルギー消費亢進の意義」	楠岡 英雄	大阪大学助手	49巻10号	50
1986年 (第12回)	「心筋内冠動脈狭窄の発生機序」	大西 一男	神戸労災病院	50巻10号	50
1987年 (第13回)	「高血圧患者とシャイ・ドレイガー症候群患者及び正常血圧者における24時間の血圧と心拍数変動の相互関係」	枘久保 修	横浜市立大学助教授	51巻5号	50
1988年 (第14回)	「心筋梗塞モデルでのリエントリー性心室頻拍症に対する高頻度心室ペーシングの影響」	小川 聡	慶応義塾大学講師	52巻4号	50
1989年 (第15回)	「ウイルス性心筋炎における免疫学的心筋細胞障害機構」	出口 寛文	大阪医科大学	53巻1号	50
1990年 (第16回)	「ラット心臓の心房性ナトリウム利尿ペプチド(ANP)の分泌調節機構—機械的伸展によるANP分泌に対するCa ²⁺ 依存性情報伝達—」	加藤 秀平	名古屋大学	54巻10号	50
1991年 (第17回)	「経皮的冠動脈形成術(PTCA)後再狭窄をきたす患者の血清は培養牛血管平滑筋細胞の増殖を低細胞外カルシウム条件下で刺激する」	城谷 学	京都大学	55巻6号	50
1992年 (第18回)	「非不全期大動脈弁逆流症における運動時交感神経刺激に対する心応答低下」	松山 泰三	八尾市立病院	56巻2号	50
1993年 (第19回)	「高血圧性肥大心における虚血心筋障害におよぼす心肥大退縮の効果—高血圧自然発症ラットにおける検討—」	岡本 清貴	旭川医科大学	57巻2号	50
1994年 (第20回)	「日本・韓国・インド間における高安動脈炎の比較研究—臨床症状、動脈造影所見 HLA-B抗原の比較—」	矢島 途好	名戸ヶ谷病院院長	58巻9号	50

年度 (回数)	受賞研究	受賞者	所属(受領時)	金額 (万円)
1995年 (第21回)	「心筋症の症因・診断・治療に関する臨床的ならびに基礎的研究」	松森 昭	京都大学講師	100
1996年 (第22回)	「心臓移植拒絶反応の病態解明と新しい診断法・予防法の開発」	磯部 光章	信州大学助教授	100
1997年 (第23回)	「心筋虚血・慢性心不全におけるアデノシンの心血管保護作用」	北風 政史	大阪大学助手	100
1998年 (第24回)	「冠動脈攣縮の機序に関する研究—モデル作成から分子レベルまでの検討—」	下川 宏明	九州大学助教授	100
1999年 (第25回)	「心肥大の形成機序・心臓の発生と分化の分子機序」	小室 一成	東京大学講師	100
2000年 (第26回)	「血管内皮細胞機能と動脈硬化・虚血性心疾患」	江頭 健輔	九州大学講師	100
2001年 (第27回)	「難治性循環器疾患の遺伝子治療の開発」	森下 竜一	大阪大学助教授	100
2002年 (第28回)	「血管病の病態生理の解明と治療法の開発」	佐田 政隆	東京大学助手	100
2003年 (第29回)	「心不全における心筋障害進展の細胞・分子機序の解明」	筒井 裕之	九州大学講師	100
2004年 (第30回)	「再生心筋細胞の開発および心肥大形成の分子機構の解明」	福田 恵一	慶應義塾大学講師	100
2005年 (第31回)	「循環器疾患の遺伝因子の解明と遺伝子リスク診断システムの開発」	山田 芳司	三重大学教授	100
2006年 (第32回)	「心不全・不整脈治療標的としてのリアノジン受容体」	矢野 雅文	山口大学講師	100
2007年 (第33回)	「致死性不整脈疾患の遺伝子診断とその臨床応用」	清水 渉	国立循環器病センター医長	100
2008年 (第34回)	「循環器疾患病態理解のための分子イメージングによる血管内皮・心筋細胞の情報伝達解明」	望月 直樹	国立循環器病センター研究所部長	100
2009年 (第35回)	「心血管系の老化と再生のメカニズムの解明」	南野 徹	千葉大学講師	250
2010年 (第36回)	「心血管・代謝・腎疾患に共通する基盤病態である慢性炎症の解明」	真鍋 一郎	東京大学特任准教授	250
2011年 (第37回)	「心血管系疾患の分子病態解明」	佐野 元昭	慶應義塾大学講師	250
2012年 (第38回)	「心血管ホルモンの発現調節及び作用機構の解明に基づく心血管病新規治療標的の探索」	桑原宏一郎	京都大学講師	250
2013年 (第39回)	「細胞シート工学による立体組織構築法の確立と心筋再生への応用」	清水 達也	東京女子医科大学教授	100
2014年 (第40回)	「心血管系におけるストレス応答と疾患形成の分子機序」	赤澤 宏	東京大学講師	100
2015年 (第41回)	「心臓発生メカニズム解明と新しい心筋再生法の開発」	家田 真樹	慶應義塾大学専任講師	100
2016年 (第42回)	「基礎研究の臨床応用による心血管系疾患の新規治療法開発」	佐藤 公雄	東北大学准教授	100
2017年 (第43回)	「心疾患におけるオートファジーの機能解析」	山口 修	大阪大学准教授	100
2018年 (第44回)	「難治性循環器疾患のオミックス解析による病態分子機序解明と診断法および創薬開発」	朝野 仁裕	大阪大学講師	100
2019年 (第45回)	「多能性幹細胞を用いた心筋再生治療の開発」	柴 祐司	信州大学教授	100

日本心臓財団草野賞

Japan Heart Foundation Kusano Prize

わが国脳卒中の振興発展を願い、故草野義一当財団初代理事長を追悼記念して、日本脳卒中学会と協同して制定した学術褒賞です。各年度ごとに内外に発表された40歳未満のわが国少壮研究者による脳卒中に関する学術論文のうちより、その年の日本脳卒中学会会長のもとで選考され当財団理事会にて承認された優秀論文一編に対し、日本脳卒中学会総会において賞牌と副賞50万円が贈呈されています。

年度 (回数)	受賞論文(日本語訳)	掲載誌	受賞者	所属(受領時)
1976年 (第1回)	「脳卒中易発症性 SHR とヒトにおける脳卒中の発症病理学的類似性」	Stroke, Vol. 7 No. 1	家森 幸男	京都大学助教授
1977年 (第2回)	「高血圧自然発症ラットの実験的脳虚血」	Journal of the Neurological Sciences Vol. 33	藤島 正敏	九州大学講師
1978年 (第3回)	「脳梗塞の病態生理」	Stroke, Vol. 9 No. 3	吉本 高志	東北大学講師
1979年 (第4回)	「脳動脈瘤の誘発」	Surgical Neurology, Vol. 10 & 11	橋本 信夫	京都大学
1980年 (第5回)	「ラットにおける脳血管脂肪沈着の神経性因子と遺伝素因」	Clinical Experimental Hypertension, Vol. 2 No. 6	堀江 良一	島根医科大学 助教授
1981年 (第6回)	「超音波ドプラー法によるウイルス動脈輪を介する側副血行機能の評価I、II」	Stroke, Vol. 12 No. 4 & 5	米田正太郎	大阪大学助手
1982年 (第7回)	「交感神経の血液・脳関門防禦に関する実験的研究」	Hypertension, Vol. 4	佐渡島省三	九州大学助手
1983年 (第8回)	「正常高齢者の脳循環、大脳機能に及ぼす社会的環境因子の影響」	脳卒中、第5巻第4号	小林 祥泰	島根医科大学助手
1984年 (第9回)	「C ¹⁵ O ₂ 瞬時吸入法とポジトロンエミッショントモグラフィによる脳血流量の測定」	Journal of Cerebral Blood Flow and Metabolism, Vol. 4 No. 2	菅野 巖	秋田県立脳血管 研究センター主任
1985年 (第10回)	「脳虚血血流再開の免疫組織化学的研究」	Journal of Neurosurgery, Vol. 63 No. 12	吉峰 俊樹	大阪大学
1986年 (第11回)	「虚血性脳血管障害の動脈硬化性病変の血小板集積に対するアスピリン及びチクロピジンの効果」	Stroke, Vol. 17 No. 6	井坂 吉成	大阪大学
1987年 (第12回)	「クモ膜下出血後のイヌ脳動脈神経ペプチドの変化」	日本外科宝函、第56巻第6号	上村 喜彦	京都大学
1988年 (第13回)	「脳梗塞における脳波と血流・酸素代謝の相関」	EEG Journal, Vol. 72	長田 乾	秋田県立脳血管 研究センター
1989年 (第14回)	「クモ膜下出血をおこしたサル脳血管の弛緩に対する薬理学的研究」	Journal of Neurosurgery, Vol. 71	金丸 憲司	三重大学
1990年 (第15回)	「脳における虚血耐性現象の発現」	Brain Research, Vol. 528	北川 一夫	大阪大学
1991年 (第16回)	「脳血管攣縮発生機序におけるプロテインカイネシンの役割」	Journal of Cerebral Blood Flow and Metabolism, Vol. 11	松居 徹	埼玉医科大学講師
1992年 (第17回)	「砂ネズミ海馬神経細胞における酸化ストレス負荷の虚血耐性への影響」	Brain Research, Vol. 599	大槻 俊輔	大阪大学
1993年 (第18回)	「砂ネズミ海馬における一過性脳虚血後のミトコンドリア DNA ならびに熱ショック蛋白遺伝子発現変化」	Journal of Cerebral Blood Flow and Metabolism, Vol. 13	阿部 康二	東北大学
1994年 (第19回)	「主幹脳動脈閉塞性病変例におけるアセタゾラマイド SPECT と PET 所見との関連」	Journal of Cerebral Blood Flow and Metabolism, Vol. 14	平野 照之	熊本大学
1995年 (第20回)	「虚血、高体温時のラット脳における熱ショック転写因子 HSF1 の活性化」	Molecular Brain Research, Vol. 34	東 登志夫	京都大学
1996年 (第21回)	「培養ラットアストロサイトからの新ストレス蛋白、150kDa oxygen regulated protein (ORP150) の精製とその特徴ならびにマウス虚血脳におけるその発現について」	Journal of Biological Chemistry, Vol. 271	桑原 敬介	大阪大学
1997年 (第22回)	「CuZn スーパーオキシドディスムターゼ活性低下による一過性局所脳虚血後の神経細胞障害と脳浮腫形成の増悪についての検討」	Journal of Neuroscience, Vol. 17	近藤 健男	東北大学

年度 (回数)	受賞論文(日本語訳)	掲載誌	受賞者	所属(受領時)
1998年 (第23回)	「砂ネズミにおける前負荷脳虚血による低酸素性 LTP の抑制と機能的保護効果」	Journal of Cerebral Blood Flow and Metabolism, Vol. 18	川合 謙介	東京大学
1999年 (第24回)	「トランスジェニックマウスにおけるチオレドキシン過剰発現による局所虚血後脳損傷の軽減効果」	Proc. Natl. Academy Science, Vol. 96	高木 康志	京都大学
2000年 (第25回)	「日本の一地域において血清ビタミンC濃度がその後20年間の脳卒中罹患率と逆相関していた—新発田研究—」	Stroke. 2000 Oct;31(10)	横山 徹爾	東京医科歯科大学 助手
2001年 (第26回)	「Acetazolamide test による内頸動脈・中大脳動脈閉塞症の長期予後の推測」	Stroke. 2001 Sep;32(9)	黒田 敏	北海道大学
2002年 (第27回)	「成体神経前駆細胞を用いた虚血損傷後の海馬錐体ニューロンの再生」	Cell 110(4),2002	中富 浩文	東京大学
2003年 (第28回)	「核磁気共鳴画像法による遅発性虚血性線条体神経変性の解析」	Annals of Neurology Vol.54 No.6,2003	藤岡 政行	奈良県立医科大学
2004年 (第29回)	「造影経頭蓋カラードプラによる頸動脈内膜剝離術後の過灌注症候群の診断」	Stroke 2004;35	藤本 茂	九州医療センター
2005年 (第30回)	「脳動静脈奇形に対する定位放射線治療後の出血リスク」	New England Journal of Medicine 352, 2005	丸山 啓介	東京大学
2006年 (第31回)	「霊長類胚性幹細胞由来神経前駆細胞の虚血脳内への移植」	Journal of Cerebral Blood Flow & Metabolism, 26, 2006	林 純哉	京都大学
2007年 (第32回)	「転写因子 NF-kappa B が脳動脈瘤形成を担う」	Circulation. 2007 Dec 11;116(24)	青木 友浩	京都大学
2008年 (第33回)	「脳梗塞急性期におけるたこつぼ心筋症の発症」	Annals of Neurology, 2008 Aug. 6, 64(5)	吉村 壮平	九州大学
2009年 (第34回)	「エダラボンはラット脳において tPA 再灌注障害から Neurovascular Unit を保護する」	Journal of Cerebral Blood Flow & Metabolism, 2009 Apr; 29(4)	山下 徹	岡山大学
2010年 (第35回)	「Spreading depolarization (皮質拡張性抑制) は脳虚血巣周囲を旋回し脳梗塞を増大させる」	Brain 2010;133	中村 元	大阪大学特任助教
2011年 (第36回)	「VEGF シグナル伝達の抑制は tPA 療法後の出血合併症を抑制する」	Journal of Cerebral Blood Flow & Metabolism, 2011;31	金澤 雅人	新潟大学
2012年 (第37回)	「虚血後炎症:ペルオキシレドキシンファミリーのタンパク質は脳における虚血後炎症の主要な開始因子である」	NATURE MEDICINE 18 (6), 2012	七田 崇	慶應義塾大学助教
2013年 (第38回)	「動脈硬化危険因子を有する患者における血清 Interleukin-6 濃度と新規の脳血管障害発症の関連」	Arterioscler Thromb Vasc Biol. 2013 Feb;33(2)	三輪 佳織	大阪大学
2014年 (第39回)	「ラット慢性脳虚血において L-carnitine は軸索再生・有髄化を促進させ、脳白質を保護する」	Journal of Cerebral Blood Flow & Metabolism 2015 ; 35(3)	上野 祐司	順天堂大学准教授
2015年 (第40回)	「認知症を伴う選択的皮質下白質梗塞新規モデルマウス」	Journal of Neuroscience, March 4, 2015, 35(9)	服部 頼都	国立循環器病研究センター
2016年 (第41回)	「脳出血および深部微小出血と cnm 陽性ミュータンス菌 (Streptococcus mutans) の関連; 病院コホート研究」	Scientific Reports 6, Article number: 20074 (2016)	殿村 修一	国立循環器病研究センター
2017年 (第42回)	「脳アミロイドアンギオパチーの新規病態関連因子 SRPX1 をスパーサーとする病態解析」	Acta Neuropathol. 2017; 134	井上 泰輝	熊本大学特任助教
2018年 (第43回)	「ドナーの年齢は脳梗塞に対する骨髄間葉系幹細胞移植の治療効果に影響する」	Journal of Cerebral Blood Flow & Metabolism 2018, Vol.38(7)	山口 将	長崎大学
2019年 (第44回)	「脳梗塞に対する末梢血単核球を用いた新規細胞療法」	Scientific Reports 2019,9	畠山 公大	新潟大学

日本心臓財団予防賞

Japan Heart Foundation Prevention Prize

心臓病・脳卒中等の循環器疾患の予防医学の発展を願い、日本循環器病予防学会(旧:日本循環器管理研究協議会)と協同して制定した学術褒賞です。

日本循環器病予防学会選考委員会にて循環器予防に永年貢献した団体または研究者を選考し、当財団理事会にて承認された研究者または関係者に対し、その年の日本循環器病予防学会学術集会において賞牌と副賞50万円が贈呈されています。

年度 (回数)	受賞研究	受賞者	所属(受領時)
1986年 (第1回)	「久山町における循環器疾患の予防と管理に関する永年にわたる調査研究」	廣田 安夫 上田 一雄	九州歯科大学教授 九州大学医療短期大学部教授
1987年 (第2回)	「八千穂村における循環器疾患の予防及び管理に関する研究」	磯村 孝二	佐久総合病院医長
1988年 (第3回)	「循環器疾患の予防に関する世界7カ国共同研究の日本(田主丸・牛深地区)グループの成果に対して」	田代 寛美	久留米大学助教授
1989年 (第4回)	「地域における循環器疾患管理に関する研究」	飯田 稔	大阪府立成人病センター部長
1990年 (第5回)	「山梨県白州町における循環器疾患の疫学的研究」	澤井 廣量	日循協事務局長
1991年 (第6回)	「岐阜県白川町における脳卒中・急性心筋梗塞と関連因子の動向と予防に関する研究」	堀部 博	愛知医科大学教授
1992年 (第7回)	「広島・長崎の固定集団における循環器疾患の予防に関する疫学的研究」	加藤 寛夫 児玉 和紀	国立水俣病研究センター所長 放射線影響研究所部長
1993年 (第8回)	「北海道2農村における循環器疾患の疫学的研究」	田中 繁道	札幌医科大学助教授
1994年 (第9回)	「地域住民における循環器病の二次・一次予防対策の実践と疫学的評価」	嶋本 喬	筑波大学教授
1995年 (第10回)	「新潟県新発田市における脳卒中の疫学と予防」	田中 平三	東京医科歯科大学教授
1996年 (第11回)	「脳卒中の二次予防、三次予防特別対策から老人保健事業の推進」	小澤 秀樹	大分医科大学教授
1997年 (第12回)	「職域・地域における循環器疾患の疫学研究と予防教育活動」	橋本 勉	和歌山県立医科大学教授
1998年 (第13回)	「循環器疾患の病理疫学的研究と地域における予防の実践」	小西 正光	愛媛大学教授
1999年 (第14回)	「生活習慣の改善による循環器疾患の一次予防に関する研究と実践」	上島 弘嗣	滋賀医科大学教授
2000年 (第15回)	「過労・ストレスと循環器疾患の関連に関する研究」	上畑鉄之丞	国立公衆衛生院次長
2001年 (第16回)	「新潟県における突然死と虚血性心疾患に関する疫学的調査研究」	豊嶋 英明	名古屋大学教授
2002年 (第17回)	「地域における循環器疾患による死亡の実態調査研究」	西尾 一郎	和歌山県立医科大学教授
2003年 (第18回)	「効率的で精度の高い心血管疾患健診システムの開発」	平盛 勝彦	岩手医科大学教授
2004年 (第19回)	「循環器疾患予防に役立つ各種機器の開発」	柘久保 修	横浜市立大学教授
2005年 (第20回)	「端野・壮瞥町研究の立ち上げとその後の医学部学生における生活習慣病危険因子対策の推進」	菊池健次郎	旭川医科大学教授
2006年 (第21回)	「職域・地域における循環器疾患の疫学研究」	中川 秀昭	金沢医科大学教授
2007年 (第22回)	「高血圧における肥満とインスリン抵抗性の臨床疫学的意義の解明に関する研究」	久代登志男	日本大学准教授
2008年 (第23回)	「心臓病の再発や発症を予防するための研究と実践」	和泉 徹	北里大学教授
2009年 (第24回)	「家庭血圧・自由行動下血圧に基づく循環器病の予防戦略—大迫研究—」	今井 潤	東北大学教授
2010年 (第25回)	「メタボリックシンドロームの疫学と病態—端野・壮瞥町研究」	島本 和明	札幌医科大学教授

年度 (回数)	受賞研究	受賞者	所属(受領時)
2011年 (第26回)	「秋田県の脳卒中発症登録と健診データを利用した危険因子の解析と応用」	鈴木 一夫	秋田県立脳血管研究センター 部長
2012年 (第27回)	「広島・長崎における循環器疾患疫学研究ならびに NI-HON-SAN 研究と日本循環器病予防セミナーにおける若手研究者育成の推進」	児玉 和紀	放射線影響研究所主席研究員
2013年 (第28回)	「半世紀にわたる循環器疾患の疫学調査－久山町研究－」	清原 裕	九州大学教授
2014年 (第29回)	「生活習慣病に対する総合的保健指導法の開発と普及」	岡山 明	生活習慣病予防研究センター 代表
2015年 (第30回)	「基礎病理から栄養疫学研究に基づく循環器疾患予防の実践」	家森 幸男	武庫川女子大学国際健康開発研究所 所長
2016年 (第31回)	「循環器疾患の個人並びに社会的リスク要因の解明と予防対策の評価」	磯 博康	大阪大学教授
2017年 (第32回)	「循環器予防に携わる人材育成と川崎病による冠状動脈瘤予防研究」	中村 好一	自治医科大学教授
2018年 (第33回)	「循環器病予防への多面的アプローチ」	上嶋 健治	京都大学教授
2019年 (第34回)	「非侵襲的血管機能検査の循環器予防への導入とその有用性の実証」	山科 章	東京医科大学名誉教授

日本不整脈心電学会学術奨励賞

わが国の心電学の進歩に貢献した若手研究者の業績に対し、平成8年度より名称を日本心電学会木村栄一賞から日本心電学会学術奨励賞に変更し、新たに実施することになり、故春見建一当財団常務理事(後に副会長)・日本心電学会名誉会員からの贈金をもって贈呈しています。日本心電学会が日本不整脈心電学会になったことにより名称も変更されました。

年度 (回数)	番号	氏名	所属(受領時)	年度 (回数)	番号	氏名	所属(受領時)
1996年 (第1回)	1	古川 哲史	東京医科歯科大学	2009年 (第14回)	47	芦原 貴司	滋賀医科大学
	2	田淵 利文	熊本大学		48	渡部 裕	新潟大学
1997年 (第2回)	3	徳部 浩司	大分医科大学		49	大野 聖子	京都大学
	4	赤星 誠	名古屋大学		50	多田 毅	岡山大学
1998年 (第3回)	5	土屋 邦彦	岐阜大学	2010年 (第15回)	51	瀬尾 欣也	東京大学
	6	石原 圭子	佐賀医科大学		52	伊藤 英樹	滋賀医科大学
1999年 (第4回)	7	和田 朋之	大分医科大学		53	木下 秀之	京都大学
	8	小野 卓哉	日本医科大学		54	阿部 敦子	杏林大学
	9	吉田 輝久	久留米大学	2011年 (第16回)	55	李 佩俐	鳥取大学
2000年 (第5回)	10	御手洗明香	長崎大学		56	吉田 直樹	名古屋大学
	11	吉田 幸彦	名古屋大学		57	久米 治	大分大学
	12	池田 隆徳	東邦大学		58	牧元 久樹	国立循環器病研究センター
2001年 (第6回)	13	中島 英子	福岡大学	2012年 (第17回)	59	吉田 雅昭	山口大学
	14	鈴木 将	千葉大学		60	木村 紘美	滋賀医科大学
	15	林 明聡	日本医科大学		61	杉山 洋樹	岡山大学
	16	松岡 哲郎	大阪大学		62	成瀬代士久	筑波大学
2002年 (第7回)	17	難波 径豊	香川県立医療短期大学	2013年 (第18回)	63	中谷 洋介	富山大学
	18	横式 尚司	北海道大学		64	石川 泰輔	長崎大学
	19	石井 優	大阪大学		65	福井 暁	大分大学
2003年 (第8回)	20	小川 正浩	福岡大学		66	武 寛	岡山大学
	21	田邊 康子	旭川医科大学	2014年 (第19回)	67	木村 雄弘	慶應義塾大学
	22	大内 克洋	東京医科歯科大学		68	栗原 佳宏	京都大学
23	三好俊一郎	慶應義塾大学	69		鎌倉 令	国立循環器病研究センター	
2004年 (第9回)	24	森田 宏	岡山大学		70	小鹿野道雄	静岡医療センター
	25	川瀬 綾香	東邦大学	2015年 (第20回)	71	福山 恵	滋賀医科大学
	26	北村 秀綱	神戸大学		72	時岡 浩二	岡山大学
27	張 麗艶	名古屋大学	73		山田 優子	京都大学	
2005年 (第10回)	28	木村 正臣	弘前大学		74	滝川 正晃	横須賀共済病院
	29	神鳥 明彦	日立製作所中央研究所	2016年 (第21回)	75	斎藤 幸弘	岡山大学
	30	山田さつき	筑波大学		76	高橋 健太	日本医科大学
31	上田 和雄	東京医科歯科大学	77		安達 亨	筑波大学	
2006年 (第11回)	32	関口 幸夫	武蔵野赤十字病院		78	近藤 秀和	大分大学
	33	荻ノ沢泰司	産業医科大学	2017年 (第22回)	79	山本 雄大	京都大学
	34	奥村 恭男	日本大学		80	八木原伸江	新潟大学
	35	相庭 武司	国立循環器病センター		81	山形研一郎	国立循環器病研究センター
36	阪部 優夫	富山大学	82		Ahmed Talib	筑波大学	
2007年 (第12回)	37	野田 崇	国立循環器病センター	2018年 (第23回)	83	吉田 聡	市立東大阪医療センター
	38	堀江 格	日本医科大学		84	園田 桂子	国立循環器病センター
	39	山崎 正俊	名古屋大学		85	小松 雄樹	筑波大学附属病院
2008年 (第13回)	40	宮本 康二	国立循環器病センター		86	木村 義隆	東北大学
	41	中村 浩章	東京医科歯科大学	2019年 (第24回)	87	岡 英一郎	日本医科大学
	42	淀川 顕司	日本医科大学		88	Ahmed Talib	Najaf center
43	永瀬 聡	岡山大学	89		安部一太郎	大分大学	
44	牧山 武	京都大学	90		Yimin Wuriyanghai	京都大学	
	45	脇坂 収	大分大学				
	46	佐藤 孝志	山口大学				

日本心臓財団小林太刀夫賞

Japan Heart Foundation Tachio Kobayashi Prize

心臓病・脳卒中等の循環器疾患の予防医学の発展を願い、故小林太刀夫日本循環器管理研究協議会初代理事長を追悼記念し、日本循環器病予防学会(旧・日本循環器管理研究協議会)と協同して制定した学術褒賞です。故小林氏は当財団設立時より役員として当財団を支えていただいた方です。

日本循環器病予防学会選考委員会にて循環器病を中心とする生活習慣病予防に永年または近年著しく貢献したと認められる保健師、看護師、管理栄養士等の個人または団体を選考し、当財団理事会にて承認された個人または団体に対し、その年の日本循環器病予防学会学術集会において賞牌と副賞50万円が贈呈されています。

年度 (回数)	受賞者・団体	受賞理由
2005年 (第1回)	久山町健康福祉課保健師グループ(福岡県)	地域住民における生活習慣病予防と健康増進への取り組み—久山町研究
2006年 (第2回)	協和健康づくり実行委員会(茨城県)	脳卒中半減対策事業による成果
2007年 (第3回)	高島市保健師グループ(滋賀県)	地域の生活習慣病予防・治療および地域の疫学調査の実施
2008年 (第4回)	大迫保健師グループ(岩手県)	家庭血圧測定の普及を通じた生活習慣病予防および健康増進
2009年 (第5回)	北海道北見市端野支部・有珠郡壮瞥町保健係グループ	長期間の循環器住民健診実施による地域住民の健康管理における効果
2010年 (第6回)	岩手県矢巾町ヘルスアップ事業グループ	保険者の保健事業への先進的取り組みと医療費効果の実証
2011年 (第7回)	北里大学東病院心臓二次予防センター保健指導グループ	地域医療連携ネットワークを基盤とした心血管病患者に対する重症化予防・再発予防活動の取り組み
2012年 (第8回)	茨城県立健康プラザ保健施策支援ツール開発普及事業グループ	大規模コホート研究に基づいた保健施策支援ツールの開発と普及への取り組み
2013年 (第9回)	兵庫県丹波市健康部健康課丹波市保健活動グループ	保健指導の向上のための保健指導標準化への取り組みとその成果
2014年 (第10回)	八尾市保健担当グループ(大阪府)	都市部における住民主体の循環器疾患予防対策50年の取り組み
2015年 (第11回)	新潟県庁並びに新潟県設置保健所に勤務する行政栄養士グループ	にいがた減塩ルネサンス運動の企画・計画・実施・普及活動
2016年 (第12回)	吹田循環器病予防友の会(さつき循友会)および国立循環器病研究センター予防健診部コメディカルグループ	都市部で循環器予防の啓発と疫学研究を行うための取り組みとその成果
2017年 (第13回)	静岡県庁並びに静岡県総合健康センターの多職種グループ	データに基づく広域的な健康長寿プログラムの推進
2018年 (第14回)	尼崎市ヘルスアップ戦略担当グループ(兵庫県)	市民への戦略的・継続的な循環器疾患予防対策の推進と医療費適正化への実現
2019年 (第15回)	宇久保健福祉センターグループ(長崎県)	18年目を迎える宇久町循環器検診における宇久保健福祉センターの取り組み

「心臓」賞

日本心臓財団と日本循環器学会が共同発行する学術論文誌「心臓」に掲載された一年間の論文より、最優秀賞と優秀賞を選考し、賞状と賞金を贈呈しています。

年度 (回数)	番号	氏名	所属(受領時)	論文(掲載号)	金額 (万円)
2012年 (第1回)	最優秀賞				
	1	山本 昌良	筑波大学	新型インフルエンザ心筋炎に多発筋炎を併発した1例 (心臓 2012; 44: 707-714)	10
	優秀賞				
	2	森田 誠	手稲溪仁会病院	大動脈弁圧較差は硬化性大動脈弁狭窄症の重症度を測るうえで有用な指標か? (心臓 2012; 44: 1013-1019)	5
	3	松添 弘樹	加古川東市民病院	抗プロラクチン療法を施行した周産期心筋症の1例 (心臓 2012; 44: 1406-1411)	5
2013年 (第2回)	最優秀賞				
	4	藤原 雄太	神戸市立医療センター中央市民病院	アミオダロン服用中の甲状腺機能に関する検討 (心臓 2013; 45: 1101-1109)	10
	優秀賞				
	5	寺口 郁子	和歌山県立医科大学	腫瘍崩壊症候群による高カリウム血症により心肺停止にいたった多発性内分泌腫瘍 2A 関連巨大褐色細胞腫の1例 (心臓 2013; 45: 163-168)	5
	6	密岡 幹夫	仙台厚生病院	急性大動脈解離における予後予測因子としての腎機能 (心臓 2013; 45: 663-669)	5
2014年 (第3回)	最優秀賞				
	7	川上 秀生	愛媛県立今治病院	血管内視鏡と光干渉断層法による慢性期のステント評価. 一急性冠症候群に使用したベアメタルステントと第2世代薬剤溶出ステントの比較— (心臓 2014; 46: 861-872)	10
	優秀賞				
	8	高木 泰	聖マリアンナ医科大学	心臓核医学検査にて心筋ミトコンドリア機能異常を認めたミトコンドリア脳筋症の1例 (心臓 2014; 46: 629-636)	5
	9	黒瀬 聖司	関西医科大学 / 武田総合病院	急性冠症候群患者の軽度狭窄病変に対する心臓リハビリテーションの効果 (心臓 2014; 46: 32-39)	5
2015年 (第4回)	最優秀賞				
	10	野呂瀬 準	昭和大学	高齢者の心臓における ATTR アミロイドーシスの臨床病理学的検討 (心臓 2015; 47: 1397-1404)	10
	優秀賞				
	11	大谷 俊人	広島大学	周産期心筋症によるうっ血性心不全に対しプロモクリプチンが著効した1例 (心臓 2015; 47: 382-388)	5
	12	寒河江優美子	横浜市立大学	原発性冠動脈解離の臨床像 (心臓 2015; 47: 690-699)	5
2016年 (第5回)	最優秀賞				
	13	松村憲太郎	香川井下病院	高尿酸血症における血管内皮機能障害と高ホモシステイン血症との関連性 (心臓 2016; 48: 1256-1265)	10
	優秀賞				
	14	川瀬 共治	土谷総合病院	急性冠症候群患者における短期予後予測因子としての乳酸値クリアランスの有用性に関して (心臓 2016; 48: 513-521)	5
	15	中島 孝	岐阜大学	Carney 複合の一家系 (心臓 2016; 48: 774-780)	5

年度 (回数)	番号	氏名	所属(受領時)	論文(掲載号)	金額 (万円)
2017年 (第6回)	最優秀賞				
	16	渡部 智紀	自治医科大学	Brugada 症候群における飲酒と心室性不整脈の関連性 (心臓 2017; 49: 103-109)	10
	優秀賞				
2018年 (第7回)	17	島村 元章	東京警察病院	徐脈性不整脈の家族歴を有し SCN5A に変異を認めた 若年者心房静止の1例 (心臓 2017; 49: 376-381)	5
	18	小丸 達也	東北労災病院	冠疾患患者における慢性閉塞性肺疾患併存と急性冠 症候群発症 (心臓 2017; 49: 665-671)	5
	優秀賞				
2019年 (第8回)	19	大西 達也	四国こどもとおとなの 医療センター	総肺静脈還流異常修復術後の遠隔期に新たな垂直静脈 が発達した1例 (心臓 2018; 50: 75-82)	5
	20	久馬 理史	社会医療法人母恋天使病院	冠動脈後遺症を伴わない川崎病既往成人の追跡状況と その予後 (心臓 2018; 50: 1289-1293)	5
	21	古谷 元樹	広島赤十字・原爆病院	胞状奇胎に伴う異常 hCG 高値により心不全をきたした 1例 (心臓 2018; 50: 1034-1040)	5
2019年 (第8回)	最優秀賞				
	22	関塚 宏光	富士通クリニック	現役労働世代における心房細動の有病率と生活習慣との 関連 (心臓 2019; 51: 1261-1268)	10
	優秀賞				
2019年 (第8回)	23	吉村 由紀	高知医療センター	重度心筋虚血をきたした閉塞性壁内冠動脈アミロイ ドーシスの1例 (心臓 2019; 51: 501-508)	5
	24	渡邊 紀晶	庄原赤十字病院	心不全パンデミックを地域医療から心臓リハビリテー ションを通じて考察する (心臓 2019; 51: 1028-1034)	5

日本心臓財団・日本循環器学会 矢崎義雄奨励賞

Japan Heart Foundation / Japanese Circulation Society Yoshio Yazaki Prize for Encouragement

日本心臓財団と日本循環器学会は、循環器学の進歩に寄与する研究の奨励と、さらに飛躍が期待される40歳以下の若手研究者の育成を目的として、日本心臓財団理事長の矢崎義雄の名を冠した賞を設けました。第1回は日本心臓財団設立50周年記念シンポジウムにて表彰式が行われ、クリスタルと副賞各50万円が贈呈されました。

年度 (回数)	番号	氏名	所属(受領時)	金額 (万円)
2019年 (第1回)	1	楠瀬 賢也	徳島大学助教	50
	2	末永 祐哉	順天堂大学准教授	50

日本心臓財団研究助成

Japan Heart Foundation Research Grant

当財団設立の大きな目標の一つである心臓血管病に関する研究助成事業が昭和48年(1973年)より開始されました。その第1回は「心臓血管病に関する基礎的及び臨床的研究で独創的な研究」を対象に行われ、1972年12月から1973年2月までの応募期間に66件の応募の中から9件の助成対象者が選考されました。1978年まで続き、1979年以降は若手研究者を対象とする研究奨励事業に引き継がれました。

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
1973年 (第1回)	1	「先天性心疾患の形態及び形態発生成因の研究」	安藤 正彦	東京女子医科大学助手	50
	2	「カテコールアミン、冠血管拡張薬の心筋エネルギー代謝に対する作用の研究」	今井 昭一	新潟大学教授	100
	3	「心臓刺激伝導系に対する迷走交感神経活動制御」	入澤 宏	広島大学教授	50
	4	「心行動(cardiac performance)に関する研究、特にメカニクスを中心として」	笹本 浩	慶應義塾大学教授	100
	5	「非収縮性人工心室中隔造設の理論とその裏付け」	関 洲二	岡山大学助手	100
	6	「人工心臓の研究」	高木 啓之	中京病院部長	100
	7	「日本人における冠状動脈血栓症の実態とその成因に関する病理学的研究」	田中 健蔵	九州大学教授	100
	8	「超音波による心力学・血行動態の非観血的診断法の研究」	仁村 泰治	大阪大学助教授	100
	9	「体表面心臓電位分布図による心筋梗塞の部位及び大きさの判定に関する研究」	山田 和生	名古屋大学教授	100
1974年 (第2回)	10	「急性心筋梗塞に対する救急外科療法の研究」	麻田 栄	神戸大学教授	100
	11	「動脈硬化と血栓形成のバイオメカニクス」	東 健彦	信州大学教授	100
	12	「構造と機能からみた心臓代謝の基礎的・臨床的総合研究」	伊藤 良雄	東京大学教授	150
	13	「高血圧に対する交感神経切除の長期的効果」	入内島十郎	東京大学助教授	100
	14	「His 束心電図と心臓刺激伝導系の病理組織学的所見の比較検討」	河合 忠一	京都大学教授	100
	15	「生理的心臓ペースングに関する研究」	須磨 幸蔵	東京女子医科大学教授	100
	16	「リウマチ心炎の発病機転の研究」	寺脇 保	鹿児島大学教授	50
	17	「狭心症の成因に関する研究—心筋虚血に与る交感神経、副腎髄質系の役割—」	宮原 光夫	札幌医科大学教授	100
	18	「安静狭心症の臨床的並びに実験的研究」	村尾 覚	東京大学教授	100
19	「ジギタリス配糖体の薬物効果に関する臨床的基礎的研究」	安田 寿一	北海道大学教授	100	
1975年 (第3回)	20	「レニンの活性化に関する研究」	荒川規矩男	福岡大学教授	100
	21	「不整脈の手術的療法の研究」	岩 喬	金沢大学教授	75
	22	「本態性高血圧症における血行動態とその調節機序」	尾前 照雄	九州大学教授	100
	23	「共通房室弁口を伴った単心室の外科治療に関する研究」	川島 康生	大阪大学講師	75
	24	「高血圧の発症と維持における腎の役割—レニン分泌のバイオリズムに関する研究」	国府 達郎	愛媛大学教授	100
	25	「血管ごとに大動脈及び大型動脈における内皮障害の発生に関する基礎的研究」	住吉 昭信	宮崎医科大学教授	75
	26	「カルシウム拮抗性冠拡張剤の房室結節領域の伝導能及び自動能に対する作用の研究」	平 則夫	東北大学教授	75
	27	「高血圧動物における脂質代謝の酵素的な研究」	沼 正作	京都大学教授	100
	28	「Immunoassay による心筋梗塞の新しい診断方法の開発: 心筋の固有の蛋白である心筋ミオシンの light chain を分離純化して抗体を作成、その radioimmunoassay 法を確立して、心筋傷害時に血中に流出するその特異的な light chain を検出、心筋梗塞の診断を確定し、またその値及び時間的経過より梗塞の大きさと予後を判定しようという全く新しい観点に立った方法の開発である。重症狭心症の予後の判定も試みる。」	矢崎 義雄	東京大学	100

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
1976年 (第4回)	29	「メタコリン・クロライドによる交感神経系の地域性反応パターンに関する研究」	入来 正躬	東京都老人総合研究所	100
	30	「イヌ心室筋収縮能力と細胞内3,5-cyclic AMP 及び3',5'-cyclicGMPとの関連について」	遠藤 政夫	東北大学助教授	100
	31	「川崎病における冠動脈病変の成因、自然歴及び急死の予防に関する研究」	加藤 裕久	久留米大学助教授	100
	32	「植込式超音波マイクロトランスジューサーによる局所心筋動態の解析」	篠山 重威	京都大学助手	100
	33	「脳血管障害の成因と予防に関する研究—血管障害因子活性の <i>in vitro</i> 検定法の開発」	中村 元臣	九州大学教授	100
	34	「本態性高血圧症における高血圧の成因並びに血管病変と副腎皮質との関連について」	福地 総逸	福島県立医科大学教授	100
	35	「世界心臓学会への研究活動」	第8回世界心臓学会組織委員会		200
1977年 (第5回)	36	「三叉神経減圧系：新しく見出された血圧調節機構」	熊田 衛	筑波大学教授	100
	37	「小児・若年者における冠状動脈硬化の発生と進展に関する病理学的研究」	田中 健蔵	九州大学教授	100
	38	「コンピューターディスプレイによる体表面電位分布図の動的解析」	春見 建一	昭和大学教授	100
	39	「心臓洞房結節部のカテコールアミン及びアセチルコリン・リセプターと、環状ヌクレオチド系」	藤原 元始	京都大学教授	100
	40	「肺塞栓・梗塞症における凝固線溶系制御機構に関する研究」	村尾 誠	北海道大学教授	100
	41	「心臓刺激伝導系におけるエネルギー代謝の動態とその生理的意義」	森 博愛	徳島大学教授	100
	42	「異型狭心症の病因に関する研究」	泰江 弘文	静岡市立静岡病院科長	100
43	「新しい経皮的ペースメーカー心筋電極の開発」	横山 正義	東京女子医科大学助教授	100	
1978年 (第6回)	44	「アポ蛋白Cの定量法の開発と臨床的応用」	古賀 俊逸	九州大学講師	100
	45	「皮膚及び筋肉の刺激によって誘発される心臓機能の反射性調節に関する神経生理学的研究」	佐藤 昭夫	東京都老人総合研究所	100
	46	「イヌ諸静脈の α -アドレナリン作動薬に対する感受性の吟味、特に静脈系発生との関連について」	重井 達朗	名古屋大学教授	100
	47	「心筋細胞に見られる電氣的振動現象の定量的解析—不整脈の成因との関連について」	瀬山 一正	広島大学助教授	100
	48	「本態性高血圧症における降圧剤の選択—特に血漿レニン活性及び血中イオン化カルシウム濃度と各種薬剤の降圧効果について」	八木 繁	独協医科大学助教授	100
	49	「開心術後低心拍量症状群における代謝の研究—特に水分、電解質代謝異常とホルモン動態の関連及びGIK治療法の代謝効果について」	吉竹 毅	東京大学講師	100
	50	「心臓の興奮消褪過程に関する研究」	渡部 良夫	名古屋保健衛生大学教授	100

日本心臓財団・東京海上火災研究助成

Japan Heart Foundation / Tokyo Marine & Fire Insurance Research Grant

東京海上火災保険株式会社が同社の設立30周年を記念して「すみよい社会づくり」を目指しての寄附による研究助成。国の研究助成が本格化する以前における総合研究助成として、わが国循環器学の振興に大きな力を発揮いたしました。

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属	助成額 (万円)
1975年 (第1回)	1	「心臓血管病の関与する災害事故の予知・予防の研究」	千葉 保之	国鉄中央病院顧問	200
	2	「地域登録制度を基盤とした脳卒中の実態把握とその予防に関する研究」	小町 喜男	大阪府立成人病センター部長	200
	3	「モデル動物による脳卒中の予知・予防に関する基礎的研究」	家森 幸男	京都大学助手	150
	4	「不整脈の発生機序に関する基礎的研究」	佐野 豊美	東京医科歯科大学教授	150
	5	「児童・生徒の急性心臓死の実態とその予防に関する研究」	北村 和夫	順天堂大学教授	100
	6	「動脈硬化の生化学的アプローチー心動脈壁 cholesteryl ester 蓄積機構の解析」	高野 達哉	広島大学助教授	100
	7	「抗血栓性物質の開発」	松本 博志	東京大学助手	100
1976年 (第2回)	8	「災害事故発生前後の循環器所見の予知方法との関連についての研究」	福田 安平	国鉄循環器管理研究会事務局長	150
	9	「脳卒中登録データに基づく予後決定因子の解明と再発及び悪化防止に関する研究」	旗野 脩一	東京都老人総合研究所部長	150
	10	「心筋梗塞発症の予知・予防に関する臨床的および疫学的研究」	岩塚 徹	愛知県総合保健センター部長	100
	11	「心筋の膜電流及び電気的特性に対する抗不整脈剤の作用」	橋本敬太郎	新潟大学助教授	100
	12	「動脈硬化の成因に関する流体物理学的研究」	東 健彦	信州大学教授	100
	13	「実時間心音周波数分析装置による人工弁機能の解析」	井上 正	慶應義塾大学教授	100
	14	「血管平滑筋細胞の局所機能的特異性に関する研究」	栗山 照	九州大学教授	100
	15	「高血圧におけるノルエピネフリンの役割」	曾我部博文	自治医科大学教授	100
	16	「各種心疾患における心起電力変化のシミュレーション解析」	古川 俊之	東京大学教授	100
1977年 (第3回)	17	「心臓血管病の関与する交通事故の予知・予防の研究」	福田 安平	国鉄循環器管理研究会事務局長	200
	18	「洞不全症候群における失神発作及び急死の予知と予防に関する研究」	橋場 邦武	長崎大学教授	200
	19	「血圧情報の客観化と効率化に関する研究ーとくに自動血圧計の実用化について」	佐々木直亮	弘前大学教授	200
	20	「動脈硬化の小児期よりの予防に関する研究」	大国 真彦	日本大学教授	200
	21	「急性期心筋梗塞及びその合併症に対する外科治療ー救急医療の面より」	川島 康生	大阪大学助教授	200
1978年 (第4回)	22	「放射性タリウム心筋梗塞イメージの客観的解析」	永井 輝夫	群馬大学教授	200
	23	「急性心筋梗塞発症直後の体液性変化に関する研究」	鈴木 信	琉球大学助教授	200
	24	「心臓血管病の関与する災害事故の体表面電位分布図による予知・予防の研究」	岡島 光治	名古屋保健衛生大学教授	200
	25	「心筋梗塞の臨床疫学的研究ならびにその発症因子に関する酵素学的研究」	堀内 淑彦	東京大学教授	200
	26	「日本人小児・若年者の動脈硬化の実態とその発生・進展・退縮要因に関する基礎的研究」	田中 健蔵	九州大学教授	200
1979年 (第5回)	27	「喫煙の心臓血管系への影響に関する研究」	伊藤 良雄	三楽病院長	200
	28	「急性心臓死をきたす可能性のある心疾患児の病歴情報処理システムの開発に関する研究」	森 忠三	島根医科大学教授	200
	29	「虚血性心疾患の二次予防に関する基礎的研究ーとくに運動療法の効果の評価について」	道場 信孝	ライフプランニングセンター部長	200

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属	助成額 (万円)
1979年 (第5回)	30	「心磁図検査法による心疾患に関する基礎的研究」	大道 久	国立病院医療センター 室長	200
	31	「左室ポンプ機能不全心（急性心筋梗塞、開心術後症例）に対する心筋代謝連続モニタリングに基づく循環管理に関する研究」	半谷 静雄	北里大学講師	200
1980年 (第6回)	32	「携帯型装置を用いての心電図長時間記録（ホルター法）による心臓発作の診断とその病態生理学的発生機序の研究」	岡島 光治	名古屋保健衛生大学 教授	200
	33	「先天性心奇形の発生要因に関する研究—胎児の潜在的ウイルス感染の関与を中心に」	渡辺 正男	富山医科薬科大学教授	200
	34	「若年性動脈硬化症への危険因子としての川崎病後遺病変に関する病理学的研究」	直江 史部	東邦大学助教授	200
	35	「心臓血管病におけるプロスタグランディン-トロンボキサン系の関与」	戸田 昇	滋賀医科大学教授	200
	36	「急性解離性大動脈瘤の救急治療体系の確立に関する研究」	井上 正	慶應義塾大学教授	200
1981年 (第7回)	37	「わが国の循環器疾患発症にかかわる社会・経済・文化的要因に関する研究」	根岸 龍雄	東京大学教授	200
	38	「心筋梗塞急性期に合併する心室性不整脈の成因とそれに対する抗不整脈剤の作用機序に関する実験的研究」	山田 和生	名古屋大学教授	200
	39	「脳卒中の発生病理と予防治療に関する基礎的研究」	尾崎 正若	長崎大学教授	200
	40	「ヒトレニン直接ラジオイムノアッセイの確立と高血圧の病因・病態に関する研究」	熊原 雄一	大阪大学教授	200
	41	「光ファイバー型レーザドプラ血流速度計の開発と心臓血管内空間血流速度ベクトル計測—評価に関する研究」	梶谷 文彦	川崎医科大学教授	200
1982年 (第8回)	42	「川崎病原因究明に関する諸研究」	重松 逸造	川崎病原因究明委員会 委員長	1,000

*1992年より、日本の研究機関、医療施設に研修を希望するASEAN諸国の研究者または日本循環器学会はじめ関連学会に参加発表するASEAN諸国の研究者に助成しました。

日本心臓財団・日本IBM研究助成

Japan Heart Foundation & IBM Japan Research Grant

日本アイ・ビー・エム株式会社が同社の設立55周年を記念して、利益の社会還元の一環として循環器学における総合研究に対して理解を示され、研究課題の設定、研究者の公募等、新しい形の研究助成を行いました。

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属	助成額 (万円)
1980年 (第1回)	1	「日本における成人病予防のための基礎的疫学研究—血液成分と高血圧—動脈硬化性所見との関連」	小町 喜男	筑波大学教授	500
	2	「心筋梗塞のモデルの開発とその成因、予知、予防に関する研究」	家森 幸男	島根医科大学教授	500
	3	「体表面心臓電位図の臨床応用に関する基礎的研究」	春見 建一	昭和大学教授	500
	4	「わが国における循環器病研究の将来像」	入澤 宏	岡崎国立共同研究機構 生理学研究所教授	500
1982年 (第2回)	5	「マクロモデルによる循環器疾患対策による予測評価の研究」	古川 俊之	東京大学教授	500
	6	「全置換型人工心臓の開発と基礎医学への応用」	阿久津哲造	国立循環器病センター 研究所副所長	500
	7	「高血圧の病態と食塩の役割に関する研究」	金子 好宏	横浜市立大学教授	500
	8	「虚血性心疾患のプライマリー・ケアとしてのCCUネットワークと現状」	高野 照夫	日本医科大学助教授	500
1984年 (第3回)	9	「学校における心臓検診システムの精度維持向上に関する研究」	大国 真彦	日本大学教授	1,000
	10	「心筋梗塞の再発予防に関する研究」	細田 瑛一	自治医科大学教授	1,000
1986年 (第4回)	11	「心臓病予防制圧対策研究」(指定研究)	大谷 藤郎	厚生省社会保険審査会 委員	1,000
	12	「運動中の突然死の予防に関する研究」	村山 正博	聖マリアンナ医科大学 教授	1,000
1988年 (第5回)	13	「心臓病予防制圧対策研究」(指定研究)	大谷 藤郎	藤楓協会理事長	1,000
	14	「不整脈治療の適用と評価に関する研究」	杉本 恒明	東京大学教授	1,000
1991年 (第6回)	15	「心臓病予防環境整備についての研究」(指定研究)	大谷 藤郎	藤楓協会理事長	1,000
	16	「無症候性心筋虚血の対策に関する研究」	戸嶋 裕徳	久留米大学教授	1,000
1993年 (第7回)	17	「孤束核に終末する血圧制御受容器第一次求心性神経伝達物質、L-DOPAの受容体クローニングと高血圧における遺伝子発現」	植田 弘師	横浜市立大学助教授	200
	18	「血管透過性の制御機構：内皮細胞のTight Junction接着分子の同定」	月田承一郎	岡崎国立共同研究機構 生理学研究所教授	200
	19	「ミトコンドリア遺伝子変異に基づく心筋症の解明」	早川 美佳	名古屋大学助手	200
	20	「圧負荷による肥大心筋に認めるイオンチャネル変調における細胞骨格系の役割」	古川 哲史	東京医科歯科大学 助手	200
	21	「洞結節における細胞歩調取り機能の部位差に関する研究」	本荘 晴朗	名古屋大学	200
1994年 (第8回)	22	「心筋分化、心肥大におけるテネシンの役割に関する研究」	今中-吉田恭子	三重大学助手	200
	23	「バルーン血管拡張術後の内膜肥厚発症の分子機構の解明および遺伝子治療法の開発」	多久和 陽	東京大学助教授	200
	24	「骨格筋リアノジン受容体欠損マウス由来培養筋細胞を利用したリアノジン受容体サブタイプの生理機能解析」	竹島 浩	東京都精神医学総合 研究所	200
	25	「スカベンジャー受容体欠損マウスを用いたアテローム性動脈硬化発症機構の解析」	土井 健史	大阪大学助教授	200
	26	「脂肪細胞への分化を促進する転写因子C/EBP α を過剰発現するトランスジェニックマウスにおける心血管病変」	萩原 正敏	名古屋大学講師	200
1995年 (第9回)	27	「電位依存性ナトリウムチャネル-カルシウムチャネルからなるキメラ構造イオンチャネルの開閉を規定する分子構築に関する研究」	小野 克重	大分医科大学講師	200

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属	助成額 (万円)
1995年 (第9回)	28	「脳虚血による神経細胞死とグルタミン酸トランスポーター」	島田 昌一	大阪大学講師	200
	29	「発生期の心筋カリウムチャネルの機能変化と遺伝子配列の関連性」	當瀬 規嗣	札幌医科大学助教授	200
	30	「TGF-βスーパーファミリーの受容体とシグナル伝達機構の研究」	宮園 浩平	癌研究会癌研究所部長	200
	31	「心筋の初期発生分化に関わる MEF2 関連転写因子の機能解析」	森崎 隆幸	国立循環器病センター 研究所室長	200
1996年 (第10回)	32	「初期硬化血管における収縮能抑制因子の分子生物学的同定」	大池 正宏	九州大学講師	200
	33	「生理活性物質による血管内皮細胞 Ca 流入増加のメカニズム解明」	尾野 恭一	秋田大学助教授	200
	34	「クローン化 ATP 感受性 K チャネルのゲート機構の研究」	鷹野 誠	京都大学助手	200
	35	「新しい自殺遺伝子系による血管狭窄病変に対する遺伝子治療の臨床応用」	馬目 佳信	東京慈恵会医科大学助手	200
	36	「心筋の興奮収縮連関におけるジヒドロピリジン受容体βサブユニットの役割」	村山 尚	順天堂大学助手	200
1997年 (第11回)	37	「心筋活動電位再分極における内向き整流カリウム電流の役割」	石原 圭子	佐賀医科大学助手	200
	38	「虚血に対するストレス応答機構の解析と、脳血管性痴呆に対する治療法の確立」	小川 智	大阪大学助教授	200
	39	「チャンネル・トランスポータにおける塩基性アミノ酸集合領域の機能解析」	松岡 達	京都大学助手	200
	40	「β2 アドレナリンレセプター (B2AR) 遺伝子導入による慢性心不全の遺伝子治療」	松田 修	京都府立医科大学講師	200
	41	「心室筋イオンチャネルの細胞骨格を介する調節機構」	矢沢 和人	旭川医科大学助手	200
1998年 (第12回)	42	「エンドセリン-1 で活性化される非選択的陽イオンチャネルのクローニング」	岡本 安雄	京都大学助手	100
	43	「変異コネクシン発現による心筋 Ca トランジェント異常のリアルタイム可視化」	小山田ゆみ子	京都府立医科大学助手	100
	44	「Isk ドミナントネガティブ変異体を用いた不整脈マウスの作成と解析」	内匠 透	神戸大学講師	100
	45	「新規 cardiostrophic factor HGF による心筋症の治療研究」	松本 邦夫	大阪大学助教授	100
	46	「ダブル分子毛細管血流トレーサによる最小細動脈塞栓時の微小心筋障害の解析」	松本 健志	川崎医療短期大学助教授	100
1999年 (第13回)	47	「ヒト骨髄細胞より心筋細胞をつくる」	梅澤 明弘	慶應義塾大学助教授	100
	48	「変異型 MCP-1 遺伝子導入による肥大心の心不全への進展予防治療の開発」	甲斐 久史	久留米大学講師	100
	49	「血管内皮細胞内 Ca ²⁺ 流入増加を制御する Cl ⁻ チャネルの解明」	佐藤 栄作	秋田大学助手	100
	50	「Body Mapping を利用した特発性心筋症の候補遺伝子アプローチ」	副島 英伸	佐賀医科大学助手	100
	51	「心筋細胞興奮性の遺伝子工学的制御ーバイオペースメーカーの可能性の探求」	李 鍾国	名古屋大学助手	100
2000年 (第14回)	52	「Rho/Rho-キナーゼ経路を介した血管平滑筋収縮機構の解析」	天野 睦紀	奈良先端科学技術大学 助手	100
	53	「ミオシン・リン酸化を伴わない血管平滑筋収縮の機序」	叶 麗虹	群馬大学	100
	54	「心筋虚血時に分泌されるサイトカインの解析ーゲノム情報を用いた生理活性因子の同定」	水上 洋一	山口大学講師	100
	55	「心筋細胞筋小胞体内 Ca ²⁺ 制御機構ーCa ²⁺ 蛍光蛋白 cameleon を用いた検討」	八尾 厚史	埼玉医科大学	100
	56	「新規 MAP kinase、BMK1 をターゲットとした、心臓リモデリングに対する新しい治療法の開発」	吉栖 正典	徳島大学助手	100

日本心臓財団入澤宏・彩記念研究奨励

Japan Heart Foundation Dr. Hiroshi Irisawa & Dr. Aya Irisawa Memorial Research Grant

入澤宏記念研究奨励(1992～2001年)は、1991年に逝去された入澤宏先生(岡崎国立共同研究機構生理学研究所名誉教授)のご遺志により遺贈された寄附金をもとに、循環器領域の基礎研究に取り組む30歳未満の将来性ある若手研究者に贈呈されました。

入澤宏・彩記念研究奨励は、2009年に逝去された入澤彩先生が故・入澤宏先生のご遺志を継ぐ形で遺贈された寄附金をもとに、循環器領域の若手基礎研究者および女性研究者に贈呈するものとし、日本心臓財団研究奨励の応募者より基礎研究室所属の中から3名に記念研究奨励、女性の中から1名に記念女性研究奨励を贈呈しました。

入澤宏記念研究奨励

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	金額 (万円)
1992年 (第1回)	1	「Caged-Ca による心筋 Na/Ca 交換機転分子機構の研究」	塩谷 孝夫	九州大学	100
1993年 (第2回)	2	「ノルアドレナリンの血管平滑筋細胞内カルシウム動員における負帰還制御」	山澤徳志子	東京大学	100
1994年 (第3回)	3	「脳血液関門形成促進因子の分子クローニング」	桜井 武	筑波大学講師	100
1995年 (第4回)	4	Kupffer 細胞, 伊東細胞等の酸化 LDL の取り込みとこれに及ぼす O ₂ ⁻ , NO および酸素分圧の影響」	岩槻 美里	大阪市立大学	100
1996年 (第5回)	5	「動脈硬化におけるエストロゲンレセプターの役割」	阿古 潤哉	東京大学	100
1997年 (第6回)	6	「心筋障害と遺伝要因— HLA 抗原との相関」	椎名 隆	東海大学	100
1998年 (第7回)	7	「血管内皮の脈管作働物質産生能に及ぼす過剰グルコースの影響」	木村 千稚	九州大学	100
1999年 (第8回)	8	「虚血性脳血管障害における血管新生因子の動態および役割に関する研究」	林 健	岡山大学助手	100
2000年 (第9回)	9	「マウス移植心における Egr-1 の発現と Egr-1 アンチセンスオリゴを用いた慢性拒絶反応の抑制」	和田 有子	信州大学	100
2001年 (第10回)	10	「G 蛋白質制御カリウムチャネルの生理的調節機構とその分子基盤の解明」	石井 優	大阪大学助手	100

入澤宏・彩記念研究奨励

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	金額 (万円)
2010年 (第1回)	1	「形質転換とエピジェネティクス制御を利用した安全かつ効率的な心臓再生療法の開発」	川村 晃久	京都大学特定助教	100
	2	「心筋虚血再灌流におけるミトコンドリア蛋白アセチル化修飾の意義解明と治療への応用」	久野 篤史	札幌医科大学助教	100
	3	「生理活性ペプチドを用いた心不全に対する迷走神経刺激療法の開発」	清水 秀二	国立循環器病研究センター研究所	100
2011年 (第2回)	4	「癌抑制遺伝子 NDRG2 の欠損による恒常的 AKT 活性が惹起する心肥大の機序解析」	市川 朝永	宮崎大学	100
	5	「心臓形態形成過程における BMP シグナルの意義とその下流で働く分子メカニズムの解明」	坂部 正英	奈良県立医科大学助教	100
	6	「プロテオグリカン合成異常による心臓弁形成不全の発症メカニズムの解明」	水本 秀二	北海道大学	100
2012年 (第3回)	7	「細胞移植療法を目指した糖鎖プロファイルによる高齢者由来心筋細胞の特性解析」	板倉 陽子	東京都健康長寿医療センター研究所	100
	8	「活性酸素誘導性分子 Hic-5 の機能解析による新規大動脈瘤治療標的分子の確立」	金山 朱里	昭和大学講師	100
	9	「生理活性ペプチドを用いた心筋症に対する新しい治療法の開発」	戦 冬雲	国立循環器病研究センター研究所	100
2013年 (第4回)	10	「心血管疾患の発症機序における血管内皮幹細胞システムの役割の解明と予防及び治療への応用」	内藤 尚道	大阪大学助教	100

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	金額 (万円)
2013年 (第4回)	11	「生体光分子イメージングを用いた心血管イベントの発症予測デバイスの開発」	西村 智	自治医科大学教授	100
	12	「マクロファージピノサイトーシスを標的とした新規動脈硬化治療戦略の構築」	宮崎 拓郎	昭和大学助教	100
2014年 (第5回)	13	「平滑筋由来 HIF-1 α による弾性繊維再構築を介した大動脈瘤形成抑制機構の解明」	今西 正樹	鳥取大学助教	100
	14	「 <i>In vivo</i> ナノイメージングによる心疾患の病態解析」	小比類巻生	東京慈恵会医科大学助教	100
	15	「血管内皮細胞における ROS 産生への GRK2 及び β -arrestin 2 の役割」	水野 夏実	富山大学助教	100
2015年 (第6回)	16	「小胞体シャペロンを基盤にしたアルドステロン合成機構の解明と新規降圧薬の開発」	沖 健司	広島大学助教	100
	17	「ヒト心筋細胞移植療法実現へ向けた患者移植用 iPS 細胞株の樹立および選抜法の最適化」	関 倫久	慶應義塾大学助教	100
	18	「Plasminogen activator /plasmin 系の制御による腹部大動脈瘤進展の抑制」	田中 宏樹	浜松医科大学助教	100
2016年 (第7回)	19	「エクソーム解析による家族性房室結節リエントリー性頻拍の遺伝子異常の解明」	石川 泰輔	長崎大学助教	100
	20	「電位センサードメインに作用する hERG 賦活薬の hERG1 活性化メカニズムの解明」	横川真梨子	慶應義塾大学助教	100
	21	「新規ユビキチン様修飾分子による抗動脈硬化作用の解明」	渡部 昌	北海道大学助教	100
2017年 (第8回)	22	「柑橘系果皮成分ノビレチンの心肥大抑制作用機序の解明及び展開医療研究」	砂川 陽一	静岡県立大学助教	100
	23	「小胞体関連分解 ERAD の機能不全が招く心脆弱性の分子機序解明」	樋口(江浦)由佳	国立循環器病研究センター	100
	24	「先天性心疾患モデルマウスを用いた心形成不全の病態解明」	與五沢里美	東京慈恵会医科大学助教	100
2018年 (第9回)	25	「スプライシング制御因子 Rbm20 変異による心房細動発症メカニズムの機序解明」	井原 健介	東京医科歯科大学助教	100
	26	「心筋ミトコンドリアを標的とした、心不全治療薬の開発」	田中 愛	信州大学	100
	27	「大動脈瘤マウスモデルを用いた血管壁の機械刺激応答メカニズムの解明」	山城 義人	筑波大学助教	100
2019年 (第10回)	28	「川崎病の免疫グロブリン療法抵抗性マーカーとしての低頻度一塩基遺伝子多型」	天野 勇治	信州大学助教	100
	29	「AT ₁ アンジオテンシン受容体- β アレスチン系を活性化する新規小児心不全治療薬開発」	川岸 裕幸	信州大学助教	100
	30	「本邦特有 PCSK9 遺伝子変異による家族性高コレステロール血症の重症化機序の解明」	堀 美香	国立循環器病研究センター 研究所室長	100

入澤宏・彩記念女性研究奨励

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
2010年 (第1回)	1	「RANKL システムとレニン・アンジオテンシン系を基盤とした血管老化機序の解析」	大窪マリアナ 今日美	大阪大学	100
2011年 (第2回)	2	「心血管疾患における IgG4 関連自己免疫の関与に関する検討」	坂本 愛子	東京大学	100
2012年 (第3回)	3	「老化シグナルにより制御される糖尿病と心不全の共通基盤病態の解明」	吉田 陽子	千葉大学	100
2013年 (第4回)	4	「心筋梗塞における好中球細胞外トラップ (NETs) の役割解明と治療への応用」	田尻 和子	筑波大学助教	100
2014年 (第5回)	5	「Phase mapping による心房細動中の左房の興奮伝播様式の解明」	佐々木直子	日本大学	100
2015年 (第6回)	6	「成人先天性心疾患フォンタン循環における心臓・腹部血流異常と主要合併症との関係」	椎名 由美	聖路加国際病院	100
2016年 (第7回)	7	「乳児ミトコンドリア心筋症の新規原因遺伝子の探索および血液を用いた発症前診断の確立」	今井 敦子	大阪大学特任助教	100
2017年 (第8回)	8	「2型自然リンパ球 (ILC2) による心室リモデリング誘導機序の解明」	工藤 藤美	千葉大学特任助教	100
2018年 (第9回)	9	「特発性心室細動の新展開：全エクソン解析による遺伝要因と発症機序の解明」	チャペイ チェン	国立循環器病研究センター研究所	100
2019年 (第10回)	10	「血管機能が潜在性左室機能障害に与える影響；HFpEF の病態機序解明と新たな治療戦略の構築」	吉田由理子	東京大学	100

日本心臓財団・ゼリア新薬工業分子循環器研究助成

Japan Heart Foundation / Zeria Pharmaceutical Grant for Research on Molecular Cardiology

ゼリア新薬工業株式会社の協力により循環器領域において分子生物学的手法を用いて研究を行う40歳以下の少壮研究者に対し助成を実施いたしました。

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
1995年 (第1回)	1	「エンドセリン遺伝子のジーンターゲットによる先天性心疾患モデルの作成とその発症機序の解析」	栗原 裕基	東京大学助手	100
	2	「HVJ-liposome 法によるカルシウム活性化中性蛋白分解酵素(CANP) 関連遺伝子の in vivo 導入による心筋変化の解析」	申 偉秀	東京大学	100
	3	「pH-dependent K channel の心臓におけるクローニング」	鈴木 誠	自治医科大学助教授	100
	4	「肥大大心および不全心における収縮不全の発生機序に関する細胞・分子生物学的研究—ヒト術中心筋生検標本より単離した心筋細胞を用いた検討」	田川 博章	九州大学	100
	5	「心筋細胞の分化および機能制御にかかわる gp-130 を介する情報伝達系の役割解明に関する研究」	瀧原 圭子	大阪大学助手	100
	6	「心筋小胞体 CaATPase とホスホランパンの interaction site の構造解析」	豊福 利彦	大阪大学	100
	7	「心筋細胞の細胞周期調節と終末分化の機序の解明」	福田 恵一	慶應義塾大学助手	100
	8	「エンドセリン受容体拮抗薬を用いた心不全に対する新しい治療法の開発を目指した分子生物学的研究」	宮内 卓	筑波大学講師	100
	9	「転写調節因子制御による遺伝子発現調節操作と循環器疾患の遺伝子治療への応用：転写調節因子 E2F 制御による経皮経血管拡張術後再狭窄に対する遺伝子治療」	森下 竜一	大阪大学	100
	10	「粥状動脈硬化発症ならびに進展過程における新しい酸化 LDL 受容体 CD36 の意義に関する研究」	山下 静也	大阪大学助手	100
1996年 (第2回)	11	「拡張型心筋症の分子遺伝学的解析」	阿南隆一郎	鹿児島大学	100
	12	「マウス初期胚における心筋分化機構の解明」	新井 章子	名古屋大学	100
	13	「アンジオテンシン II 2 型受容体の副腎髄質における組織特異的発現の分子機構と血圧調節における役割の検討」	市来 俊弘	九州大学	100
	14	「心室リモデリングにおけるサイトカイン誘導性転写因子の役割」	倉林 正彦	東京大学助手	100
	15	「Cardiotrophin-1 の心室リモデリングにおける意義解明」	斎藤 能彦	京都大学助手	100
	16	「心筋細胞肥大 signal に及ぼす低分子量 G 蛋白質 rhoA p21 の役割」	佐古田 剛	神戸大学非常勤講師	100
	17	「心筋小胞体カルシウム遊離チャネルの転写調節機構の検討」	西田 和彦	大阪大学	100
	18	「伸展刺激応答クロライドチャネル遺伝子の構造解析と活性化分子機構の検討—病態下不整脈発現機序の分子生物学的研究」	古川 哲史	東京医科歯科大学助手	100
	19	「心不全、心筋梗塞におけるアポトーシスの役割—ウイルス性心筋炎および虚血再灌流モデルを用いた分子生物学的研究」	山田 武彦	京都大学	100
	20	「分子生物学的手法を用いた冠攣縮性狭心症の原因解明に関する検討—冠攣縮における血管内皮型一酸化窒素合成酵素(eNOS) 遺伝子異変の関与」	吉村 道博	熊本大学助手	100
1997年 (第3回)	21	「心筋細胞内 Ca ²⁺ 輸送蛋白の遺伝子転写とシグナル伝達系の解析—心不全発症機構の解明と治療への応用」	新井 昌史	群馬大学助手	100
	22	「cGMP カスケードによる血管平滑筋増殖分化制御に関する分子医学的検討—新しい心血管系特異的ホメオボックス遺伝子 Gax の意義」	伊藤 裕	京都大学助手	100
	23	「gp130 を介する情報伝達系 (Jak-STAT 系) の心筋細胞における役割解明に関する研究—変異 STAT3 遺伝子導入心筋細胞および心筋特異的変異 STAT3 発現トランスジェニックマウスを用いて」	国定 慶太	大阪大学	100
	24	「IGF-I/IGF-IR の overexpression による心筋細胞の増殖能とイオンチャネルの発現の修飾」	郭 為農	名古屋大学	100

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
1997年 (第3回)	25	「エンドセリン拮抗薬の心不全改善メカニズムに関する分子薬理学的研究」	酒井 俊	筑波大学助手	100
	26	「虚血・再灌流(低酸素・再酸化) ストレスに対する心筋細胞応答の分子機構の解明およびそれに基づく治療法の確立」	世古 義規	東京大学助手	100
	27	「循環器疾患における brain natriuretic peptide (BNP) 遺伝子の急性期発現亢進の分子機構についての研究」	中川 修	熊本大学助手	100
	28	「心筋細胞分化における transcriptional co-activator p300 の役割— p300 による心筋特異的転写調節機構の解明」	長谷川浩二	京都大学助手	100
	29	「肥大心における細胞骨格蛋白の動態の解明—特に心筋ジストロフィンの遺伝子発現について」	前田 雅人	鹿児島大学	100
	30	「分子・個体レベルでのアンジオテンシン2型受容体発現調節・生理作用の解明」	松原 弘明	関西医科大学講師	100
1998年 (第4回)	31	「酸化的ストレス応答からみた急性冠動脈症候群の発症機構の解明」	井上 信孝	神戸大学助手	100
	32	「心筋細胞内の情報伝達における PI3-kinase の役割とその活性化機構の検討—PI3-kinase を介した protein kinase B と p70 S6 kinase の活性化による心筋保護及び心筋肥大作用の解明」	王 英正	大阪大学	100
	33	「平滑筋ミオシン重鎖遺伝子プロモータを用いた平滑筋細胞特異的転写因子のクローニング」	加藤 洋一	順天堂大学助手	100
	34	「新しく発見した脂肪細胞由来コラーゲン様物質(Adiponectin)の動脈硬化抑制作用とその分子機構の解明」	木原 進士	大阪大学	100
	35	「高血圧症における klotho 遺伝子の果たす役割」	斎藤勇一郎	群馬大学	100
	36	「遺伝性心筋症に対する新しい治療法の開発」	阪本 英二	東京大学	100
	37	「内皮由来一酸化窒素が蛋白合成に中心的役割を果たす p70 S6 kinase に及ぼす影響」	南野 哲男	大阪大学	100
	38	「バルーン傷害血管の中膜における遺伝子発現—Subtractive Hybridization 法による分子生物学的検討」	宮田 昌明	鹿児島大学	100
	39	「腎血行動態および循環調節における心臓血管ホルモンの意義に関する分子医学的研究」	向山 政志	京都大学助手	100
	40	「高脂血症における虚血組織内の血管新生に関する研究」	室原 豊明	久留米大学助手	100
	41	「動脈硬化におけるアンジオテンシン産生系の遺伝子発現調節機構の細胞生物学的検討」	楽木 宏美	大阪大学	100
1999年 (第5回)	42	「不全心筋におけるアンジオテンシン受容体とβ受容体シグナリング間のクロストーク—プロテインキナーゼC アイソフォームイプシロン(PKC ε)の役割」	安斉 俊久	慶應義塾大学助手	100
	43	「Klotho 蛋白の分子機能と循環器疾患の発症に果たす役割の解明」	大山 良雄	群馬大学	100
	44	「心臓ホルモンとしての脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)の生理的・病態生理的意義の検討:BNP ノックアウトマウスを用いた検討」	小川 佳宏	京都大学助手	100
	45	「心臓の発生・分化のメカニズム—心筋特異的ホメオボックス遺伝子(CSX)と会合する分子の単離およびその解析」	久藤 純代	東京大学	100
	46	「腫瘍壊死因子(TNF-α)過剰発現マウスにおける心不全の発症機序の解明」	久保田 徹	九州大学	100
	47	「イオンチャネル病における心電図異常の細胞学的成因、頻脈性不整脈の発生機序および薬物治療—心電図と心筋活動電位の同時記録が可能な動脈灌流心室筋切片標本を用いたQT延長症候群およびBrugada症候群モデルによる検討」	清水 渉	国立循環器病センター	100
	48	「Cre/loxP ターゲティングシステムを用いた平滑筋特異的変異マウスの作製」	高橋 克仁	大阪府立成人病センター	100
	49	「高比重リポ蛋白(HDL)による動脈硬化防御機構,コレステロール逆転送系の分子機構の解明—ヒト単球由来マクロファージ及び粥状動脈硬化巣に発現するHDL受容体,SR-BIとその変異体に着目して」	平野 賢一	大阪大学	100
	50	「心筋病態における心筋保護シグナルの活性化とその臨床的意義に関する研究」	藤尾 慈	大阪大学	100

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
1999年 (第5回)	51	「甲状腺ホルモン受容体ドミナントネガティブ突然変異遺伝子導入による心筋細胞興奮特性の修飾—致死的不整脈に対する遺伝子治療を目指して」	李 鍾国	名古屋大学助手	100
2000年 (第6回)	52	「動脈硬化の発症と進展に関与する血小板と白血球の相互作用の分子機構」	後藤 信哉	東海大学講師	100
	53	「新しい血管新生療法に関する基礎的研究—特に増殖因子単独投与に反応不良例への対応策の検討」	佐田 政隆	東京大学	100
	54	「血行力学的負荷による心肥大形成及び心不全移行におけるカルシニューリンの関与の検討—カルシニューリン阻害という全く新たな観点による心肥大及び心不全治療法の展望」	下山 晶樹	鳥取大学	100
	55	「心筋型 ATP 感受性 K チャネル活性化におけるイノシトール燐酸カスケードの役割」	謝 来華	京都大学	100
	56	「電位依存性 L 型 Ca ²⁺ チャネルのリン酸化による機能調節機序の検討—特にインターロイキン -6 family である白血球阻止因子と gp130 を介して活性化された ERK1/2 系キナーゼが、電位依存性 L 型 Ca ²⁺ チャネルをリン酸化することによる調節機序の検討」	高橋 栄一	慶應義塾大学助手	100
	57	「虚血性心疾患に対する VEGF-2 遺伝子を用いた血管新生療法の臨床応用に関する研究」	竹下 聡	帝京大学講師	100
	58	「本態性高血圧症及び脳梗塞の原因遺伝子の検索—プロスタサイクリン合成酵素遺伝子及びナトリウム利尿ペプチド受容体遺伝子との関連について」	中山 智祥	日本大学助手	100
	59	「内皮由来過極因子 (EDHF) の血液線溶系に対する作用機構」	野出 孝一	大阪大学	100
	60	「セミインタクトシステムによる血小板凝集・顆粒放出メカニズムの分子的解明」	堀内 久徳	京都大学助手	100
	61	「不全心および肥大心における腫瘍壊死因子遺伝子の発現制御機構の解析：心臓線維芽細胞による心不全進展機序の解明と治療への応用」	横山 知行	群馬大学助手	100
2001年 (第7回)	62	「血管平滑筋細胞の分化制御、細胞死制御の分子機構—MAPキナーゼ系、とくに JNK の役割の検討」	青木 浩樹	山口大学	100
	63	「ヘムオキシゲナーゼ -1 遺伝子導入によりラット下肢虚血モデルで認められる血流改善効果の機序の検討」	石坂 信和	東京大学	100
	64	「c-Src およびその新規の基質 Cas の血管リモデリングにおける役割の解析」	石田 隆史	広島大学	100
	65	「エンドセリン変換酵素による循環調節機構の分子生物学的解析—遺伝子欠損マウスを用いた検討」	江本 憲昭	神戸大学	100
	66	「心筋細胞におけるエネルギー代謝変換調節機構が心筋由来心血管作動性物質の発現におよぼす分子的連関機構についての研究」	柿沼 由彦	筑波大学	100
	67	「高血圧病態における Rho/Rho-kinase —ミオシンフォスファターゼによるリン酸化調節機構の役割」	暮石 泰子	三重大学	100
	68	「マウス遺伝子操作によるアドレノメデュリン (AM) およびカルシトニン遺伝子関連ペプチド (CGRP) の血管制御機構の解明」	新藤 隆行	東京大学	100
	69	「VEGF 受容体ニューロピリンと血管発生・血管新生」	高島 成二	大阪大学	100
	70	「心血管疾患における Macrophage Migration Inhibitory Factor (MIF) の発現とその役割」	高橋 将文	自治医科大学	100
	71	「核レセプター LXR による新規調節領域を介したレニンおよび c-myc 遺伝子発現制御メカニズムについての分子生物学的検討」	田村 功一	藤沢市民病院	100
2002年 (第8回)	72	「心筋細胞の生存における HB-EGF-ADAM12 関連の役割解明」	朝倉 正紀	大阪大学	100
	73	「蛋白ホスファターゼ 1 阻害蛋白の遺伝子導入は慢性心不全の細胞内 Ca ²⁺ ハンドリングを改善させるか？—心筋症ハムスター UMX7.1・高効率遺伝子導入法を用いた検討—」	池田 安宏	山口大学	100

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
2002年 (第8回)	74	「MAP キナーゼの新しい基質 Mnk1 の血管平滑筋細胞における機能」	石田 万里	広島大学	100
	75	「Notch-HERP 経路による心室・心房の分化調節機構の解明」	磯 達也	群馬大学	100
	76	「心臓粘液腫の発生、組織起源に関する分子生物学的、病理学的検討」	小玉 博明	慶應義塾大学	100
	77	「心肥大と心不全における Phosphoinositide 3-kinase 経路の役割」	塩井 哲雄	京都大学	100
	78	「心臓移植における急性拒絶と冠動脈病変の病態解析と遺伝子治療: マウスおよびミニブタ心臓移植モデルを用いた検討」	鈴木 淳一	東京医科歯科大学	100
	79	「平滑筋増殖関連転写因子 IKLF/BTEB の転写リプレッサー SET による平滑筋細胞増殖の <i>in vivo</i> での抑制の検討」	鈴木 亨	東京大学	100
	80	「血管老化マウスの確立」	南野 徹	千葉大学	100
	81	「マクロファージに対する免疫誘導療法による動脈硬化予防法の開発—プロテオーム解析を応用した新規動脈硬化関連蛋白の同定」	山下 智也	神戸大学	100
2003年 (第9回)	82	「心筋細胞の再生過程におけるミトコンドリア増殖機構の解明」	赤尾 昌治	京都大学特任助手	100
	83	「大規模関連解析による冠動脈形成術後再狭窄関連遺伝子の解明」	井澤 英夫	名古屋大学	100
	84	「内皮由来リパーゼの脂質代謝と動脈硬化形成過程における機能の解析」	石田 達郎	神戸大学	100
	85	「プロテオーム解析を用いたアンジオテンシン II による不全心形成の分子機構の解明」	大西 正人	滋賀医科大学助手	100
	86	「心不全・突然死発症における転写抑制装置 NRSF-HDAC 複合体の役割の解明」	桑原宏一郎	京都大学	100
	87	「日本人に特徴的な冠攣縮性虚血性心疾患の遺伝要因のゲノムの解析と分子病態の解析 -Rho-kinase シグナル伝達経路の冠攣縮性虚血性心疾患発症における分子機序の解析を中心として」	小池 城司	九州大学助手	100
	88	「間欠性虚血刺激—細胞骨格変化連関を介した新たな虚血心筋保護機構の同定とその細胞内シグナル伝達機序の解明」	真田 昌爾	大阪大学	100
	89	「末梢体内時計の分子メカニズムの解明と時間を考慮した新しい循環器疾患治療法の開発」	前村 浩二	東京大学	100
	90	「心筋の肥大と生存における JAK/STAT 経路とその制御系 SOCS3 の役割の解明」	安川 秀雄	久留米大学助手	100
	91	「心不全治療におけるリアノジン受容体安定化の重要性—チャンネル制御ドメイン連関障害の是正」	山本 健	山口大学助手	100
	2004年 (第10回)	92	「心不全における心筋細胞死の病因的役割とその制御機構」	赤澤 宏	千葉大学
93		「遺伝性心筋症および不全心筋における新規病態メカニズムの解明—クロマチン構造変換を介した LAMR 1 蛋白質と遺伝子発現制御機構との関わり」	朝野 仁裕	大阪大学	100
94		「心筋細胞の分化と肥大における myocardin の役割の検討」	上山 知己	神戸大学	100
95		「レトロウイルスによる遺伝子破壊法を用いた脂肪細胞分化・形質転換機構の解明」	尾野 亘	国立京都病院長	100
96		「新たな分化誘導法と足場構築を用いた成体幹細胞からの心筋組織再生」	金井 恵理	京都大学助手	100
97		「ヒト ES 細胞を用いた虚血性疾患に対する新規血管再生治療の開発」	曾根 正勝	京都大学	100
98		「心臓および血管リモデリングにおける Toll 様受容体 (TLR) の関与—TLR-2、TLR-4 ノックアウトマウスによる検討」	竹石 恭知	山形大学助教授	100
99		「自然活性を持つ AT2 受容体はホモオリゴマーを形成し Ang 非依存性シグナルを惹起するか」	三浦伸一郎	福岡大学講師	100
100		「動脈硬化促進因子 KLF5 とその負の制御因子 TAF1 の複合体の立体構造解析—動脈硬化に対する創薬の開発を目指して」	武藤 真祐	東京大学	100
101		「新しい Ca 流入性 TRP チャンネルの肥大心筋、不全心筋における役割」	渡邊 博之	秋田大学助手	100

日本心臓財団・ファイザー心血管病研究助成

Japan Heart Foundation / Pfizer Grant for Research on Cardiovascular Disease

ファイザー製薬株式会社の協力を得て、循環器領域の研究に携わる40歳未満の少壮研究者に対し、その都度テーマを変えて助成しました。

年度(回数) 研究テーマ	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
1996年 (第1回) 「心不全の発症機序と病態」	1	「ダール食塩感受性ラットを用いた新しい不全心モデルの開発」	猪子 森明	京都大学	250
	2	「心肥大形成の分子機構—p70 ⁶ および JNK の役割」	小室 一成	東京大学	250
	3	「心不全の病態にかかわる新たなサイトカインの役割に関する研究」	瀧原 圭子	大阪大学	250
	4	「心不全および心肥大の発症機序における心筋エンドセリンの役割の解明とその遺伝子発現抑制法(遺伝子治療)や受容体遮断薬を用いた新治療法の開発」	宮内 卓	筑波大学	250
	5	「ラット実験的自己免疫性心筋炎(EAM)におけるサイトカイン mRNA の発現の動態」	大倉 裕二	新潟大学	50
	6	「新規降圧ペプチド“アドレノメデュリン(AM)”と“proadrenomedullin N-terminal 20 amino acid(PAMP)”の心不全における病態生理学的意義」	北村 和雄	宮崎医科大学	50
	7	「免疫反応による心筋機能不全の発症機序:心筋虚血,心筋炎,心拒絶の遺伝子治療」	鈴木 淳一	信州大学	50
	8	「不全心における細胞骨格—細胞外マトリックスおよび細胞接着分子の役割に関する細胞・分子生物学的研究」	筒井 裕之	九州大学	50
	9	「心筋細胞肥大における細胞周期制御因子の役割とその遺伝子治療応用へ向けての基礎的研究」	羽田 三美	東京医科歯科大学	50
	10	「拡張型心筋症モデル,コクサッキー B3 ウイルス性心筋炎による心不全におけるスーパー抗原の意義とペプチド療法」	平岡 勇二	富山医科薬科大学	50
	11	「不全心におけるアンジオテンシン II 受容体遺伝子の発現調節の分子機構」	松原 弘明	関西医科大学	50
	12	「血管新生療法による心不全の遺伝子治療の基礎的研究」	森下 竜一	大阪大学	50
1997年 (第2回) 「虚血心筋保護～その基礎と臨床」	13	「炎症性サイトカインの慢性投与により惹起される心筋障害の成因における一酸化窒素(NO)の役割」	尾山 純一	九州大学	250
	14	「心筋の虚血応答における VEGF を介するオートクライン機構の役割—低酸素ストレスに対する心筋細胞の適応機構」	世古 義規	東京大学	250
	15	「オトリ型核酸医薬(デコイ)法の心筋梗塞治療への応用」	富田奈留也	大阪大学	250
	16	「心筋虚血耐性獲得におけるアデノシン産生酵素活性化の意義とその分子機構の解明」	南野 哲男	大阪大学	250
	17	「アポトーシス抑制因子“Sentrin”のクローニング」	大蔵 隆文	愛媛大学	50
	18	「ラット心筋虚血再灌流モデルにおける肝細胞増殖因子(HGF)とその受容体(c-Met)の発現とその意義—急性期の虚血心筋保護と慢性期の左室リモデリングの抑制に対する関与の解明—」	尾野 亘	京都大学	50
	19	「心筋虚血時における筋小胞体機能の異常—共焦点レーザー顕微鏡と蛍光色素法による興奮収縮連関の検討」	佐藤 洋	浜松医科大学	50
	20	「心筋虚血と血管新生増殖因子」	田仲 輝光	武田総合病院	50
	21	「超音波による心筋灌流造影法に基づく冠血管新生療法の評価に関する研究」	野崎 士郎	香川医科大学	50

年度(回数) 研究テーマ	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
1997年 (第2回) 「虚血心筋保護～ その基礎と臨床」	22	「虚血性心疾患に対する ecNOS 遺伝子治療—ア デノ随伴ウイルス (AAV) ベクターを用いて—」	前田 喜一	自治医科大学	50
	23	「組み替えアデノウイルスを用いた虚血/再灌流 心筋傷害のアポトーシスに対する遺伝子治療の 開発」	松井 隆	東京慈恵会医科大学	50
	24	「虚血刺激により心筋細胞に誘導される転写因子 に関する研究」	松井 秀夫	大阪大学	50
1998年 (第3回) 「動脈硬化」	25	「血管平滑筋分化決定に関する新しいシグナル 伝達経路 cGMP/cGK/Gax pathway の同定と動脈 硬化症における臨床的意義」	伊藤 裕	京都大学	250
	26	「ヒト血管平滑筋細胞におけるインテグリン相互 作用と細胞周期調節」	小山 英則	大阪市立大学	250
	27	「ヒト平滑筋増殖型動脈硬化進展におけるアポ トーシスの役割と分子機構—慢性腎不全シャント radial artery を用いた検討—」	早川 幸博	岐阜大学	250
	28	「冠動脈硬化の成因におけるサイトカインを中心 とした炎症性機序の役割に関する基礎的研究」	福本 義弘	九州大学	250
	29	「動脈硬化抑制性リポ蛋白 (HDL) の体内代謝動 態の解明—安定同位体ラベルアミノ酸を使った 新しいアポ蛋白標識法のヒトへの応用—」	池脇 克則	東京慈恵会医科大学	50
	30	「二種類のダブルノックアウトマウスを用いた粥 状動脈硬化でのマクロファージスカベンジャー 受容体の役割の実験的解析」	坂口 尚	熊本大学	50
	31	「超高周波血管内エコー法による不安定冠動脈粥 腫診断法の開発と臨床応用」	中谷 敏	国立循環器病センター	50
	32	「新たな LDL 受容体ファミリー LR11 の動脈硬化 巣における発現とその機能的役割」	武城 英明	千葉大学	50
	33	「心血管病発症に関与する脂肪組織由来の生理活 性物質の研究」	前田 和久	大阪大学	50
	34	「高脂血症における虚血組織での血管新生に関す る研究」	室原 豊明	久留米大学	50
	35	「血管リモデリングにおける一酸化炭素の病態生 理学的意義の解明—Heme Oxygenase 過剰発現 マウスを用いた解析—」	盛田 俊介	埼玉医科大学	50
	36	「ホモシステインと動脈硬化—遺伝子多型からの アプローチ—」	森田 啓行	東京大学	50
	1999年 (第4回) 「筋・血管の新生」	37	「血管病変における老化抑制遺伝子 klotho の意 義」	斎藤勇一郎	群馬大学
38		「転写因子間の協同作用を利用した心筋細胞への 強制的分化誘導の試み」	塩島 一朗	東京大学助手	250
39		「血管新生の分子機構解明と治療への応用」	森下 竜一	大阪大学助教授	250
40		「新しい血管前駆細胞の同定と血管再生への応用」	山下 潤	京都大学	250
41		「分泌型ヒト FGF-2 発現組替えアデノウイルスの 冠動脈内投与が虚血性心筋障害の改善および側 副血路発達に及ぼす効果」	岩立 光生	山口大学	50
42		「動脈硬化進展における vasa vasorum 由来の血 管新生」	甲斐 久史	久留米大学講師	50
43		「アポトーシスのブロックによる心筋梗塞後肉芽 組織内新生血管および筋線維芽細胞の温存療法」	加納 素夫	岐阜大学	50
44		「心不全発症における血管新生の破綻と血管新生 因子の遺伝子発現制御による心筋再生の試み」	熊本 秀樹	北海道大学	50
45		「心筋代謝における超低比重リポ蛋白受容体 (VLDL 受容体) の役割」	高橋 貞夫	福井医科大学助手	50
46		「血管新生における内皮細胞と周細胞の相互作用 の細胞生物学的検討—家兔網膜細小血管由来培 養細胞を用いて—」	高橋万里子	千葉大学	50

年度(回数) 研究テーマ	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)	
1999年 (第4回) 「筋・血管の新生」	47	「自己骨髄細胞を用いた虚血心筋治療法の開発」	濱野 公一	山口大学助手	50	
	48	「心筋虚血再灌流時に分泌される生理活性因子の解明—血管新生因子の同定」	水上 洋一	山口大学講師	50	
2000年 (第5回) 「不整脈」	49	「慢性心房細動患者の心筋におけるCa ²⁺ 制御蛋白の変化」	上山 剛	山口大学	250	
	50	「イオンチャンネル病としての先天性QT延長症候群の細胞学的成因と抗不整脈薬の有効性」	清水 渉	国立循環器病センター	250	
	51	「心房細動におけるイオンチャンネルのリモデリング」	山下 武志	心臓血管研究所	250	
	52	「致死性心室性不整脈の分子生物学的基盤の解明」	吉田 秀忠	京都大学	250	
	53	「僧帽弁疾患に合併した慢性心房細動に対する肺静脈隔離術および左室後壁隔離術の有効性」	岡本 美弘	横浜労災病院	50	
	54	「温熱療法は心不全患者に合併する不整脈を改善する」	木原 貴士	鹿児島大学	50	
	55	「赤外線凝固器による心房アブレーションの研究：心房細動を治療するために」	窪田 博	東京警察病院	50	
	56	「特発性心室細動における変異心筋Naチャンネル機能異常の分子機構」	白井 信正	北海道大学	50	
	57	「重症心室性不整脈発症におけるM cellの役割と抗不整脈による不整脈基盤の修飾(心室三次元マッピングでの役割)」	池主 雅臣	新潟大学講師	50	
	58	「バゾプレッシンによるモルモットおよびラット心筋ANP感受性Kチャンネルの調節」	土屋 邦彦	岐阜大学助手	50	
	59	「QT延長に関するイオンチャンネルの機能解析」	長友 敏寿	産業医科大学講師	50	
	60	「心不全における心室不整脈易発生基盤の解明：electrical remodelingの形成と心室細動への移行」	渡辺 哲	山形大学	50	
	2001年 (第6回) 「循環器病研究とイメージング」	61	「血管内超音波の高周波信号解析によるヒト冠動脈プラークのin vivo組織性状診断」	川崎 雅規	岐阜大学助手	250
		62	「レーザー共焦点顕微鏡による血小板血栓の3次元イメージング」	後藤 信哉	東海大学	250
63		「単色放射光を用いた微小血管造影法の開発と疾患モデルマウスでの微小血管動態の評価」	山下 智也	神戸大学	250	
64		「心磁計測システムを用いた心房細動の画像化—focal atrial fibrillationとrandom reentryの鑑別—」	山田さつき	筑波大学	250	
65		「 ¹⁴ C標識ジアシルグリセロールによる心筋イノシトールリン脂質代謝回転の画像化の研究」	大谷 宏紀	東北大学	50	
66		「術後収縮性心膜炎の特徴—Tagged Cine Magnetic Resonance Imagingを用いた新しい診断法—」	小島 淳	国立循環器病センター	50	
67		「重症冠動脈病変検出法としての負荷時一過性心拡大の意義—ポジトロンCTと心電図同期SPECTの比較—」	多田村栄二	京都大学	50	
68		「性周期および女性ホルモンによる冠循環の変化」	平田久美子	大阪市立大学	50	
69		「筋緊張性ジストロフィー患者における遺伝子異常と心筋脂脂肪酸代謝異常」	福澤 純	旭川医科大学	50	
70		「電子ビームCT、マルチスライスヘリカルCTを用いた冠動脈粥状硬化の組織性状評価、Vulnerable Plaqueの非侵襲的検出の試み」	船橋 伸禎	千葉大学	50	
71		「Saturation-recovery TurboFLASH MR ImagingにおけるT1緩和時間の測定」	本岡 眞琴	京都大学	50	
72		「Carbone-11 Acetate PETによる特発性拡張型心筋症での心筋酸素消費量、エネルギー効率の定量的解析」	吉永恵一郎	北海道大学	50	

年度(回数) 研究テーマ	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)	
2002年 (第7回) 「心疾患の薬物療法」	73	「糖の吸収阻害性抗糖尿病薬 miglitol の虚血心筋保護作用の発見と狭心症モデルに対する効果の検討ー Ischemic preconditioning から new pharmacological preconditioning への新たな展開ー」	荒井 正純	岐阜大学	250	
	74	「心筋胎児型遺伝子発現調節に関わる転写因子複合体、NRSF-HDAC complex の心不全・突然死発症における役割の解明と創薬標的としての可能性の検討」	桑原宏一郎	京都大学	250	
	75	「薬物を用いた新規血管新生治療法に関する研究」	佐田 正隆	東京大学	250	
	76	「心不全発症の核内情報伝達機能を標的とした薬物療法の確立」	築詰 徹彦	京都大学	250	
	77	「選択的エストロゲン受容体調節薬の心保護作用とそのメカニズムの解明」	扇田 久和	大阪大学	50	
	78	「心不全におけるアンジオテンシン変換酵素阻害薬及びアンジオテンシン受容体阻害薬併用療法の意義ー内因性ブラジキニンの機能的役割ー」	大西 勝也	三重大学	50	
	79	「日本人高血圧患者における起立性高血圧の心管リスクファクターとしての臨床的意義とその治療の確率」	苅尾 七臣	自治医科大学	50	
	80	「閉経後女性の冠攣縮性狭心症に対するホルモン補充療法の有効性の検討」	河野 宏明	熊本大学	50	
	81	「心筋筋小胞体カルシウム放出チャネル安定化に基づいた新しい心不全治療戦略」	河野 正輝	山口大学	50	
	82	「血管内皮機能に及ぼす各種降圧薬の影響：降圧薬、投与期間、高血圧重症度との関連ー Hiroshima Endothelial Function Study ー」	東 幸仁	広島大学	50	
	83	「心不全に対する ACE-I および ARB の投与はマイクロアレイ解析において異なる遺伝子発見パターンを示す」	水上 美帆	千葉大学	50	
	84	「C型ナトリウム利尿ペプチド局所送達によるステント内再狹窄予防効果に関する検討」	安田 聡	国立循環器病センター	50	
	2003年 (第8回) 「心不全の病態形成と新しい治療法の開発」	85	「心房・心室サブドメインの分化調節機序の解明と心筋再生療法への応用」	磯 達也	群馬大学	250
		86	「NF-κB 阻害による心不全の新しい治療法の開発」	久保田 徹	九州大学	250
87		「転写因子 KLF5 の心血管病態形成における役割と治療法の開発」	新藤 隆行	東京大学	250	
88		「心不全治療におけるリアノジン受容体安定化の重要性ーチャンネル制御ドメイン関連障害の是正ー」	山本 健	山口大学	250	
89		「心臓におけるカベオリン-3 の役割と心筋症発症への関連の検討」	岡 直樹	久留米大学	50	
90		「心不全における Toll-like receptor (TLR) 4 の役割ー炎症性サイトカイン発現の機序ー」	尾山 純一	九州大学	50	
91		「心筋細胞へ分化可能な骨髄細胞形質の解析と単離法の開発」	苅部 明彦	東北大学	50	
92		「G-CSF は心筋症ハムスターにおける心筋の線維化と心不全を抑制し、生存率を改善する」	川瀬 幸典	岐阜大学	50	
93		「Fabry 病ノックアウトマウスモデルにおける AAV ベクターを用いた酵素補充療法に関する研究ー心血管病変に対する効果についてー」	高橋 啓	日本医科大学	50	
94		「重症拡張型心筋症患者における peroxisome proliferator-activated receptor (PPAR) および PGC-1 の発現」	田中 薫	東京女子医科大学附属成人医学センター	50	
95		「ヒト心不全心における遺伝子変化の検討」	東口 治弘	千葉大学	50	
96		「心筋梗塞後の心室リモデリングの進展におけるナトリウム利尿ペプチドシステムの意義の検討」	原田 昌樹	京都大学	50	

年度(回数) 研究テーマ	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
2004年 (第9回) 「心血管細胞の分化・肥大・アポトーシス・再生」基礎から臨床まで」	97	「ヒト血中に存在する内皮細胞由来微小粒子(microparticles)の血管内皮細胞障害マーカーとしての有用性と臨床的意義の検討」	杉山 正悟	熊本大学	250
	98	「冠状動脈等微小血管病変に対する血管吻合術不要の新術式「バイオバイパス」の確立」	鷹羽 浄頭	京都大学	250
	99	「平滑筋分化機構の解明と治療応用」	真鍋 一郎	東京大学	250
	100	「細胞シートを用いた心筋組織移植による新しい心不全治療法の開発」	宮川 繁	大阪大学	250
	101	「心不全における心筋細胞死の病因的役割の解明と新たな心不全治療法の開発」	赤澤 宏	千葉大学	50
	102	「心臓形態形成における T-box 遺伝子 Tbx2 の機能解析」	白井 学	国立循環器病センター	50
	103	「難治性狭心症に対する顆粒球コロニー刺激因子(G-CSF)を用いた非侵襲的再生療法」	鈴木 幸二	岐阜大学	50
	104	「血管系における新しい転写因子 Forkhead transcriptional factor のアポトーシス調節機構と循環器疾患に対する治療への応用」	須原 敏充	大阪大学	50
	105	「霊長類 ES 細胞における血管前駆細胞の同定とその血管再生治療への応用」	曾根 正勝	京都大学	50
	106	「臨床応用にむけた新規リボン型 E2F デコイの開発」	富田奈留也	大阪大学	50
107	「心臓リンパ管の心筋梗塞・心筋炎・心不全の病態への関与の解明と再生医療への応用」	西尾 亮介	京都大学	50	
108	「成体内における血管幹細胞の単離及びその疾患への応用」	山田 賢裕	金沢大学	50	
2005年 (第10回) 「急性冠症候群の発生機序－臨床・病理・分子生物学的アプローチ」	109	「有意狭窄病変におけるリスクファクターと冠動脈組織性状－integrated backcatter intravascular ultrasound による検討－」	大久保宗則	岐阜大学	250
	110	「急性冠症候群の成因における分子生物学的アプローチ」	海北 幸一	熊本大学	250
	111	「急性心筋梗塞における PIGF 発現は、末梢血単核球分画の動員を介して慢性期の心機能の改善に寄与する」	竹田 征治	奈良県立医科大学	250
	112	「急性冠症候群の引き金である血小板活性化機構に関する基礎研究」	東 智仁	京都大学	250
	113	「血管壁細胞のアポトーシスにおける Mst1 の役割の分子生物学的解析」	小野 弘樹	九州大学	50
	114	「アンジオテンシン II は血管老化を促進する－抗老化による急性冠症候群へのアプローチ」	国枝 武重	千葉大学	50
	115	「急性冠症候群の発症機序－炎症性細胞の免疫学的動態から見た検討－」	小谷 順一	関西労災病院	50
	116	「TGF-β-Smad3 シグナルの欠損はプラーク病変を著しく増大・不安定化する」	小林 一貴	千葉大学	50
	117	「急性冠症候群発症規定因子の検討－疫学から臨床へ」	坂田 泰彦	大阪大学	50
	118	「虚血性心疾患のリスクファクターとしての単球 Toll-Like Receptor4 発現の意義－新たな risk marker としての TLR の可能性」	白木 里織	神戸大学	50
	119	「アドレメデュリンによる血管再生機序の解明と、虚血、浮腫、腫瘍治療への展開」	新藤 隆行	信州大学	50
	120	「冠動脈における HSP60 産生量を用いた虚血性心疾患の予後の推定」	広野 暁	新潟大学	50

年度(回数) 研究テーマ	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
2006年 (第11回) 「不整脈の治療—臨床～分子生物学的アプローチ—」	121	「心臓における細胞核クロマチンリモデリングに伴うエピジェネティックな遺伝子発現変化と心筋変性との関わり—催不整脈性右室心筋変性症(ARVC)に対するアプローチ—」	朝野 仁裕	大阪大学	250
	122	「心筋ギャップジャンクションチャンネルを標的とした新しい不整脈治療法の開発」	関 明子	東京女子医科大学	250
	123	「心不全に伴う不整脈発生機序の解明—4-Hydroxy-2-nonenalによる活性酸素発生を介した心筋細胞のカルシウム過負荷—」	中村 一文	岡山大学	250
	124	「薬物誘発性QT延長症候群の発症を調節するKCR1の役割」	林 研至	金沢大学	250
	125	「肥大型心筋症における心房細動の合併と内皮型一酸化窒素合成酵素(eNOS)遺伝子多型(Glu298Asp)の関連について」	大木元明義	愛媛大学	50
	126	「頻脈誘発性犬心不全モデルにおける共焦点顕微鏡を用いた単離心筋によるt-tube膜伝導のAPDの変化に関する研究」	大矢 俊之	日本大学	50
	127	「心臓ペースン患者における心臓圧受容体反射の検討—VVIモードとDDDモードの比較—」	荻ノ沢泰司	横浜労災病院	50
	128	「カリウムチャンネルの機能発現を制御する分子機構の解明」	種本 雅之	東北大学	50
	129	「Brugada症候群における右室流出路伝導遅延と臨床的特徴との関係—加算平均心電図と電気生理検査によるリスク階層化—」	古嶋 博司	新潟大学	50
	130	「ブルガダ症候群(心臓Naチャンネル病)の分子基盤の解明」	牧山 武	京都大学	50
	131	「HCN4遺伝子による徐脈性不整脈に対する遺伝子治療の開発」	村越 伸行	茨城西南医療センター病院	50
	132	「Strain rate imaging法による高血圧例の左房機能の定量的評価: レニン・アンジオテンシン系抑制薬の影響」	湯田 聡	札幌医科大学	50

日本心臓財団・ファイザー高血圧と血管代謝研究助成

Japan Heart Foundation / Pfizer Grant for Research on Hypertension and Vascular Metabolism

日本心臓財団・ファイザー高血圧・高脂血症と血管代謝研究助成

Japan Heart Foundation / Pfizer Grant for Research on Hypertension Hyperlipidemia and Vascular Metabolism

ファイザー製薬株式会社の協力を得て、高血圧、高脂血症、糖尿病の各領域より心臓血管病の予防という観点に立った動脈硬化関連の研究を行う40歳未満の少壮研究者に対し助成しました。

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
1996年 (第1回)	1	「動脈硬化惹起性リポ蛋白研究のための新しいモデルの開発」	石橋 俊	東京大学助手	100
	2	「アデノウイルスによる gene transfer を用いたナトリウム利尿ペプチド /cGMP カスケードの血管平滑筋細胞増殖抑制の分子機構の解析と遺伝子治療への応用」	伊藤 裕	京都大学助手	100
	3	「高血圧発症に関連する遺伝危険因子の同定—近交系ラット交配モデルおよびヒト集団を用いて—」	勝谷 友宏	大阪大学	100
	4	「血管平滑筋トーン調節に関与する新しいシグナル伝達の解析—ミオシンホスファターゼの活性制御機構—」	市川 和人	三重大学	40
	5	「血管平滑筋細胞膜の進展感受性チャンネルの特性と高血圧の病態への関与」	大屋 祐輔	九州大学助手	40
	6	「腎型 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase 遺伝子異常による遺伝性高血圧症」	宗 友厚	岐阜大学助手	40
	7	「ラット延髄中の内因性ウアバイン様因子の局在と循環調節に果たす役割」	山里 正演	琉球大学	40
	8	「動脈硬化症発症抑制性に働く血小板由来増殖因子(PDGF) 受容体細胞内シグナル伝達経路の解明」	横手幸太郎	千葉大学	40
1997年 (第2回)	9	「肥満遺伝子産物(レプチン) 過剰発現トランスジェニックマウスの開発とレプチンの肥満・糖脂質代謝における意義の検討」	小川 佳宏	京都大学助手	100
	10	「Differential Display 法を用いた食塩感受性高血圧の原因候補遺伝子のクローニング」	長瀬 美樹	東京大学	100
	11	「ヒト血管病変進展における循環血中一酸化窒素(NO) 合成阻害物質の役割」	松岡 秀洋	久留米大学助手	100
	12	「糸球体血行動態における Angiotensin II (Ang II) type II 受容体(AT2R) の役割—正常家兎及び高血圧ラットの単離灌流輸出入細動脈での検討—」	有馬 秀二	東北大学	40
	13	「ジーンターゲット法によるアンジオテンシン II 2型受容体の生理機能解明」	市来 俊弘	九州大学	40
	14	「SHRにおけるインスリン抵抗性発現遺伝子の全ゲノムスクリーニングによる局在の決定」	後藤田貴也	東京大学	40
	15	「レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ(LCAT) ノックアウトマウスの作成と遺伝子治療の試み」	酒井 尚彦	大阪大学助手	40
	16	「分子・固体レベルでのアンジオテンシン II 受容体作用の解析—転写調節核蛋白の同定と遺伝子操作動物を用いた研究—」	村澤 聡	関西医科大学	40
1998年 (第3回)	17	「心血管系アデニル酸シクラーゼの分離と解析」	石川 義弘	横浜市立大学	100
	18	「血管内皮細胞 Ca ²⁺ シグナリングとカベオリン分布」	一色 政志	東京大学	100
	19	「習慣的な等張性運動は本態性高血圧症患者の血管内皮機能障害を改善する」	東 幸仁	広島大学	100
	20	「アンジオテンシン II によるチロシンキナーゼ(EGFR, Src, PYK2) の相互作用を介した血管平滑筋細胞の増殖肥大作用の情報伝達」	江口 暁	東京医科歯科大学	40
	21	「血管病治療への新しいアプローチ: 血管緊張を制御する新しい情報伝達機構とその破綻」	大村 昌人	山口大学	40

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
1998年 (第3回)	22	「新たな生理活性ペプチド, PAMP-12の本態性高血圧患者における意義」	桑迫 健二	宮崎医科大学	40
	23	「脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)ノックアウトマウスの開発と心血管疾患におけるBNPの病態生理的意義の検討」	田村 尚久	京都大学	40
	24	「血管リモデリングにおける一酸化炭素の病態生理学的意義の解明—Heme Oxygenase 過剰発現マウスを用いた解析—」	盛田 俊介	埼玉医科大学	40
1999年 (第4回)	25	「高血圧・糖尿病における狭心症・慢性動脈閉塞症に対するHGFを用いた血管新生療法」	青木 元邦	大阪大学	100
	26	「コレステロール代謝の分子制御機構:転写因子SREBPとプロテアーゼによるプロセッシング」	酒井 寿郎	東北大学	100
	27	「血管内皮細胞上Fasリガンドによる炎症細胞血管外湿潤の制御に関する研究」	佐田 政隆	東京大学	100
	28	「Angiotensin IIによる血管平滑筋細胞のリモデリングおよびそれに関するシグナル伝達におけるc-Srcの役割」	石田 隆史	広島大学	40
	29	「新しいヒト内皮機能調節因子としてのホモシステイン」	碓井 倫明	久留米大学助手	40
	30	「SREBP 1によるポジェネシスの生体内転写調節」	島野 仁	東京大学	40
	31	「血管代謝における血管内皮由来過分極因子(EDHF)の病態生理学的意義」	野出 孝一	大阪大学	40
	32	「血管トームスを制御する新しい分子機構の解明」	豊 建華	三重大学	40
2000年 (第5回)	33	「アンジオテンシンII(A II)タイプ1受容体(AT1R)遺伝子のperoxisome proliferator-activated receptor(PPAR)- γ を介した負の転写調節メカニズムの解明:MAPキナーゼによるPPAR- γ リン酸化およびCREB-binding protein(CBP)の関与」	菅原 明	東北大学助手	100
	34	「シエラストレスによる血管内皮細胞プロスタグランジンD ₂ 合成酵素の誘導」	田場 洋二	国立循環器病センター研究所	100
	35	「高比重リポ蛋白を介した末梢泡沫細胞よりのコレステロール引き抜き(cholesterol efflux)の分子機構の解明」	平野 賢一	大阪大学	100
	36	「組換えアデノウイルスを利用した生体内遺伝子導入による新規分泌型メタロプロテアーゼ・SEPの循環調節機能の解明」	江本 憲昭	神戸大学助手	40
	37	「動脈硬化症における新規酸化LDL受容体lectin-like oxidized low density lipoprotein receptor-1(LOX-1)の役割」	片岡 大治	京都大学	40
	38	「Uroguanylinの小腸と腎臓をつなぐ利尿因子としての作用」	北 俊弘	宮崎医科大学助手	40
	39	「発生工学的手法によるアドレノメデュリンの機能解析」	新藤 隆行	東京大学	40
	40	「血管平滑筋細胞における転写因子C/EBPを介したIL-6遺伝子発現に対するPPAR γ 活性化の影響」	高田 康徳	愛媛大学	40
	2001年 (第6回)	41	「高齢者高血圧(JNC VI)と心血管病発症の関係」	有馬 久富	九州大学
42		「心血管系機能日内変動の分子メカニズム」	前村 浩二	東京大学助手	100
43		「clusterinの傷害血管リモデリングにおける生理作用の検討」	宮田 昌明	鹿児島大学	100
44		「新しい動脈硬化治療法に対する基礎的研究:特に動脈硬化抵抗性遺伝子の解析」	石森 直樹	北海道大学	40
45		「プロテインキナーゼAktの血管新生作用—細胞内コレステロールを介したカベオリン—P13K/Akt相互作用機構の発見」	暮石 泰子	三重大学	40
46		「高血圧症と動脈硬化症に共通する新しい細胞内分子制御機構の解明—cGMP/cGK経路によるRho/ROCK経路の制御—」	澤田 直樹	京都大学	40
47		「Stat3機能制御による傷害血管リモデリング予防—ドミナントネガティブ変異Stat3による遺伝子治療—」	柴田 玲	久留米大学助手	40
48		「血管病変における酸化ストレスとアドレノメデュリンの関連、ノックアウトマウスを用いた検討」	下澤 達雄	東京大学助手	40

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
2002年 (第7回)	49	「日本人高齢者高血圧患者の脳卒中リスク因子：夜間血圧下降 vs 血圧モーニングサージ」	苅尾 七臣	自治医科大学	100
	50	「骨髄幹細胞の動脈硬化病態生理への関与」	佐田 政隆	東京大学	100
	51	「血管リモデリングにおける TGF- β シグナルの働き：ノックアウトマウスを用いた検討から」	横手幸太郎	千葉大学	100
	52	「血管平滑筋細胞分化における転写因子 GATA-6 と PPAR- γ 情報伝達機構」	阿部 充	京都大学	40
	53	「血管内皮細胞カベオラからの Ca ²⁺ 流入による NO 産生調節機構」	一色 政志	東京大学	40
	54	「 β_3 adrenergic receptor 遺伝子 Trp64Arg 多型の酸化ストレスを介した遺伝的動脈硬化促進作用」	大石 充	大阪大学	40
	55	「転写因子 C/EBP δ と PPAR γ の相互作用による血管炎症の調節機構」	高田 康德	愛媛大学	40
	56	「血管細胞老化の動脈硬化病態生理に対する関与」	南野 徹	千葉大学	40
2003年 (第8回)	57	「内皮由来リパーゼの動脈硬化病変形成過程における役割」	石田 達郎	神戸大学	100
	58	「転写調節因子 E2F 阻害療法は血管内皮細胞修復機転を妨げず特異的に血管平滑筋細胞の増殖を抑制する—静脈グラフトを用いた検討」	田村 功一	横浜市立大学	100
	59	「血管老化のメカニズムの解明—Akt 活性化の重要性について」	南野 徹	千葉大学	100
	60	「ナトリウム利尿ペプチドの血管再生作用とその再生医療への応用」	山原 研一	京都大学	100
	61	「内臓脂肪特異的分泌蛋白 VASPIN(visceral adipose tissue specific SERPIN) の同定とマルチプルリスクファクター症候群における病態的意義」	和田 淳	岡山大学	100
	62	「高血圧症患者における冠動脈疾患発症の遺伝子リスク診断法の開発」	井澤 英夫	名古屋大学	40
	63	「高血圧および高血圧性臓器合併症と adiponectin の関連」	大石 充	大阪大学	40
	64	「PPAR γ 、アディポネクチンの動脈硬化における分子メカニズムの解明」	窪田 直人	東京大学	40
	65	「慢性 NO レベル低下による心・血管リモデリングに対する降圧・冠拡張薬のブレイオトロピック効果の解明と循環器疾患治療への展開」	真田 昌爾	大阪大学	40
	66	「高レムナント血症ならびに食後高脂血症モデル動物の作製と解析」	高橋 昭光	筑波大学	40
	67	「糖尿病による血管内皮障害における接着阻害分子 podocalyxin の役割」	竹田 徹朗	新潟大学	40
68	「HMG-CoA 還元酵素阻害薬による虚血心筋保護作用及び膵 β 細胞インスリン分泌阻害作用に関する検討」	長嶋 一昭	京都大学	40	
69	「血管内皮細胞分化形成における PTEN/P13K 経路の役割—ノックアウトマウスを用いた解析から」	濱田 浩一	秋田大学	40	
70	「本態性高血圧症例における左室からの副腎皮質ホルモン (ACTH) とアルドステロンの産生分泌について—低レニン性高血圧の病態と関連して」	水野 雄二	熊本加齢医学研究所	40	
71	「レニン-アンジオテンシン系の脳特異的過剰発現マウスは高血圧を呈する」	森本 聡	近江八幡市民病院	40	
2004年 (第9回)	72	「冠動脈疾患のテーラーメイド医療実現に向けた網羅的大規模関連解析による冠動脈形成術後再狭窄関連遺伝子の解明」	井澤 英夫	名古屋大学	100
	73	「加齢医学メタボリック症候群感受性遺伝子多型解析の意義」	勝谷 友宏	大阪大学	100
	74	「血流制御内科学レムナントリポ蛋白の動脈硬化症発症機序」	川上 明夫	東京医科歯科大学	100
	75	「Adipocytokine の分泌機構 - 低分子量 G 蛋白質 Rho GTPases による脂肪細胞の細胞骨格系の再編成と細胞内小胞輸送制御の相互作用機構」	小室竜太郎	大阪大学	100

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
2004年 (第9回)	76	「プロテオミクス解析による血管疾患の病態発症・制御の解明」	鈴木 亨	東京大学	100
	77	「血管リモデリングにおける細胞内シグナルの解明—組み換え ASK1 遺伝子導入と ASK1 ノックアウトを用いた検討—」	泉 康雄	大阪市立大学	40
	78	「自然発症高血圧ラットの卵巣摘出による血圧上昇機序における交感神経系の活性化と脳幹部 Rho-kinase の関与」	伊藤 浩司	九州大学	40
	79	「HMG-CoA 還元酵素阻害薬の心不全に対する効果の検討— HMG-CoA 還元酵素阻害薬は β -adrenergic receptor 刺激による心筋のアポトーシスを Rac1-JNK pathway を抑制し、減少させる—」	伊藤 正洋	新潟大学	40
	80	「多機能性受容体 CLA-1 の臨床応用」	井町 仁美	香川大学	40
	81	「日本人における急性心筋梗塞の危険因子の検討」	河野 宏明	熊本大学	40
	82	「高血圧合併肥満症におけるインスリン抵抗性改善による血圧と交感神経活動に与える影響とその作用機序の解明—レプチンとアディポネクチンの関与について—」	佐藤 哲子	京都医療センター	40
	83	「動脈硬化発症・進展における Heparin cofactor II の役割—経皮的冠動脈形成術後再狭窄を抑制しうるか—」	高森 信行	健康保険鳴門病院	40
	84	「インスリンによる血管内皮細胞の寿命短縮の分子機序」	宮内 秀行	千葉大学	40
	85	「脳内レニンの発現部位に関する検討—トランスジェニックマウスを用いた検討—」	森本 聡	近江八幡市民病院	40
86	「心臓特異的リポ蛋白リパーゼ過剰発現マウスの心筋脂肪毒性と PPAR- α による心筋脂肪酸代謝の関連について」	野牛 宏晃	自治医科大学	40	
2005年 (第10回)	87	「動脈硬化の発症・進展におけるプロスタノイドの役割解明」	小林 拓也	京都大学	100
	88	「メタボリックシンドロームにおける食後高血糖及び食後高脂血症改善による動脈硬化進展抑制について—酸化ストレスと接着因子の関与について—」	佐藤 哲子	京都医療センター	100
	89	「アドレノメデュリンによる心血管保護作用機序の解明と治療応用」	新藤 隆行	信州大学	100
	90	「HDL による抗炎症作用の新規機序—HDL が結合によりその作用を抑制する proinflammatory cytokine の同定」	松山 晃文	大阪大学	100
	91	「Gp130 標的遺伝子 Sprrla と Socs3 の圧負荷心筋における機能解析」	安川 秀雄	久留米大学	100
	92	「体内時計の異常による循環器疾患誘発の分子メカニズムの解析とその予防医学的応用」	明石 真	佐賀大学	40
	93	「Smad3 シグナルの欠損は高脂血症モデルマウスにおける粥状動脈硬化病変を著しく増大・不安定化する」	小林 一貴	千葉大学	40
	94	「Geranylgeranylacetone (GGA) の血管機能に及ぼす影響の検討: GGA は heat shock protein 90 (HSP90) の発現を促進し一酸化窒素 (NO) 産生系を亢進することにより血管内皮機能を増強させる」	日域 大輔	広島大学	40
	95	「脳への遺伝子導入法の開発と虚血性脳血管障害への応用」	島村 宗尚	東京大学	40
	96	「動脈硬化における炎症の関与と遺伝子導入によるその制御: 臨床に応用された基礎的研究」	鈴木 淳一	東京医科歯科大学	40
	97	「血圧、血清コレステロール、ならびに自律神経機能が脈波伝播速度に及ぼす影響の定量的評価」	中尾 睦宏	帝京大学	40
	98	「アドレノメデュリン単独過剰発現トランスジェニックマウスの開発と脳梗塞モデルにおけるアドレノメデュリンの血管再生、神経再生作用の同定と治療応用の可能性」	宮下 和季	京都大学	40
	99	「中枢神経系ニューロン由来のレニンの慢性的発現亢進は高血圧を惹起する」	森本 聡	近江八幡市民病院	40
	100	「HMG-CoA 還元酵素阻害薬による頸動脈プラーク性状および血中炎症マーカー濃度の変化」	山上 宏	大阪大学	40
	101	「新規 Ca 流入チャネルによる高血圧性心肥大シグナルの制御」	渡邊 博之	秋田大学	40

日本心臓財団・アステラス・ファイザー「動脈硬化Update」研究助成

Japan Heart Foundation & Astellas / Pfizer Grant for Research on Atherosclerosis Update

2002年に発足した「動脈硬化Update研究会」(ファイザー製薬・山之内製薬共催)にて、AWARDの形で手への研究助成を行うことが決定され、年1度開催される研究会の中で、日本心臓財団「動脈硬化Update」研究助成が行われることになりました。

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
2003年 (第1回)	1	「可溶性 Lectin-like oxidized LDL receptor-1 (soluble LOX-1) の臨床的意義について」	林田 和隆	京都大学	200
	2	「Wnt/LRP5 シグナルによる糖・脂質代謝、インスリン分泌および血管代謝調節機構」	浅場 浩	東京大学	100
	3	「頸動脈不安定プラーク同定のための定量的診断方法の確立：超音波後方散乱信号解析と核磁気共鳴画像による多面的評価」	野口 輝夫	国立循環器病センター	100
	4	「遺伝子多型解析による冠動脈疾患の遺伝因子の同定—冠動脈攣縮に関する遺伝因子の解明と環境因子との相互関係の検討—」	市原佐保子	名古屋大学	10
	5	「血管老化のメカニズムの解明—Akt 活性化の重要性について」	南野 徹	千葉大学	10
	6	「チアゾリジン誘導体の抗動脈硬化メカニズム—PPAR γ 依存性・非依存性作用とアディポネクチンとの協調的作用—」	山内 敏正	東京大学	10
2004年 (第2回)	7	「動脈硬化形成における Notch-HERP 経路の役割」	磯 達也	群馬大学	200
	8	「日本人 2 型糖尿病における動脈硬化合併症の解析と国際比較」	曾根 博仁	筑波大学	100
	9	「抗動脈硬化・抗糖尿病作用を有するアディポネクチンの高血圧および組織線維化に対する機能解析」	前田 法一	大阪大学	100
	10	「動脈硬化進展における活性酸素産生酵素 NAD(P)H oxidase の役割」	吾郷 哲朗	九州大学	10
	11	「日本人と日系米人の動脈硬化発症に関する因子の比較研究」	大西由希子	朝日生命成人病研究所	10
	12	「活性化血小板における濃染顆粒放出メカニズムの分子的解明」	白川龍太郎	京都大学	10
	13	「PPAR δ による骨格筋の脂肪酸代謝調節と選択的アゴニストによるメタボリックシンドローム改善効果」	田中十志也	東京大学	10
	14	「AMP-activated protein kinase (AMPK) の血管平滑筋増殖抑制作用の研究」	長田 太助	国立病院機構京都医療センター	10
2005年 (第3回)	15	「弾性線維形成の分子機構の解明」	平井 希俊	京都大学	200
	16	「血管内皮リパーゼのHDL代謝と血管病変形成過程における役割」	児島 陽子	神戸大学	100
	17	「高血圧症合併 2 型糖尿病患者における動脈硬化性疾患の一次予防に関する研究」	森本 剛	京都大学	100
	18	「非ゲラニルゲラニル化 RhoA の活性化メカニズムと動脈硬化進展における役割」	大河原 浩	福島県立医科大学	10
	19	「不安定プラーク同定のための画像診断方法の確立：核磁気共鳴画像による頸動脈および冠動脈不安定プラークの評価」	肥後 太基	国立循環器病センター	10
	20	「新規内臓脂肪由来アディポサイトカイン・ビスファチンの動脈硬化発症・進展に対する意義の解明」	福原 淳範	大阪大学	10
	21	「冠動脈プラークにおける shear stress 局所集積点と破裂部位との関連—3 次元血管内エコーによる shear stress のカラーマッピングを用いた検討」	福本 優作	山口大学	10
	22	「インスリンによる血管内皮細胞老化の糖尿病性血管障害における役割」	宮内 秀行	千葉大学	10
2006年 (第4回)	23	「生活習慣病改善遺伝子 TFE3 の動脈硬化治療戦略の構築」	中川 嘉	筑波大学	200
	24	「高齢者病理解剖 1,419 例を用いた粥状動脈硬化症の炎症性遺伝子多型関連解析」	小田夏奈江	東京医科歯科大学	100
	25	「プロテオミクス解析による血管疾患の病態発症・制御の解明—蛋白質間相互作用ならびに化学修飾を中心に—」	鈴木 亨	東京大学	100
	26	「血管石灰化の分子機構の解明と治療法の開発」	孫 輔脚	東京大学	10
	27	「血管石灰化における骨形成因子 BMP-2 と Notch シグナルの役割」	田中 亨	群馬大学	10
	28	「新規血管新生ペプチド AG-30 の機能解析」	中神 啓徳	大阪大学	10
	29	「二重周波数型カラー血管内エコー法の開発：冠動脈プラークにおける組織性状同定能の検討」	橋本 弦太	山口大学	10
	30	「動的血管内皮細胞での NFAT/DSCR-1 feedback system 解明に基づく抗動脈硬化治療への応用」	南 敬	東京大学	10

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
2007年 (第5回)	31	「ユビキチン類似蛋白修飾因子 PIAS1 による動脈硬化の抑制: TGF β シグナルの促進因子としての役割」	小和瀬桂子	群馬大学	200
	32	「レニン・アンジオテンシン系阻害ならびに PPAR 活性化によるコレステロール逆転送系調節を考慮したプラーク安定化のストラテジー」	高田 康徳	愛媛大学	100
	33	「apelin-APJ 系による新たな動脈硬化症増悪メカニズムの解明」	橋本 達夫	横浜市立大学	100
	34	「ABCA 蛋白質の新規機能とその抑制機構に注目した動脈硬化治療技術の基礎研究」	岩本 紀之	名古屋市立大学	10
	35	「脂肪組織由来間葉系幹細胞移植による血管新生療法の試み SDF-1 を仲介した EPC 動員のメカニズムの解明」	新谷 理	名古屋大学	10
	36	「急性冠症候群の発症における樹状細胞、T 細胞の関与についての研究」	福永 崇	熊本大学	10
	37	「Wrapped liposome を用いた生活習慣病、動脈硬化に対する新戦略」	藤生 克仁	東京大学	10
	38	「血管内エコービデオ画像の Wavelet 解析による冠動脈プラーク組織性状同定」	藤村 達大	山口大学	10
2008年 (第6回)	39	「RELM (Resistin like molecule) β の動脈硬化進展・不安定化機構に対する役割の解析」	榑山 暁史	朝日生命 成人病研究所	200
	40	「心筋梗塞に対する次世代治療戦略の開発を目指した基盤研究」	中田 靖	産業医科大学	100
	41	「DDAH2/ADMA/VEGF 系による新規の動脈硬化制御システムの解析 - DDAH2 siRNA およびノックアウトマウスによる検討-」	長谷川一宏	慶應義塾大学	100
	42	「脱ユビキチン化酵素の血管における機能解析」	鷹見 洋一	大阪大学	30
	43	「粥状動脈硬化病変における血管新生の抑制をターゲットとした OX40/OX40L 系を介する動脈硬化治療戦略」	中野 誠	東北大学	30
2009年 (第7回)	44	「PAI-1 および HIF(PHD) の脂肪細胞分化における機能解析」	岡村 将史	東北大学	200
	45	「内臓脂肪蓄積と心血管疾患危険因子の横断・縦断研究 - 尼崎内臓脂肪研究」	岸田 堅	大阪大学	100
	46	「次世代の脂質代謝改善薬創薬の新たな起点としての LDL 受容体アダプター蛋白 (LDLRAP1 蛋白)」	多田 隼人	金沢大学	100
	47	「血管特異的コンディショナルターゲットによる AM-RAMP2 システムの病態生理学的意義の解明」	新藤 優佳	信州大学	30
	48	「末梢血 CD34 陽性細胞数が 2 型糖尿病患者の動脈硬化に与える影響に関する研究」	榎野 久士	国立循環器病センター	30
2010年 (第8回)	49	「新規に同定されたコレステロールエステル水解酵素 NCEH1 のヒトマクロファージ、動脈硬化病変への寄与の解明」	五十嵐正樹	東京大学	200
	50	「プロテオミクスによる KLF5 転写複合体解析による新規血管障害メカニズムの解明」	相澤 健一	東京大学	100
	51	「HDL の役割に視点をおいた動脈硬化性疾患の新規危険因子の検索 - 日系米人医学調査における多面的検討-」	中西 修平	広島大学	100
	52	「PKD-AP2 経路を標的とした抗動脈硬化薬の革新的創薬開発技術の創成 (HDL 増加薬の実用化に向けて)」	岩本 紀之	国立循環器病研究センター	30
	53	「新規アポトーシス誘導蛋白 Apop の動脈硬化における機能解析」	山本英一郎	熊本大学	30
2011年 (第9回)	54	「動脈硬化形成における制御性 T 細胞の関与の解明と新規動脈硬化予防法・治療法の開発」	佐々木直人	神戸大学	200
	55	「高血圧自然発症ラット (SHR) の遺伝解析により同定された新規メタボリックシンドローム関連遺伝子の機能解析」	山本 隆史	東京大学	100
	56	「新規アディポサイトカイン「オメンチン」の動脈硬化性疾患における役割」	柴田 玲	名古屋大学	100
	57	「都市型一般住民において慢性腎臓病 (CKD) が頸動脈硬化病変に及ぼす影響」	尾原 知行	国立循環器病研究センター	30
	58	「ドッキング蛋白質 Gab1 を介した抗動脈硬化作用の分子機構の解明」	塩山 涉	大阪大学	30
2012年 (第10回)	59	「Vaspin による動脈硬化抑制とその作用機序の解明」	中司 敦子	岡山大学	200
	60	「心血管・腎・脳連関による心血管恒常性維持機構とその破綻としての動脈硬化進展・不安定化の検討」	藤生 克仁	東京大学	100

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
2012年 (第10回)	61	「カイトミクロンレムナントを定量的に評価する血清アポリポ蛋白 B-48 濃度測定系の開発とその臨床的有用性の包括的解析」	増田 大作	大阪大学	100
	62	「新規アポ A- I 模倣ペプチド「FAMP」による新たな動脈硬化診断・治療法の確立」	今泉 聡	福岡大学	30
	63	「血管の老化における Notch シグナルの役割の解明と動脈硬化性疾患に対する新規治療法の開発」	吉田 陽子	千葉大学	30
2013年 (第11回)	64	「血管平滑筋細胞の脂肪酸代謝に着目した新規動脈硬化予防・治療戦略の開発」	松井 弘樹	群馬大学	200
	65	「心血管疾患患者における歯周病原細菌罹患状態の解析」	青山 典生	東京医科歯科大学	100
	66	「マクロファージ特異的コレステロール合成欠損マウスにおける動脈硬化及び摂食抑制機序の解明」	永島 秀一	自治医科大学	100
	67	「血管内皮細胞のアドレノメデュリン - RAMP 2 システム制御による動脈硬化症治療法の開発」	小山 晃英	国際医療福祉大学	30
	68	「禁煙による動脈硬化性疾患予防効果は禁煙後の体重変化の影響を上回るか - 30年の縦断調査に基づく検討 -」	高橋 郁乃	放射線影響研究所	30
2014年 (第12回)	69	「網羅的解析手法を用いた動脈硬化の病態形成における脂肪酸代謝物の意義と機能の解明」	遠藤 仁	慶應義塾大学	200
	70	「患者由来 iPS 細胞を用いた冠縮性狭心症病態の解明」	澁谷 修司	弘前大学	100
	71	「PCSK9 阻害薬を用いた肥満および糖尿病治療の基盤構築」	山本 剛史	大阪大学	100
	72	「マイクロ RNA-33 の骨髄機能および慢性炎症における役割の検討」	馬場 理	京都大学	30
	73	「糖尿病血管合併症に対する環境因子と遺伝因子の相互作用の解明」	大隈 俊明	九州大学	30
2015年 (第13回)	74	「環境因子に応答したヒストン脱メチル化酵素 JMJDIA による熱産生関連遺伝子制御メカニズムの解明」	阿部 陽平	東京大学	200
	75	「MicroRNA-33a/b の動脈硬化性疾患における役割と治療法の開発」	西野 共達	京都大学	100
	76	「動脈硬化症におけるリンパ管カルパインシステムの役割」	宮崎 拓郎	昭和大学	100
	77	「胎性期飢餓ストレスによる内皮細胞の変容と動脈硬化との関連」	有馬勇一郎	熊本大学	30
	78	「原発性重症高中性脂肪血症における新規原因分子の網羅的解析及びその機能解析」	多田 隼人	金沢大学	30
2016年 (第14回)	79	「動脈硬化におけるインフラマソームを介した炎症の遷延機序の解明 - 炎症の収束を標的とした治療戦略の確立 -」	唐澤 直義	自治医科大学	200
	80	「糖尿病性動脈硬化症における血管平滑筋細胞のエネルギー代謝および形質転換機構の解明」	須永 浩章	群馬大学	100
	81	「家族性高コレステロール血症における PCSK9 の病態修飾因子としての機能解析」	堀 美香	国立循環器病研究センター	100
	82	「心臓周囲脂肪における冠動脈疾患発症・進展機序の解明」	高田 真吾	北海道大学	30
	83	「母体の高脂肪食摂取による胎児造血系細胞の動態変化を標的とした生活習慣病・動脈硬化に対する新たな先制医療の開発」	若菜 紀之	京都府立医科大学	30
2017年 (第15回)	84	「糖尿病治療薬メトホルミンの新規抗炎症・抗動脈硬化機構の解明」	坂田 菜摘	東北大学	200
	85	「心臓 PET による非侵襲的心筋血流量法の冠動脈疾患治療効果判定への応用」	相川 忠夫	北海道大学	100
	86	「リソリン脂質に注目した動脈硬化症の病態生理の解明と医療応用」	蔵野 信	東京大学	100
	87	「T-cadherin を介したアディポネクチン組織集積による、抗動脈硬化作用メカニズムの解明」	藤島 裕也	大阪大学	30
	88	「筋衛星細胞発現遺伝子 R3hdm1 の機能解析を通じたサルコペニア・動脈硬化の病態解明」	坂本 憲一	千葉大学	30

日本心臓財団若年研究者研究奨励（藤基金） Japan Heart Foundation Research Grant for Young

匿名でいただいた個人からのご寄附をもとに30歳未満の若手研究者に研究助成を行いました。

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
2003年 (第1回)	1	「糖尿病性微小血管障害における BMK1 の生理的意義の解明と新しい治療法の開発」	井澤 有紀	徳島大学	100
	2	「成体マウス心筋幹細胞の単離、同定と心筋への分化過程の解明」	松浦 勝久	千葉大学	100
2004年 (第2回)	3	「心筋細胞に発現する伸張刺激感受性チャネルの分子実体の解明」	小林 優子	国立循環器病センター研究所	100
	4	「効率的な心筋細胞への分化誘導法の開発— Wnt シグナルによる心筋細胞分化誘導」	内藤 篤彦	千葉大学	100
2005年 (第3回)	5	「 α_1 アドレナリン受容体刺激で活性化される CaMK II による興奮収縮制御機構の解明」	大内 仁	東京慈恵会医科大学	100
	6	「活性化血小板における濃染顆粒放出の分子メカニズムに関する研究」	白川龍太郎	京都大学	100
2006年 (第4回)	7	「中等度低体温循環停止における human Atrial Natriuretic Peptide(hANP) の腎保護作用」	大野 正裕	昭和大学	100
	8	「C 反応性蛋白の動脈硬化・心筋梗塞発症における分子メカニズムの解明と治療法の開発」	小池 智也	山梨大学助手	100
2007年 (第5回)	9	「心臓の機械的伸展により誘発される不整脈の機序解明への医工学的アプローチ」	瀬尾 欣也	東京大学	50
	10	「 γ -secretase 抑制遺伝子の機能解析—動脈硬化・認知症の新規治療標的因子」	林 宏樹	大阪大学	50
	11	「アンジオテンシン II 受容体を介する心筋イオンチャネル remodeling の分子機序の解明」	森島 真幸	大分大学助教	50
	12	「脂質排出トランスポーター ABCB4 によるマクロファージ泡沫細胞化の抑制」	森田 真也	神戸薬科大学助教	50
2008年 (第6回)	13	「心臓組織幹細胞として働く心臓内神経堤幹細胞の分化遊走能の解析と再生医療への応用」	田村 雄一	慶應義塾大学	50
	14	「動脈硬化の早期発見を目的とした新規 CT 画像診断技術に関する研究」	淵上 剛志	浜松医科大学助教	50
	15	「薬剤誘因性心不全に対する単量体カルボニル還元酵素群の新規薬物標的因子としての関与」	三浦 健	大阪大谷大学助教	50
	16	「新生血管による神経再生機構の解明」	村松里衣子	大阪大学	50
2009年 (第7回)	17	「血管石灰化と骨粗鬆症の共通の分子機構とエストロゲンによる制御」	大塚マリアナ 今日美	大阪大学	50
	18	「マウス心臓移植モデルにおける急性および慢性拒絶に対する PAI-1 の役割」	小川 真仁	東京医科歯科大学	50
	19	「心筋細胞肥大における p300/GATA4 複合体による肥大反応遺伝子の転写調節機構の解明」	砂川 陽一	京都大学	50
	20	「T 型 Ca^{2+} チャネル阻害薬による血管再生療法効率化の可能性」	橋本 良太	順天堂大学	50
2010年 (第8回)	21	「心筋再灌流傷害の薬理的抑制効果の検討—心臓マイクロダイアリシス法を用いて」	曾野部 崇	国立循環器病研究センター	50
	22	「心臓手術における心筋内空気塞栓による心筋運動障害の発生メカニズムと定量・定性評価」	立石 渉	東京女子医科大学東医療センター	50
	23	「ES/iPS 細胞由来心筋細胞における代謝的精製法の構築」	遠山 周吾	慶應義塾大学	50
	24	「心臓における血管新生機構の解析および iPS 細胞を用いた心臓血管細胞移植治療法の開発」	山水 康平	京都大学	50
2011年 (第9回)	25	「心室細動の特異的基質の検討— 320 列 CT を用いた持続性・非持続性心室頻拍症例との比較」	小澤 公哉	千葉大学	50
	26	「高 Lipoprotein(a) 血症に対する DNA ワクチンの試み」	久徳真梨子	大阪大学	50
	27	「心臓の ex vivo ライブイメージング法の構築及びそれを用いた心筋細胞周期の解析」	橋本 寿之	慶應義塾大学	50

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
2011年 (第9回)	28	「くも膜下出血発症椎骨動脈解離における急性期脳血流動態及び椎骨脳底動脈形態学的評価による予後決定因子の解明」	松川 東俊	聖路加国際病院	50
2012年 (第10回)	29	「肥大型心筋症における心エコーストレイン、MRI、CTを組み合わせた新しい予後層別化」	馬詰 智子	千葉大学	50
	30	「カスパーゼ1ホモログを用いたインフラマソーム制御による新規動脈硬化抑制法の開発」	唐澤 直義	自治医科大学	50
	31	「疾患特異的iPS細胞を用いた抗動脈硬化機構の解明と新規治療法の開発」	楠本 大	慶應義塾大学助教	50
	32	「甲状腺ホルモンの心臓血管系における役割」	前田 和宏	東京女子医科大学	50

日本心臓財団・ノバルティス循環器分子細胞研究助成

Japan Heart Foundation/Novartis Grant for Research Award on Molecular and Cellular Cardiology

日本心臓財団ではノバルティスファーマ株式会社の協力を得て、循環器疾患領域の発症機転および治療について分子細胞生物学的研究を行う若手研究者に対して研究助成を行いました。

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
2005年 (第1回)	1	「多光子レーザー顕微鏡を用いた心筋虚血再灌流傷害のリアルタイムイメージングの確立」	赤尾 昌治	京都大学助手	100
	2	「メカニカルストレスによるアンジオテンシンII受容体活性化機構の解明と創薬への応用」	赤澤 宏	千葉大学助手	100
	3	「時計遺伝子変異マウスにおける動脈硬化進展の分子メカニズム」	明石 真	佐賀大学講師	100
	4	「心筋幹細胞特異的増幅因子の同定による次世代心筋再生医療の開発」	王 英正	京都大学助教授	100
	5	「脂肪細胞機能制御に関する遺伝子の網羅的解析-Tryptophan hydroxylase 1 遺伝子の心血管疾患発症における役割の解明-」	尾野 亘	国立病院機構京都医療センター研究室長	100
	6	「心筋リモデリングにおけるミトコンドリア酸化的リン酸化能低下の分子生物学的機構の解明」	佐野 元昭	慶應義塾大学助手	100
	7	「心血管系転写因子 KLF5 によるポリ (ADP-リボース) 合成酵素 (PARP) のアポトーシス活性阻害のメカニズムの解明-アポトーシスの新規メカニズムの解明ならびに創薬の標的として-」	鈴木 亨	東京大学	100
	8	「分子ターゲティングマイクロバブルを用いた非梗塞遷延虚血心筋への冠血管新生療法」	豊田 英嗣	川崎医科大学講師	100
	9	「メタボリックシンドロームの治療標的としてのアディポネクチンの分子的意義の解明」	前田 法一	大阪大学	100
	10	「ASK1 依存性心筋細胞死から心不全発症に至る分子生物学的機序の解明」	山口 修	大阪大学	100
2006年 (第2回)	11	「血管発生・分化・再生に関与する新規 VEGF 受容体結合蛋白の単離同定・機能解析」	池田 宏二	京都市立医科大学	100
	12	「心不全の発症・進展における肥満の関与：脳-脂肪細胞系からの基礎的検討」	岩永 善高	京都大学 産学官連携講師	100
	13	「心不全発症における Na ⁺ /Ca ²⁺ 交換体の役割-制御機構の解明と新規治療法開発-」	片野坂友紀	岡山大学	100
	14	「インスリン抵抗性に伴う骨格筋機能および運動能障害における酸化ストレスの役割の解明」	絹川真太郎	北海道大学	100
	15	「肺高血圧症の病態生理や分子機序を検討し有効な薬物療法や細胞療法を開発すること」	佐原 真	東京大学	100
	16	「低分子ストレスタンパク質異常により発症する心筋症の病態解明と治療法の開発」	三部 篤	国立成育医療センター 研究所室長	100
	17	「動脈硬化における炎症性メディエータとしての遊離脂肪酸の分子機構の解明と医学応用」	菅波 孝祥	東京医科歯科大学難 治疾患研究所助手	100
	18	「新規インスリン抵抗性改善薬 PPAR β / δ ligand による抗動脈硬化作用の検討」	高田 康德	愛媛大学	100
	19	「血管石灰化の転写調節機構の解明」	田中 亨	群馬大学	100
	20	「虚血性心筋傷害に対する新たな治療ターゲットとして、小胞体ストレス機構へのサイトカインの関与を検討する」	寺井 和生	大阪大学	100
	21	「ErbB ファミリー /Gab ファミリー情報伝達経路の心機能維持における検討」	中岡 良和	国立循環器病セン ター研究所	100
2007年 (第3回)	22	「心筋細胞生存における EGF family - ErbB 受容体シグナルの役割解明」	朝倉 正紀	国立循環器病セン ター医長	100
	23	「心筋胎児型イオンチャンネルの発現制御と心不全病態形成への関与および分子機序の解明」	桑原宏一郎	京都大学講師	100
	24	「糖尿病性血管障害におけるユビキチン類似タンパク質 SUMO の機能解析」	小和瀬桂子	群馬大学	100

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
2007年 (第3回)	25	「心筋梗塞による心筋リモデリング及び心筋ラプチャーの新たな分子機構の解明と治療法の開発」	成 憲武	名古屋大学助手	100
	26	「ヒト先天性心房心室中隔欠損症を引き起こす Spalt 遺伝子群の研究」	竹内 純	東京工業大学特任 助教授	100
	27	「Notch シグナル抑制による動脈硬化病変の制御」	竹下 享典	名古屋大学特任助手	100
	28	「単核球細胞を用いた血管再生治療における筋芽細胞活性化・増殖の重要性とその分子機序」	舘野 馨	千葉大学	100
	29	「接着阻害因子ペリオスチンに着目した新規急性心筋梗塞治療法の開発」	谷山 義明	大阪大学助手	100
	30	「脂肪組織での血管新生の可視化によるメタボリックシンドロームの病態解明と抗肥満治療」	西村 智	東京大学	100
	31	「血管内皮機能異常における Ca 流入性 TRP チャネルの役割」	渡邊 博之	秋田大学講師	100
2008年 (第4回)	32	「不全心筋病態形成における心筋細胞核クロマチンリモデリングの果たす役割—胎児性遺伝子発現制御機構の解明—」	朝野 仁裕	国立循環器病セン ター研究所	100
	33	「骨格筋由来の新規血管新生因子の同定とその機能解析」	泉家 康宏	熊本大学助教	100
	34	「モデル生物の心形成遺伝子と循環器疾患患者の疾患感受性遺伝子の包括的解析研究」	久場 敬司	東京医科歯科大学特 任講師	100
	35	「Toll 様受容体の新しい内因性制御因子による心不全改善機序の解明とその治療応用」	真田 昌爾	国立循環器病セン ター	100
	36	「心筋細胞における低酸素適応システムの分子機序の解明」	武田宏太郎	九州大学	100
	37	「新規拡張型心筋症モデルマウスを用いた拡張型心筋症発症機序の解明」	東口 治弘	千葉大学	100
	38	「ホメオチック遺伝子とそのマイクロ RNA による脂肪前駆細胞の分化制御機構の解明」	中神 啓徳	大阪大学助教	100
	39	「抗 KCNH2 (HERG) 抗体による自己免疫性 QT 延長症候群の病態の解明—後天性 QT 延長症候群の新しい発症機序の検討」	中村 一文	岡山大学助教	100
	40	「心臓弁膜症発症における血管新生因子ペリオスチンの発現制御とその役割の解明」	伯野 大彦	慶應義塾大学助教	100
	41	「動脈硬化症における脂肪酸組成の重要性と長鎖脂肪酸伸長酵素 Elovl6 の役割の解明」	松坂 賢	筑波大学助教	100
2009年 (第5回)	42	「肥満・動脈硬化における MKP- 1 の病態生理的意義と創薬ターゲットとしての可能性」	伊藤 綾香	東京医科歯科大学難 治疾患研究所	100
	43	「動脈硬化予防のための HDL 上昇技術開発と機能未知 ABC 蛋白による動脈硬化形成メカニズムの解析」	岩本 紀之	名古屋市立大学	100
	44	「ヒストン修飾酵素阻害薬による心不全の新規治療法の開発」	金田 るり	慶應義塾大学助教	100
	45	「ATP のオートクライン/パラクライン作用による心房線維化誘導機序の検討」	笹野 哲郎	東京医科歯科大学難 治疾患研究所特任 助教	100
	46	「原発性肺高血圧における低酸素誘導蛋白サイクロフィリン A の発現制御とその役割の解明」	佐藤 公雄	東北大学助教	100
	47	「内因性カンナビノイドシステム制御による動脈硬化症治療の検討」	菅村 公一	熊本大学助教	100
	48	「不全心筋における心臓型ミオシン軽鎖キナーゼの発現制御とその役割」	瀬口 理	大阪大学	100
	49	「細胞内分解機構の心不全発症における役割の検討と治療への応用」	彦惣 俊吾	大阪大学助教	100
	50	「心臓 Na チャネル病の病態解明—心房細動モデルマウスの構築とチャネル制御蛋白の探索」	牧山 武	京都大学助教	100
	51	「心筋前駆細胞シート移植を用いた心筋再生治療における VCAM-1/VLA-4 シグナルの重要性」	松浦 勝久	東京女子医科大学助 教	100
2010年 (第6回)	52	「潜在性突然死症候群における遺伝的背景のゲノム網羅的解析とその分子病態の解明」	伊藤 英樹	滋賀医科大学助教	100

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
2010年 (第6回)	53	「心不全発症におけるタンパク質管理機構の役割の検討」	薄井 荘一郎	金沢大学助教	100
	54	「心臓交感神経の成熟と循環動態に対する影響—ナルディライジン欠損マウスの解析から」	大野 美紀子	京都大学	100
	55	「MURCの不全心筋での病的意義と心筋症における新たな治療ターゲットの可能性」	小形 岳寛	京都府立医科大学病院助教	100
	56	「脳におけるペリオスチンの機能解明と脳梗塞における新規治療法開発への応用」	島村 宗尚	大阪大学特任助教	100
	57	「心不全におけるインスリンシグナルの解析」	清水 逸平	千葉大学	100
	58	「動脈石灰化におけるビタミンD—TBP-2—酸化ストレス経路の意義— α Klotho 研究からのアプローチ」	田中 智洋	京都大学助教	100
	59	「心肥大における Rho-associated kinase (ROCK) 2 の役割の検討」	野間 玄督	広島大学助教	100
	60	「eNOS の機能異常による血管内皮機能障害の発症機序と病態における役割の解明」	山本 英一郎	熊本大学特任助教	100
	61	「特発性心室細動の病態解明と治療—原因遺伝子の同定と遺伝子組み換えマウスの構築」	渡部 裕	新潟大学特任助教	100
	2011年 (第7回)	62	「腹部大動脈瘤におけるペリオスチンの機能解析と新規治療法への応用」	東 純哉	大阪大学特任助教
63		「チロシンキナーゼ阻害薬封入ナノ DDS を用いた重症肺高血圧症の新たな治療法の開発」	阿部 弘太郎	九州大学	100
64		「心不全におけるカルレティキュリンを介した脂肪細胞由来因子の役割解明」	柴田 玲	名古屋大学特任講師	100
65		「ヒト iPS 血管分化系を用いた血管障害疾患の病態解明と新規治療標的分子の探索」	曾根 正勝	京都大学助教	100
66		「心筋細胞特異的 c-myc 転写複合体構成蛋白質の同定法の開発とその遺伝子発現調節機構の解明」	塚本 蔵	大阪大学	100
67		「心不全の病態生理における Wnt シグナル活性化の意義の解明」	内藤 篤彦	大阪大学助教	100
68		「プロリン異性化酵素 Pin1 の動脈硬化発症における役割と阻害薬による新規治療法の試み」	中津 祐介	広島大学助教	100
69		「小胞体特異的アポトーシス誘導転写因子 CHOP を標的とした新規心不全治療法の開発」	富 海英	大阪大学	100
70		「心臓繊維化を決定する新規腎臓由来物質の同定」	藤生 克仁	東京大学特任助教	100
71		「動脈硬化形成過程におけるマイクロ RNA-33 の機能解析—遺伝子改変動物を用いて」	堀江 貴裕	京都大学特定助教	100
2012年 (第8回)	72	「Angiopoietin-1 による冠血管形成の制御機構」	有田 陽	大阪大学	100
	73	「急性心筋梗塞に対する骨髄単核球細胞治療における心臓でのマイクロ RNA 発現調整機構」	家串 和真	大阪大学特任助教	100
	74	「新規ケモカインシステムによるインスリン抵抗性の制御機構解明」	太田 嗣人	金沢大学助教	100
	75	「増殖因子シグナルを制御する人工受容体を用いた経済的かつ効率的な心筋再生療法確立」	川村 晃久	京都大学特定助教	100
	76	「病的心臓リモデリングにおける細胞特異的 TGF β シグナリングの役割の解明」	小坂橋紀通	群馬大学助教	100
	77	「動脈硬化抑制における制御性 T 細胞の分子機序の解明と新規動脈硬化治療法の開発」	佐々木直人	神戸大学特定助教	100
	78	「ヒト iPS 細胞を用いた血管細胞分化過程の解析および動脈硬化病態解明への応用」	田浦 大輔	京都大学	100
	79	「心肥大の病態生理における NLRP3 インフラマソームの役割及びその活性化機序の解明」	東邦 康智	東京大学助教	100
	80	「ジペプチジルペプチダーゼ-4 阻害剤の心血管系疾患への作用機序の解明と臨床効果の検討」	松原 純一	熊本大学特任助教	100
	81	「ヒト iPS 細胞を用いた致死的循環器疾患の病態解明と治療方法の開発」	湯浅 慎介	慶應義塾大学特任講師	100

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
2013年 (第9回)	82	「DNA蓄積による不全心炎症の制御をコンセプトとした新たな心不全治療の開発」	岡 崇史	大阪大学	100
	83	「肺血管リモデリングにおける血栓由来成分の役割の解明と治療応用への基盤研究」	小川 愛子	国立病院機構岡山医療センター	100
	84	「肥大型心筋症の致死的不整脈に対するリアノジン受容体安定化による新しい治療法の開発」	奥田 真一	山口大学助教	100
	85	「心血管病におけるガス伝達物質の酸化ストレスに対する影響の解明と治療応用への検討」	近藤 和久	名古屋大学助教	100
	86	「心筋梗塞に対するiPS細胞由来心筋細胞移植療法の開発：霊長類を用いた前臨床試験」	柴 祐司	信州大学講師	100
	87	「補体分子C1qによるWntシグナル活性化が高血圧性動脈リモデリングにおいて果たす役割の解明」	住田 智一	大阪大学	100
	88	「動脈発生に必須の新規膜蛋白の分子機序と病態における意義の解明」	染川 智	奈良県立医科大学特任講師	100
	89	「糖・脂質代謝調節転写因子CREBHによる動脈硬化発症進展への影響」	中川 嘉	筑波大学講師	100
	90	「生体4Dイメージングによる血管の極性形成機構の解明」	中嶋 洋行	国立循環器病研究センター研究所	100
	91	「心筋梗塞時における死細胞貪食メカニズムの解明」	仲矢 道雄	九州大学准教授	100
2014年 (第10回)	92	「生体イメージング法による虚血心筋エネルギー代謝の解明とATP産生への創薬基盤研究」	木岡 秀隆	大阪大学	100
	93	「LincRNAの機能解析による、心肥大・心不全の新たな病態解明」	桑原 康秀	京都大学	100
	94	「心臓組織低還流による幹細胞機能不全の視点から見た心不全発症メカニズムの解明」	眞田 文博	大阪大学特任助教	100
	95	「心室/心房中隔欠損症患者由来のiPS細胞を用いた疾患原因遺伝子の解析」	関 倫久	慶應義塾大学助教	100
	96	「心不全における低分子量RhoAの役割の解明と創薬にむけた基盤研究」	竹藤 幹人	名古屋大学病院助教	100
	97	「肥満・動脈硬化症とリンクする免疫代謝システムの分子機構」	田中(大石)由美子	東京医科歯科大学難治疾患研究所准教授	100
	98	「心筋細胞の分化と破綻におけるエピゲノム制御機構の解明」	野村征太郎	東京大学	100
	99	「心筋リモデリングとミトコンドリア品質維持におけるNox4の役割の解明」	松島 将士	北海道大学	100
	100	「虚血性血管新生における酸化ストレス応答制御転写因子Bach1の機能的意義の解明」	丸橋 達也	広島大学	100
	101	「小胞体カウんターイオンチャネルTRIC-Aの心臓における生理的意義の解明」	山崎 大樹	京都大学特定講師	100

日本心臓財団・日循協・アストラゼネカ臨床疫学研究助成

The Grant for Clinical and Epidemiologic Research of the Joint Project of Japan Heart Foundation and the Japanese Society of Cardiovascular Disease Prevention Sponsored by the AstraZeneca

本研究助成は、アストラゼネカ株式会社の協力を得て、日本心臓財団と日本循環器病予防学会（旧：日循協）が協力して実施する、循環器疾患に対する一次～三次予防（発症予防、重症化予防、再発防止）のいずれかを目的とした臨床疫学研究への助成です。

対象者は40歳未満の医師・保健師・看護師・管理栄養士・栄養士・薬剤師等医療関係に携わる者とし、研究期間は3年以内とし、1件最大500万円を行いました。

年度 (回数)	番号	研究テーマ	氏名	所属(受領時)	助成額 (万円)
2012年 (第1回)	1	「上腕収縮期血圧左右差と血管内皮機能、動脈硬化、冠動脈虚血の関係」	浅井 貴絵	日本大学	80
	2	「植え込み型デバイス使用患者の遠隔モニタリングを用いた心不全再入院予防手段の探求」	小田 登	広島大学助教	300
	3	「慢性心不全増悪予防を目指した質の高い治療・ケアの均てん化のための Quality Indicator の開発」	加藤 尚子	東京大学	200
	4	「下肢筋力の健康度は高齢循環器疾患患者の生命予後並びに機能予後を予測する」	神谷健太郎	北里大学	500
2013年 (第2回)	5	「心血管疾患危険因子に対する塩分摂取の関与と減塩効果に関する臨床研究」	赤坂 憲	札幌医科大学特任助教	150
	6	「運動が禁煙継続に及ぼす影響に関する検討」	尾崎 裕香	奈良女子大学	500
	7	「心不全を併発している高齢患者の自立歩行を守るための循環器予防研究」	小幡 裕明	新潟大学	420
	8	「はみがき習慣と心血管疾患リスク因子との関係を健康診断のデータを用いて明らかにする」	桑原 政成	聖路加国際病院	400
	9	「慢性腎臓病(CKD)と心血管疾患の罹患、入院治療、医療費との関連：縦断的評価」	西川 晋史	神鋼病院健診センター	150
2014年 (第3回)	10	「新規内臓脂肪計 Dual Scan による内臓脂肪蓄積の循環器疾患発症での意義の解明」	井田みどり	京都大学	90
	11	「飲酒習慣を有する高血圧患者への保健指導の有効性に関する前向きランダム化比較試験」	樺山 舞	大阪大学助教	200
	12	「不整脈発症における自律神経系の関与：一般住民コホート吹田研究の Holter 心電図解析」	小林 貴	国立循環器病研究センター病院	250
	13	「新たな骨格筋電気刺激法は心不全で入院した後期高齢者の運動機能低下を予防する」	田中 信弥	北里大学	400
	14	「メタボリック症候群・肥満症の臨床疫学研究—ナショナルデータベースを用いた横断・縦断研究」	中尾 葉子	京都大学	90
	15	「心血管病患者における更年期障害の疫学と性差、予後に関する臨床研究」	三浦 正暢	東北大学助教	300
	16	「日本版 DASH 食の開発と食事介入による生体指標の変化の検討」	宮川 尚子	滋賀医科大学特任助手	500

日本心臓財団拡張型心筋症治療開発研究助成（ほのかちゃん基金）

Japan Heart Foundation Research Grant on Dilated Cardiomyopathy

2007年に拡張型心筋症のほのかちゃんが海外での心臓移植を目指すため（2007年当時は日本での小児への移植は認められていなかった）集めた募金により渡航したが移植治療を行わず帰国し国内での治療を継続することになり、集めた募金の一部を今後の拡張型心筋症治療に役立ててほしいと当財団にご寄附をいただき、それをもとに拡張型心筋症の治療開発に取り組む研究者に助成を行いました。

年度 (回数)	番号	研究課題	氏名	所属（受領時）	助成額 (万円)
2013年 (第1回)	1	「拡張型心筋症患者のiPS細胞を用いた病態解析と創薬」	小室 一成	東京大学教授	200
	2	「ナチュラルキラーT細胞活性化による拡張型心筋症に対する新たな細胞治療の開発」	筒井 裕之	北海道大学教授	200
2014年 (第2回)	3	「次世代シーケンサー、iPS細胞を用いた心筋緻密化障害の病態解明と治療法の開発」	市田 落子	富山大学准教授・診療教授	200
	4	「心不全エネルギー代謝不全における小胞体ストレス応答機構の役割解明と、その制御による治療法の検討」	瀧本 英樹	東京大学特任准教授	200
2015年 (第3回)	5	「特発性心筋症治療法を目指した新規メッセンジャーRNA補充療法の開発」	尾上 健児	奈良県立医科大学助教	200
	6	「生体内吸収シートから導入される核酸医薬による拡張型心筋症の治療」	鈴木 淳一	東京大学特任准教授	200
2016年 (第4回)	7	「心不全の発症・進展にかかわる遺伝子転写調節経路の解明と新規治療標的の探索」	桑原宏一郎	信州大学教授	200
	8	「心筋緻密化障害に関わるヒトGFRA1/2シグナル経路の解明と、心筋緻密化過程を解析するための心室壁オルガノイドの開発」	八代 健太	大阪大学特任准教授	200
2017年 (第5回)	9	「心腸連関を標的とした拡張型心筋症の革新的治療法の開発」	赤澤 宏	東京大学講師	200
	10	「拡張型心筋症の新規分子機構解明と治療開発～転写制御因子HOPX遺伝子変異ノックインマウスを用いた検討」	森田 啓行	東京大学講師	200
2018年 (第6回)	11	「iPS由来心筋細胞の増殖能を増幅する薬剤の創出」	武田 憲文	東京大学特任講師	200
	12	「遺伝性拡張型心筋症における脂肪酸代謝制御機構の解明とPPAR α モジュレーターによる新規治療法の確立」	松島 将士	九州大学助教	200
2019年 (第7回)	13	「心不全進展の共通経路を規定する遺伝的基盤の解明」	伊藤 薫	理化学研究所チームリーダー	200
	14	「炎症を伴う拡張型心筋症の病態解明とそれを応用した診断・治療法の開発」	今中 恭子	三重大学研究教授	200

不整脈の非薬物治療Scholarship短期海外研修助成

日本メドトロニック株式会社の協力を得て、わが国の心臓血管病の臨床電気生理学に携わる研究者を対象とした1週間の短期海外研修です。

2001年（第1回）		
研修先	Cleveland Clinic Foundation（米国・オハイオ） 助成額は各 80 万円	
番号	氏名	所属（受領時）
1	井川 修	鳥取大学講師
2	大友建一郎	青梅市立総合病院医長
3	金古 善明	群馬大学助手
4	栗田 隆志	国立循環器病センター
5	高木 雅彦	大阪市立大学
6	高月 誠司	慶應義塾大学助手
7	内藤 滋人	群馬県立心臓血管センター部長
8	野上 昭彦	横浜労災病院部長
9	山田 功	愛知県立尾張病院医長
10	山部 浩茂	熊本市立熊本市民病院医長

2002年（第2回）		
研修先	Cleveland Clinic Foundation（米国・オハイオ） 助成額は各 80 万円	
番号	氏名	所属（受領時）
11	安部 治彦	産業医科大学講師
12	軸屋 智昭	筑波大学講師
13	篠崎 毅	東北大学助手
14	白山 武司	京都府立医科大学助手
15	住田 晋一	横浜市立大学助手
16	冨田 浩	群馬県立心臓血管センター部長
17	布田 有司	埼玉県立循環器・呼吸器病センター 医長
18	山城 荒平	兵庫県立姫路循環器病センター医長
19	横式 尚司	北海道大学
20	鷲塚 隆	新潟大学助手

2003年（第3回）		
研修先	Emory University（米国・ジョージア） 助成額は各 80 万円	
番号	氏名	所属（受領時）
21	阿部 芳久	秋田県成人病医療センター部長
22	家坂 義人	土浦協同病院循環器センター部長
23	鶴野起久也	札幌医科大学講師
24	岡崎 修	国立国際医療センター医長
25	小川 正浩	福岡大学病院助手
26	奥山 裕司	大阪警察病院心臓センター医長
27	清水 昭彦	山口大学教授
28	春名 徹也	北野病院副部長
29	森山 泰	熊本中央病院
30	吉田 明弘	神戸大学助手

2004年2月（第4回）		
研修先	Emory University（米国・ジョージア） 助成額は各 80 万円	
番号	氏名	所属（受領時）
31	足立 和正	立明石医療センター
32	安部 治彦	産業医科大学講師
33	井川 昌幸	平塚共済病院医長
34	石川 利之	横浜市立大学助教授
35	久賀 圭祐	筑波大学助教授
36	清水 宏紀	兵庫医科大学
37	高木 雅彦	大阪市立大学助手
38	武田 寛人	太田西ノ内病院循環器センター部長
39	中本 進	近畿大学助手
40	横式 尚司	北海道大学助手

2004年7月（第5回）		
研修先	Emory University（米国・ジョージア） 助成額は各 80 万円	
番号	氏名	所属（受領時）
41	伊藤 浩	桜橋渡辺病院部長
42	大友建一郎	青梅市立総合病院部長
43	須賀 幾	埼玉医科大学講師
44	中井 俊子	日本大学助手
45	庭屋 和夫	国立循環器病センター
46	日名 一誠	心臓病センター榊原病院部長
47	本田 俊弘	済生会熊本病院心臓血管センター副 部長
48	三浦 昌人	東北大学助手
49	水牧 功一	富山医科薬科大学助手
50	山城 荒平	兵庫県立姫路循環器病センター医長

日本心臓財団Cardiac Rhythm Management短期海外研修助成

循環器領域の若手臨床研究者が海外の基幹施設にて不整脈および心不全等のデバイス療法を研修する短期海外研修プログラム。助成には研修中の日本国内移動（鉄道・航空のみ）、海外渡航（航空）、および研修地域における移動（専用車など）に関わる交通費、研修地での宿泊費、および全行程の食事等が含まれていました。

2005年（第1回）

研修先 バードユーハウゼン心臓病研究所（ドイツ）					
番号	氏名	所属（受領時）	番号	氏名	所属（受領時）
1	安部 治彦	産業医科大学	7	田中 一司	湘南鎌倉総合病院医長
2	稲垣 雅行	船橋市立医療センター	8	庭屋 和夫	国立循環器病センター
3	笠井 篤信	山田赤十字病院副部長	9	山城 荒平	兵庫県立姫路循環器病センター医長
4	加藤 律史	埼玉医科大学講師	10	横式 尚司	北海道大学助手
5	菅野 重人	日本医科大学講師	11	吉田 明弘	神戸大学助手
6	佐藤 俊明	慶應義塾大学助手	12	渡辺 一郎	日本大学助教授

2006年（第2回）

研修先 バードユーハウゼン心臓病研究所（ドイツ）					
番号	氏名	所属（受領時）	番号	氏名	所属（受領時）
13	石川 利之	横浜市立大学助教授	19	田山 信至	熊本病院医長
14	鶴野起久也	札幌医科大学講師	20	内藤 滋人	群馬県立心臓血管センター部長
15	熊谷 浩司	東北大学助手	21	新田 順一	さいたま赤十字病院部長
16	栗田 隆志	国立循環器病センター医長	22	平木 達朗	大牟田市立総合病院部長
17	佐々木玲聡	順天堂大学助手	23	藤森 完一	仙台循環器病センター医長
18	副島 京子	慶應義塾大学講師	24	山縣 俊彦	山口県立総合医療センター部長

2009年（第3回）

研修先 Institute Jantung Negara（マレーシア）					
番号	氏名	所属（受領時）	番号	氏名	所属（受領時）
25	有田 武史	小倉記念病院医長	28	佐藤 明	さいたま赤十字病院副部長
26	遠田 賢治	荻窪病院医長	29	二藤部文司	山形大学助教
27	古山准二郎	熊本病院医長	30	古川 善郎	大阪府立急性期・総合医療センター医長
研修先 Pisa University / Spedali Civili Hospital（イタリア）					
31	江島浩一郎	東京女子医科大学助教	34	林 英守	順天堂大学助教
32	岡嶋 克則	兵庫県立姫路循環器病センター医長	35	三明淳一朗	鳥取大学助教
33	岡村 英夫	国立循環器病センター	36	渡辺 敦之	福山市民病院科長

2010年（第4回）

研修先 Institute Jantung Negara（マレーシア）					
番号	氏名	所属（受領時）	番号	氏名	所属（受領時）
37	麻生 明見	九州医療センター	40	溝淵 正寛	京都桂病院医長
38	井上 啓司	京都第二赤十字病院	41	峰 隆直	兵庫医科大学助教
39	加藤 克	鳥取大学助教	42	向井 靖	九州大学助教
研修先 Ospedale Cisanello/Spedali Civili Hospital（イタリア）					
43	大久保公恵	日本大学	46	永井 啓行	愛媛大学助教
44	鈴木 靖司	愛知医科大学助教	47	松下 浩平	横浜市立大学助教
45	武居明日美	神戸大学特命助教	48	森島 逸郎	大垣市民病院医長

2011年(第5回)					
研修先 Ospedale Cisanello/Spedali Civili Hospital (イタリア)					
番号	氏名	所属(受領時)	番号	氏名	所属(受領時)
49	青柳 秀史	横浜市立みなの赤十字病院	52	野田 崇	国立循環器病研究センター
50	有本 貴範	山形大学助教	53	山田 貴之	医誠会病院部長
51	下重 晋也	札幌医科大学助教	54	吉田健太郎	筑波大学講師

2012年(第6回)					
研修先 Ospedale Cisanello/Spedali Civili Hospital (イタリア)					
番号	氏名	所属(受領時)	番号	氏名	所属(受領時)
55	小田 登	広島大学助教	58	福本耕太郎	慶應義塾大学助教
56	佐々木真吾	弘前大学准教授	59	保坂 幸男	新潟市民病院副部長
57	高杉 信寛	岐阜大学	60	松本 克己	横浜市立大学助教

2013年(第7回)					
研修先 Ospedale Cisanello/Spedali Civili Hospital (イタリア)					
番号	氏名	所属(受領時)	番号	氏名	所属(受領時)
61	井上 耕一	桜橋渡辺病院医長	64	佐々木 毅	東京医科歯科大学助教
62	桶谷 直也	鹿児島大学講師	65	中川英一郎	大阪市立総合医療センター副部長
63	坂部 茂俊	伊勢赤十字病院副部長	66	中村 紘規	群馬県立心臓血管センター医長

2014年(第8回)					
研修先 Ospedale Cisanello/Ospedale Giovanni XXIII (イタリア)					
番号	氏名	所属(受領時)	番号	氏名	所属(受領時)
67	河野 律子	産業医科大学講師	70	竹中 創	横浜総合病院部長
68	篠原 徹二	大分大学特任助教	71	南口 仁	大阪大学特任助教
69	滝川 正晃	横須賀共済病院医長	72	山科 順裕	仙台市立病院医長

日本心電学会木村栄一賞

昭和59年に設立された日本心電学会より、わが国心電学の発展に大きな功績のあった故木村栄一博士（日本循環器学会第四代理事長、当財団理事、日本医科大学学長）を追悼記念して木村栄一賞を創設するに当り、当財団に後援要請があり、当財団では、同学会の選考される少壮研究者の最優秀論文に対し、毎年の同学会総会において賞状と副賞30万円を贈呈した。

年度	番号	氏名	所属（受領時）
1985年	1	倉智 嘉久	岡崎国立共同研究機構生理学研究所
	2	田中 博	東京大学講師
1986年	3	池田こずえ	山形大学助手
	4	小竹 寛	鳥取大学講師
1987年	5	中谷 晴昭	北海道大学
1988年	6	綱川 宏	昭和大学藤が丘病院
1989年	7	長谷川純一	鳥取大学
1990年	8	早野順一郎	名古屋市立大学
	9	藤木 明	富山医科薬科大学
1991年	10	松浦 博	佐賀医科大学
1992年	11	清水 涉	国立循環器病センター
	12	萩原 誠久	東京女子医科大学
1993年	13	野上 昭彦	東京医科歯科大学
1994年	14	平山 悦之	日本医科大学
	15	森谷 和徳	慶應義塾大学
	16	山下 武志	大阪大学
1995年	17	當瀬 規嗣	札幌医科大学
	18	安部 治彦	産業医科大学

日本心臓財団・フィリップス心不全陽圧治療研究奨励賞

日本心臓財団ではフィリップス株式会社の協力を得て、心不全陽圧治療研究会において循環器領域における睡眠呼吸障害分野の発展と研究者育成を目的として、公募により優れた研究論文および研究発表に対し、賞を贈呈しました。

年度 (回数)	番号	氏名	所属 (受領時)	論文・演題 (発表誌・学会)	金額 (万円)
2015年 (第1回)	論文賞				
	1	木村 雄弘	慶應義塾大学	Effect of Nocturnal Intermittent Hypoxia on Left Atrial Appendage Flow Velocity in Atrial Fibrillation. (Canadian Journal of Cardiology 2015, 31:846-52)	50
	発表賞				
2015年 (第1回)	2	後藤 慶大	伊勢崎市民病院	A long-term prognosis adaptive servo ventilation therapy for patients with heart failure regardless of the severity of sleep-disordered breathing. (ESC 2015)	25
	3	濱岡 卓人	金沢大学	Single-unit muscle sympathetic nerve activity(MSNA) is more powerful predictor of sleep apnea syndrome patient's severity than multi-unit MSNA. (International society for Autonomic Neuroscience 2015)	25
	発表賞				
2016年 (第2回)	論文賞				
	4	馬崎 徹	JCHO 神戸中央病院	Impact of Sleep-Disordered Breathing on Long-Term Outcomes in Patients With Acute Coronary Syndrome Who Have Undergone Primary Percutaneous Coronary Intervention. (J Am Heart Assoc. 2016;5:e003270)	50
	発表賞				
2016年 (第2回)	5	梅山 敦	群馬大学	Comparison with SERVE-HF trial about Adaptive Servo Ventilation Therapy for Patients with Heart Failure and Central Sleep Apnea. (ESC Congress 2016)	25
	6	中田 圭	札幌医科大学	Distinct impacts of sleep-disordered breathing on glycemic variability in patients with and without heart failure. (AHA Scientific Sessions 2016)	25
	発表賞				
2017年 (第3回)	論文賞				
	7	今村 輝彦	東京大学	Right Ventricular End-diastolic Pressure is a Key to the Changes in Cardiac Output during Adaptive Servo-ventilation Support in Patients with Heart Failure - Clinical Relevance of Transmural Left Ventricular Filling Pressure. (Int Heart J 2017; 58: 1-8)	50
発表賞					
該当者なし					

美甘レクチャー

1978年9月に第8回世界心臓学会が東京において86カ国8千名の参加者のもとに開催された。同学会会長の故美甘義夫博士(当財団副会長)の功績を顕彰記念し、毎年の日本循環器学会学術集会に外国より第一線の研究者を招待して学術記念講演会を行うこととし、「MIKAMO LECTURE」として現在も伝統あるプログラムとして実施されています。

年度	回数	学術集会	タイトル	演者	演者所属(開催時)
1979年	1	44	Recognition of Cardiac States at High Risk of Ventricular Arrhythmias by Means of Electrocardiographic Waveform	J. A. Abildskov	University of Utah
1980年	2	45	Genetics and Cardiovascular Disease	V. A. McKusick	The Johns Hopkins Hospital
1981年	3	46	Structure and Function of the A-V Junction	James Thomas N.	Univ. Alabama in Birmingham
1982年	4	47	Arrhythmogenic Right Ventricular Dysplasia-A clinical model for the study of chronic ventricular tachycardia in Man	Guy Fontaine	Jean-Rostand Hospital
1983年	5	48	Neurogenic Control of the Circulation: Clinical implications	Francois M. Abboud	Univ. of Iowa
1984年	6	49	Probing the Biochemistry of the Heart with Positron Emission Tomography	Heinrich R. Schelbert	Univ. of California, Los Angeles
1985年	7	50	Tomographic assessment of myocardial perfusion and metabolism in the evaluation of coronary thrombolysis	Burton E. Sobel	Washington Univ.
1986年	8	51	Coronary Care Unit after 25 years: Pathogenesis, treatment and unresolved problems in acute myocardial infarction	Thomas Killip III	Beth Israel Medical Center and Mount Sinai School of Medicine
1987年	9	52	The pathophysiology of myocardial perfusion	Wolfgang Schaper	Max-Planck-Institute
1988年	10	53	The Role of Higher Nervous Activity in Sudden Cardiac Death	Bernard Lown	School of Public Health, Harvard Univ.
1989年	11	54	Microvascular Angina: Pathophysiologic Mechanisms and Clinical Manifestations	Stephen E. Epstein	National Heart, Lung and Blood Institute
1990年	12	55	Neural control of the heart	Matthew N. Levy	Mt. Sinai Medical Center
1991年	13	56	The special role of kidney in the genesis of virtually all types of hypertension	Arthur C. Guyton	Mississippi Univ.
1992年	14	57	The Future of Cardiology	J. Willis Hurst	Emory Univ.
1993年	15	58	Pathophysiology and Treatment of Congestive Heart Failure	William W. Parmley	Univ. of California, San Francisco
1994年	16	59	The surgical treatment of atrial fibrillation	James L. Cox	Washington Univ.
1995年	17	60	The treatment of myocardial ischemia and infarction	Eugene Braunwald	Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School
1996年	18	61	A Glimpse of the 21st Century from Present Day Molecular Biology	Robert Roberts	Baylor College of Medicine
1997年	19	62	Future Horizons and Challenges in Cardiovascular Molecular and Genetic Therapeutics	Victor Dzau	Harvard Medical School
1998年	20	63	Randomized Clinical Trials in Cardiovascular Medicine-Strengths and Limitations	Harold J. C. Swan	Univ. of California, Los Angeles
1999年	21	64	New Developments in Echocardiography: Impact on Coronary Artery Disease	Harvey Feigenbaum	Indiana Univ.
2000年	22	65	Signaling Circuitry in Heart Failure: Lessons from Mice to Men	Richard A. Walsh	Case Western Reserve Univ.

年度	回数	学術集会	タイトル	演者	演者所属(開催時)	座長(開催時所属)
2001年	23	66	Clinical Frontiers in Atherosclerosis Research-Therapeutic Targets for the Treatment of Atherothrombosis in the New Millennium	Valentin Fuster	Mt. Sinai Hospital, USA	矢崎 義雄 (国立国際医療センター)
2002年	24	67	A Radical View of the Superfamily of Cardiovascular Risk Factors	Donald Heistad	University of Iowa, USA	矢崎 義雄 (国立国際医療センター)
2003年	25	68	Reperfusion Therapy: Past, Present and Future	Spencer B. King III	前 Emory 大学	上松瀬勝男 (日本大学)
2004年	26	69	”PCI: From Mechanics to Gene Therapy	Patrick W. Serruys	Thoraxcenter, University Medical Center, Netherlands	山口 徹 (虎の門病院)
2005年	27	70	Treatment of Heart Failure	Bertram Pitt	University of Michigan School of Medicine, USA	篠山 重威 (浜松労災病院)
2006年	28	71	The Molecular Mechanisms of the Acute Coronary Syndromes	Peter Libby	Brigham and Women's Hospital and Harvard Medical School, USA	横山 光宏 (神戸大学)
2007年	29	72	Master Heart Progenitor Cells	Kenneth R. Chien	Harvard Medical School, USA	矢崎 義雄 (国立病院機構)
2008年	30	73	Mechanisms of Cardiac Repair	Piero Anversa	Brigham & Women's Hospital, Harvard Medical School, USA	堀 正二 (大阪府立成人病センター)
2009年	31	74	Protease-Activated Receptors in Hemostasis and Thrombosis and Beyond.	Shaun R. Coughlin	Cardiovascular Research Institute, University of California, San Francisco, USA	矢崎 義雄 (国立病院機構)
2010年	*	75	Cardiopoiesis: Genetic Circuits for Cardiac Muscle Creation by Embryonic Cells	Michael D. Schneider	British Heart Foundation Centre of Research Excellence, National Heart and Lung Institute, Imperial College London, London, UK	篠山 重威 (同志社大学)
2011年	33	76	Aortic Stenosis in the Elderly: Diagnosis and Management	Pravin M. Shah	Hoag Heart and Vascular Institute, Newport Beach, USA	坂本 二哉 (半蔵門病院)
2012年	34	77	Use of Stem Cells for the Treatment of Ischemic Cardiomyopathy	Roberto Bolli	University of Louisville, USA	堀 正二 (大阪府立成人病センター)
2013年	35	78	Molecular Control of Heart Development, Disease and Regeneration	Eric N. Olson	UT Southwestern Medical Center, USA	矢崎 義雄 (国際医療福祉大学)
2014年	36	79	Testing the Inflammation Hypothesis of Atherothrombosis	Paul M. Ridker	Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School, USA	永井 良三 (自治医科大学)
2015年	37	80	Regenerate to be Old	Paul M. Vanhoutte	University of Hong Kong, Hong Kong	矢崎 義雄 (国際医療福祉大学)
2016年	38	81	Genetics of Heart Disease	Christine E. Seidman	Harvard Medical School, USA	堀 正二 (大阪府立成人病センター)
2017年	39	82	Minimalist Lessons from the First TAVI Program in Rouen A Journey from the Initial Case to Sustain Success	Alain Cribier	Department of Cardiology Hospital Charles Nicolle University of Rouen, France	澤 芳樹 (大阪大学)
2018年	40	83	Targeting Angiogenesis to Treat Cancer and Intraocular Disorders	Napoleone Ferrara	Department of Pathology, University of California San Diego, USA	堀 正二 (大阪国際がんセンター)

* 32回は2011.3.11発生の東日本大震災により開催中止

日本循環器病予防セミナー

日本循環器管理研究協議会（現：日本循環器病予防学会）と日本心臓財団が10日間国際教育セミナー（テンデー・セミナー）を参考に企画した、循環器疾患の疫学と予防に関する若手研究者教育セミナー。このセミナー修了者がわが国の循環器予防学の先頭に立ち、循環器疾患の一時予防・二次予防が大きく展開することを期待し、毎年各地で開催されています。

年度 (回数)	世話人 (実行委員長)	所 属 (当時)	会 期	開催地	実 施 施 設	受講者数
1988年 (第1回)	小町 喜男	筑波大学教授	6月3日～9日	秋田県	勤労総合福祉センター八郎潟 ハイツ	51
1989年 (第2回)	戸嶋 裕徳	久留米大学教授	7月24日～28日	大分県	湯布院ハイツ	44
1990年 (第3回)	磯村 孝二	佐久総合病院医長	5月14日～19日	長野県	全国農村保健研修センター	39
1991年 (第4回)	飯村 攻	札幌医科大学教授	5月12日～17日	北海道	洞爺パークホテルサンパレス	39
1992年 (第5回)	児玉 和紀	放射線影響研究所 部長	7月26日～8月1日	広島県	広島厚生年金会館	34
1993年 (第6回)	橋本 勉	和歌山医科大学教授	7月25日～30日	和歌山県	高野山会館	40
1994年 (第7回)	田中 弘允	鹿児島大学教授	7月24日～29日	鹿児島県	霧島国際ホテル	37
1995年 (第8回)	柴田 茂男	女子栄養大学教授	7月24日～29日	東京都	明治生命総合研修所	42
1996年 (第9回)	上田 一雄	九州大学教授	7月15日～20日	福岡県	福岡県厚生年金大濠荘	42
1997年 (第10回)	上島 弘嗣	滋賀医科大学教授	7月28日～8月2日	滋賀県	アクティ・プラザ・琵琶	43
1998年 (第11回)	嶋本 喬	筑波大学教授	7月27日～30日	茨城県	サンレイク土浦	37
1999年 (第12回)	西尾 一郎	和歌山医科大学 教授	7月12日～15日	和歌山県	東急ハーヴェスト	34
2000年 (第13回)	平盛 勝彦	岩手医科大学教授	7月24日～30日	岩手県	ホテル安比グランド	42
2001年 (第14回)*	尾前 照雄	国立循環器病セン ター名誉総長	5月28日・30日	大阪府	大阪国際会議場	
2002年 (第15回)	中川 秀昭	金沢医科大学教授	7月14日～19日	石川県	加賀観光ホテル	47
2003年 (第16回)	和泉 徹	北里大学教授	7月6日～11日	神奈川県	湘南国際村センター	53
2004年 (第17回)	中村 好一	自治医科大学教授	7月2日～7日	栃木県	那須オオシマフォーラム	46
2005年 (第18回)	古賀 義則	久留米大学教授	7月8日～13日	佐賀県	武雄センチュリーホテル	36
2006年 (第19回)**	上田 一雄	村上記念病院院長	10月20日～23日	福岡県	久山町ヘルス C&C センター	44
2007年 (第20回)	岡山 明	結核予防会第一健康 相談所所長	7月26日～30日	東京都	東京都結核予防会	50
2008年 (第21回)	山科 章	東京医科大学教授	7月31日～8月4日	東京都	東京医科大学病院	48
2009年 (第22回)	今井 潤	東北大学教授	8月2日～6日	宮城県	鳴子温泉郷中平温泉 仙庄館	38
2010年 (第23回)	島本 和明	札幌医科大学教授	8月1日～4日	北海道	札幌サンプラザ	35
2011年 (第24回)	上嶋 健治	京都大学教授	6月29日～7月3日	京都府	ホテル アバンシエル京都 (旧 ホリデイ・イン京都)	39
2012年 (第25回)	磯 博康	大阪大学教授	8月1日～5日	大阪府	大阪大学銀杏会館	47

年度 (回数)	世話人 (実行委員長)	所属(当時)	会期	開催地	実施施設	受講者数
2013年 (第26回)	安村 誠司	福島県立医科大学教授	7月31日～8月4日	福島県	ホテル福島グリーンパレス	42
2014年 (第27回)	三浦 克之	滋賀医科大学教授	7月30日～8月3日	滋賀県	ラフォーレ琵琶湖	42
2015年 (第28回)	水嶋 春朔	横浜国立大学教授	7月26日～30日	神奈川県	新横浜国際ホテル	42
2016年 (第29回)	大久保孝義	帝京大学教授	7月26日～30日	岩手県	花巻温泉	40
2017年 (第30回)	岡村 智教	慶應義塾大学教授	8月4日～8日	東京都	ホテルコンチネンタル府中	39
2018年 (第31回)	山崎 力	国際医療福祉大学教授	8月2日～6日	大分県	国際医療福祉大学 湯布院セミナーハウス	40
2019年 (第32回)	笠原 正登	奈良県立医科大学臨床研究センター長	8月2日～6日	奈良県	THE KASHIHARA (ザ 橿原)	39

*第14回は第5回国際循環器病予防会議プログラムとして開催

**第19回は第2回アジア・太平洋循環器予防セミナーとして合同開催

日本循環器学会市民公開講座

1997年の第61回日本循環器学会学術集会（会長：細田 瑤一）のときより、学術集会開催時に心臓病予防啓発を目的とした一般市民向けの公開講座を開催することとなり、日本心臓財団とその年の日本循環器学会学術集会および朝日新聞社の共催（三共株式会社：現第一三共株式会社協賛）で講演会が開催され、現在も継続しています。

*所属は当時。

第61回 (1997年)	会長：細田 瑤一 (東京女子医科大学教授)	テーマ：日本人を心臓病から守る
日付：1997年3月30日（日） 場所：東京国際フォーラム ホールA		
プログラム		
第1部 座長：尾前 照雄（国立循環器病センター名誉総長）		
講演1：運動と心臓病	春見 建一（旧国立療養所中野病院名誉所長）	
講演2：高血圧と心臓病	藤井 潤（朝日生命成人病研究所所長）	
第2部 座長：山田 和生（名鉄病院院長）		
講演3：食事と心臓病	五島雄一郎（東海大学名誉教授）	
講演4：ストレスと心臓病	日野原重明（聖路加看護大学学長）	
第62回 (1998年)	会長：矢崎 義雄 (東京大学教授)	テーマ：高血圧・心臓病'98：予防・治療の最前線
日付：1998年3月28日（土） 場所：東京国際フォーラム ホールA		
プログラム		
第1部 座長：細田 瑤一（東京女子医大名誉教授）		
講演1：心臓病を予防する生活習慣	五島雄一郎（東海大学名誉教授）	
講演2：高血圧から心臓病を守るには	杉本 恒明（関東中央病院院長）	
第2部 座長：新谷 博一（昭和大学名誉教授）		
講演3：不整脈があると言われたら	村山 正博（聖マリアンナ医科大学教授）	
講演4：薬と上手につきあうには	藤井 潤（朝日生命成人病研究所所長）	
第63回 (1999年)	会長：杉下 靖郎 (筑波記念病院名誉院長)	テーマ：健やかに老いるために—循環器からみた成人病—
日付：1999年3月26日（金） 場所：東京国際フォーラム ホールA		
プログラム		
第1部 座長：五島雄一郎（東海大学名誉教授）		
講演1：血管はいかに老いるか	岡田 了三（群馬パース看護短期大学学長）	
講演2：高血圧と血管の老化	荒川規矩男（福岡大学教授）	
第2部 座長：春見 建一（旧国立療養所中野病院名誉所長）		
講演3：冠動脈硬化症をふせぐ	真柴 裕人（呉共済病院院長）	
講演4：冠動脈硬化症をなおす	杉本 恒明（関東中央病院院長）	
第64回 (2000年)	会長：松尾 裕英 (香川医科大学教授)	テーマ：21世紀を健康に生きるために—心臓病・高血圧・高脂血症と健康管理—
日付：2000年3月31日（金） 場所：大阪国際会議場 メインホール		
プログラム		
第1部 座長：荒川規矩男（福岡大学教授）		
講演1：心筋梗塞を防ぐには	山口 洋（順天堂大学教授）	
講演2：高血圧と言われたら	荻原 俊男（大阪大学教授）	
第2部 座長：五島雄一郎（東海大学名誉教授）		
講演3：コレステロールはなぜ悪いのか	松澤 佑次（大阪大学教授）	
講演4：心臓病からあなたを守る	吉川 純一（大阪市立大学教授）	

第 65 回 (2001 年)	会長：篠山 重威 (京都大学教授)	テーマ：生活習慣と循環器病 －高齢化社会における健康管理－
日付：2001 年 3 月 24 日 (土) 場所：国立京都国際会館 大会議場		
プログラム		
第 1 部 座長：泰江 弘文 (熊本加齢医学研究所所長)		
講演 1：生活習慣病と心臓病	中川 雅夫 (京都府立医科大学教授)	
講演 2：心臓病と運動	齋藤 宗靖 (自治医科大学大宮医療センター教授)	
第 2 部 座長：猿田 享男 (慶應義塾大学教授)		
講演 3：高血圧と生活習慣	藤田 敏郎 (東京大学教授)	
講演 4：高齢社会と虚血性心臓病	土居 義典 (高知医科大学教授)	
第 66 回 (2002 年)	会長：北畠 顕 (北海道大学教授)	テーマ：高齢社会の生活習慣病を考える －健やかに老いるために－
日付：2002 年 4 月 27 日 (土) 場所：北海道厚生年金会館		
プログラム		
第 1 部 座長：山本 章 (国立循環器病センター研究所名誉所員)		
講演 1：あなたのコレステロールは大丈夫？	佐久間一郎 (北海道大学講師)	
講演 2：高血圧から心臓を守るには	島本 和明 (札幌医科大学教授)	
第 2 部 座長：小林 正 (富山医科薬科大学副学長・病院長)		
講演 3：糖尿病を防ぐ上手な生活習慣	岡 芳知 (東北大学教授)	
講演 4：高齢化社会の心臓病	堀 正二 (大阪大学教授)	
第 67 回 (2003 年)	会長：竹下 彰 (九州大学教授)	テーマ：老いを、いかに健やかに生きるか
日付：2003 年 3 月 23 日 (日) 場所：アクロス福岡 福岡シンフォニーホール		
プログラム		
第 1 部 座長：竹下 彰 (九州大学教授)		
講演 1：高齢者の高血圧	尾前 照雄 (国立循環器病センター名誉総長)	
講演 2：老いに輝く新老人の生き方	日野原重明 (聖路加国際病院理事長)	
座談会		
司会：竹下 彰		
座談者：尾前 照雄、日野原重明		
第 68 回 (2004 年)	会長：上松瀬勝男 (日本大学教授)	テーマ：心臓病からあなたを守る生活習慣
日付：2004 年 3 月 26 日 (金) 場所：東京国際フォーラム ホール A		
プログラム		
座長：杉本 恒明 (関東中央病院名誉院長)、河合 忠一 (京都大学名誉教授)		
講演 1：一般人のための心臓病の理解－間違った知識の整理－	日野原重明 (聖路加国際病院理事長)	
講演 2：心臓病と良い生活習慣	細田 瑛一 (日本心臓血管研究振興会附属榊原記念病院院長)	
第 69 回 (2005 年)	会長：山口 徹 (虎の門病院長)	テーマ：女性における心疾患
日付：2005 年 3 月 15 日 (火) 場所：パシフィコ横浜 国立大ホール		
プログラム		
ドラマ上映：女性によく診られる心臓病と医師の対話 案内：天野 恵子 (千葉県衛生研究所所長)		
講演 1：若年者における胸痛	河野 宏明 (熊本大学講師)	
講演 2：女性の虚血性心疾患の特徴－中高年における胸痛－	清野 精彦 (日本医科大学助教授)	
講演 3：高齢者における胸痛	大内 刷義 (東京大学教授)	
パネルディスカッション		
司会：天野 恵子		
パネリスト：河野 宏明、清野 精彦、大内 刷義、樋口 恵子 (高齢社会をよくする女性の会代表)		

日本循環器学会市民公開講座

第70回 (2006年)	会長：藤原 久義 (岐阜大学教授)	テーマ：心と食生活の重要性 ～生活習慣病予防を目指して～
日付：2006年3月26日(日) 場所：名古屋国際会議場 センチュリーホール		
プログラム		
司会：竹越 襄(金沢医科大学副理事長)、山田 和生(名古屋大学名誉教授)		
講演1：世界調査でわかった健康寿命を伸ばす食べ方上手		家森 幸男(京都大学名誉教授)
講演2：輝いた生き方		日野原重明(聖路加国際病院理事長)
第71回 (2007年)	会長：横山 光宏 (神戸大学教授)	テーマ：生活習慣病と心血管病 ～いかにして心臓発作と脳卒中を予防するか～
日付：2007年3月18日(日) 場所：神戸国際会館 こくさいホール		
プログラム		
座長：石川 雄一(神戸大学教授)、岩崎 忠昭(兵庫医科大学篠山病院院長)		
講演1：世界調査でわかった心血管病を予防する食のパワー		家森 幸男(武庫川女子大学国際健康開発研究所所長)
講演2：メタボリックシンドローム～内臓脂肪を減らして心血管病を予防する～		松澤 祐次(住友病院院長)
第72回 (2008年)	会長：松崎 益徳 (山口大学教授)	テーマ：健康寿命を延ばすために！ ～生活習慣病に打ち勝つ～
日付：2008年3月30日(日) 場所：アクロス福岡 地下2階イベントホール		
プログラム		
座長・北 徹(京都大学教授)、松本 昌泰(広島大学教授)、佐々木 淳(国際医療福祉大学教授)		
会長講演：心筋梗塞・狭心症を予防する		松崎 益徳(山口大学教授)
講演1：脳卒中を起こさないために		小林 祥泰(島根大学教授)
講演2：高血圧から身体を守る		荒川規矩男(福岡大学名誉教授)
パネルディスカッション		
生活習慣病を克服しよう！		
司会：松崎 益徳		
コメンテーター：橋本 志穂(タレント) パネリスト：荒川規矩男、北 徹、小林 祥泰		
第73回 (2009年)	会長：堀 正二 (大阪府立成人病センター総長)	テーマ：生活習慣から見た心血管病の予防 ～心血管病のリスクを克服するために～
日付：2009年3月22日(日) 場所：堂島リバーフォーラム(大阪)		
プログラム		
開会挨拶：生活習慣と心血管病 堀 正二		
講演1：生活習慣病と高血圧		藤田 敏郎(東京大学教授)
講演2：生活習慣と糖尿病		河盛 隆造(順天堂大学、スポーツロジックセンター長)
ミニレクチャー1		
生活習慣と運動		湯浅 景元(中京大学教授)
ミニレクチャー2		
生活習慣と食		加福 文子(辻学園栄養専門学校教授)
パネルディスカッション		
心血管病の予防と生活習慣		
モデレーター：堀 正二		
パネリスト：藤田 敏郎、河盛 隆造、湯浅 景元、加福 文子		

第74回 (2010年)	会長：北 徹 (神戸市立医療センター中央市民病院院長)	テーマ：自分でできる心筋梗塞、脳梗塞の予防！ ～専門家に聞く生活習慣病対策の秘訣～
日付：2010年3月7日(日) 場所：KBSホール(京都)		
プログラム		
講演1：生活習慣の改善による心筋梗塞と脳梗塞の予防	上島 弘嗣(滋賀医科大学生活習慣病予防センター特任教授)	
講演2：メタボの本質を知って効率のよい対策を	松澤 祐次(大阪大学名誉教授)	
講演3：高血圧から身を守ろう	島本 和明(札幌医科大学学長・理事長)	
講演4：脳梗塞は怖くない！?	松本 昌泰(広島大学教授)	
パネルディスカッション		
自分でできる心筋梗塞、脳梗塞の予防コーディネーター：北 徹 パネリスト：尾池 和夫(第24代京都大学総長)、上島 弘嗣、松澤 祐次、島本 和明、松本 昌泰		
第75回 (2011年)	会長：小川 聡 (国際医療福祉大学三田病院院長)	テーマ：あなたの心臓は大丈夫ですか？ ～突然死を防ぐために～
日付：2011年3月20日(日) 紙上講座		
プログラム		
講演1：今日から始めたい日常生活での心臓病予防	筒井 裕之(北海道大学教授)	
講演2：不整脈が引き起こすトラブル ～動悸・めまい・突然死～	三田村秀雄 (東京都済生会中央病院 心臓病臨床研究センター長)	
講演3：心房細動は脳梗塞の危険因子 ～抗凝固剤による予防の重要性～	是恒 之宏(大阪医療センター臨床研究センター長)	
講演4：不整脈の最新治療 ～カテーテルアブレーションと植込み型除細動器(ICD)～	奥村 謙(弘前大学教授)	
第76回 (2012年)	会長：鄭 忠和 (鹿児島大学教授)	テーマ：病からの再生
日付：2012年3月20日(火・祝) 場所：鹿児島市民文化ホール		
プログラム		
座長：鄭 忠和		
講演：生活習慣病から心臓を守る	松崎 益徳(山口大学教授)	
コンサート：ペー・チェチョル(テノール歌手) トークショー：鄭 忠和、ペー・チェチョル		
第77回 (2013年)	会長：水野 杏一 (日本医科大学教授)	テーマ：知って得する生活習慣病対策のコツ
日付：2013年3月17日(日) 場所：パシフィコ横浜 会議センター1階 メインホール		
プログラム		
座長：齋藤 康(千葉大学学長)、中村 治雄(三越厚生事業団顧問)		
講演1：心臓を長持ちさせるための食事とは？	中村 治雄(三越厚生事業団顧問)	
講演2：隠れ肥満の恐怖？	下村伊一郎(大阪大学教授)	
講演3：塩は高血圧の敵？	藤田 敏郎(東京大学名誉教授)	
講演4：甘いもの嫌いな私がなぜ糖尿病？	河盛 隆造(順天堂大学スポーツロジセンター長)	
講演5：血液がどろどろってどう言う事？	寺本 民生(帝京大学医学部長)	
プログラム		
知って得する生活習慣病対策のコツ 座長：齋藤 康、水野 杏一(日本医科大学) パネリスト：中村 治雄、下村伊一郎、藤田 敏郎、河盛 隆造、寺本 民生		

日本循環器学会市民公開講座

第78回 (2014年)	会長：永井 良三 (自治医科大学学長)	テーマ：心臓病とともに生きる
日付：2014年3月23日(日) 場所：東京国際フォーラム ホールC		
プログラム		
司 会：平田 恭信 (東京通信病院院長)		
講演1：狭心症・心筋梗塞と上手につき合うには	山岸 正和 (金沢大学教授)	
講演2：心不全と上手につき合うには	筒井 裕之 (北海道大学教授)	
講演3：生活習慣病と上手につき合うには	久代登志男 (日本大学教授)	
対談		
いつもチャレンジ精神で ～いきいきと毎日を過ごすために～	永井 良三 (自治医科大学学長) 草野 仁 (TVキャスター)	
パネルディスカッション		
心臓病とともに生きる 司 会：永井 良三、平田 恭信 パネリスト：全出演者		

第79回 (2015年)	会長：小川 久雄 (国立循環器病研究センター副院長)	テーマ：知って得する心臓病の知識
日付：2015年4月26日(日) 場所：フェスティバルホール (大阪)		
プログラム		
座 長：小川 久雄		
講演1：日本人の心臓病は今どうなっているか	安田 聡 (国立循環器病研究センター部門長)	
講演2：加齢と心臓病	泰江 弘文 (熊本加齢医学研究所所長)	
講演3：心不全とはどんな病気か	坂田 泰史 (大阪大学教授)	
講演4：心臓病の内科治療	掃本 誠治 (熊本大学准教授)	
講演5：心臓病の外科治療	藤田 知之 (国立循環器病センター部長)	
講演6：笑って楽しく生きていく	角 淳一 (元毎日放送アナウンサー)	
パネルディスカッション 疑問解消～あらかじめいただいた質問にやさしくお答えします～		
司 会：小川 久雄 パネリスト：安田 聡、泰江 弘文、坂田 泰史、掃本 誠治、藤田 知之、角 淳一		

第80回 (2016年)	会長：下川 宏明 (東北大学教授)	テーマ：健康寿命のための心臓病の知識
日付：2016年3月5日(土) 場所：仙台国際センター 大ホール		
プログラム		
第1部 座長：伊藤 宏 (秋田大学教授)、第2部 座長：下川 宏明 (東北大学教授)		
講演1：虚血性心臓病を知ろう	竹石 恭知 (福島県立医科大学教授)	
講演2：心不全を知ろう	久保田 功 (山形大学教授)	
講演3：不整脈を知ろう	福田 浩二 (東北大学講師)	
特別講演：凛として老いる	帯津 良一 (帯津三敬病院名誉院長)	
パネルディスカッション (質問コーナー)		
司 会：下川 宏明、伊藤 宏 パネリスト：久保田 功、福田 浩二、帯津 良一		

第 81 回 (2017 年)	会長：山岸 正和 (金沢大学教授)	テーマ：～笑って健康！頭と心～ 認知症と心臓病
日付：2017 年 3 月 20 日（月・祝） 場所：石川県立音楽堂		
プログラム		
座 長：冨田 浩（福井大学教授）、絹川弘一郎（富山大学教授）		
講演 1：脳卒中の知識と予防のコツ	山本 信孝（金沢脳神経外科病院副院長）	
講演 2：不整脈ってなんでなの？	林 研至（金沢大学助教）	
講演 3：認知症をちゃんと理解していますか？	山田 正仁（金沢大学教授）	
特別講演：笑い与健康の科学	三遊亭白鳥（落語家）	
パネルディスカッション（質問コーナー）		
司 会：山岸 正和、冨田 浩 パネリスト：山本 信孝、林 研至、山田 正仁、絹川弘一郎、三遊亭白鳥		
第 82 回 (2018 年)	会長：澤 芳樹 (大阪大学教授)	テーマ：楽しく学んで健康長寿！ ～よくわかる脳と心臓のお話～
日付：2018 年 3 月 4 日（日） 場所：大阪市中央公会堂		
プログラム		
司 会：堤 信子（アナウンサー）		
講演 1：その症状、もしかして脳卒中？どうする？	坂口 学（大阪急性期・総合医療センター主任部長）	
講演 2：ここまで進化した医療の最先端 ～再生医療がもたらしたもの～	宮川 繁（大阪大学特任教授）	
講演 3：心臓を長持ちさせる秘訣ってなに？	坂田 泰史（大阪大学教授）	
特別講演：落語的学問のすすめ	桂 文珍（落語家）	
パネルディスカッション（質問コーナー）		
司 会：堤 信子、澤 芳樹 パネリスト：坂口 学、宮川 繁、坂田 泰史、桂 文珍		
第 83 回 (2019 年)	会長：小室 一成 (東京大学教授)	テーマ：心臓病・血管病を予防して健康長寿
日付：2019 年 3 月 24 日（日） 場所：はまぎんホール ヴィアマレー（横浜）		
プログラム		
座 長：小室 一成（東京大学教授）、斎藤 能彦（奈良県立医科大学教授）		
講演 1：不整脈（心房細動）って、どんな病気？	清水 渉（日本医科大学教授）	
講演 2：心不全を知って、うまく付き合う	筒井 裕之（九州大学教授）	
講演 3：誰も教えてくれなかった心筋梗塞の新常識	伊苺 裕二（東海大学教授）	
特別講演：福祉・想いのままに～健康と幸せ～	杉 良太郎（歌手・俳優）	
パネルディスカッション（質問コーナー）		
司 会：小室 一成、斎藤 能彦 パネリスト：清水 渉、筒井 裕之、伊苺 裕二、杉 良太郎		

出版・刊行物 (所属は発行当時)

【書籍】

タイトル	著者・編者	概要	発行年月日
たばこをやめたいのです	アメリカ保健教育福祉省編		1980年4月7日
大統領からくじらまで	P.D. ホワイト (国際心臓連盟名誉会長) 監訳:早瀬 正二 (日本心臓財団常務理事)	A5判/210頁	1980年12月1日
昭和55年循環器疾患基礎調査報告	厚生省公衆衛生局編	B5判/204頁	1983年2月1日
脳卒中・心臓病制圧への道	早瀬 正二 (日本心臓財団常務理事) 澤井 廣量 (日循協事務局長) 大高 道也 (前茨城県保健予防課長)	B5判/80頁	1983年2月1日
わたしの心臓手帳	日本心臓財団「わたしの心臓手帳」編集委員会編	B6判	1983年7月1日
高血圧の予防は若いうちから	日本心臓財団編集委員会		1983年8月10日
川崎病文献目録集	川崎病原因究明委員会	B5判/182頁	1983年8月1日
川崎病一疫学データのすべて—	川崎病原因究明委員会	B5判/320頁	1986年1月10日

【月刊誌「心臓」】(1969年1月創刊)

編集	発行	販売	巻・号 (年)
心臓編集委員会	医事通信社	医事通信社	Vol.1, No.1-Vol.7, No.14 (1969年-1975年)
心臓編集委員会	メディカル出版	メディカル出版	Vol.8, No.1-Vol.15, No.12 (1976年-1983年)
日本心臓財団「心臓」編集委員会	丸善	丸善	Vol.16, No.1-Vol.36, No.12 (1984年-2004年)
「心臓」編集委員会	日本心臓財団	制作:協和企画 販売:丸善	Vol.37, No.1-Vol.43, No.12 (2005年-2011年)
「心臓」編集委員会	日本心臓財団	制作:協和企画 販売:西村書店	Vol.44, No.1-Vol.44, No.3 (2012年)
「心臓」編集委員会	日本心臓財団・日本循環器学会	制作:協和企画 販売:西村書店	Vol.44, No.4-Vol.46, No.3 (2012年-2014年)
「心臓」編集委員会	日本心臓財団・日本循環器学会	制作:日本医学出版 販売:西村書店	Vol.46, No.4-Vol.47, No.12 (2014年-2015年)
「心臓」編集委員会	日本心臓財団・日本循環器学会	制作・販売:日本医学出版	Vol.48, No.1- (2016年-)



【心臓財団叢書】 発行：日本心臓財団

タイトル	著者・编者	概要	発行年月日
なが生き—第1集— 「すこやかに生きるために」 「長寿と心臓」	P.D. ホワイト（国際心臓連盟名誉会長） 美甘 義夫（日本心臓財団副会長）	A5判/36頁	1971年11月15日
なが生き—第2集— 「脳卒中と高血圧」 「動脈硬化症—その予防について」	相澤 豊三（慶應義塾大学名誉教授） 村上 元孝（金沢大学教授）	A5判/42頁	1972年3月15日
なが生き—第3集— 「心臓の話」 「悠々たる人生のために」	榊原 仟（東京女子医科大学教授） 笹本 浩（慶應義塾大学教授）	A5判/40頁	1973年8月15日
なが生き—第4集— 「心臓病は予防できる」 「高血圧について」	塩川 優一（順天堂大学教授） 池田 正男（東京大学助教授）	A5判/48頁	1974年11月1日
なが生き—第5集— 「ふえていく日本人の心臓病」 「農村生活と健康」	日野原重明（聖路加看護大学学長） 若月 俊一（佐久総合病院院長）	A5判/53頁	1977年1月31日

【なが生き叢書】 企画・監修：日本心臓財団 編集・発行：保健同人社 協力：株式会社タケダメディカル

タイトル	著者	概要	発行年月日
なが生き—No. 1— 「働き盛りの心臓病」 「ウェルネスのすすめ」	横山 正義（東京女子医科大学教授） リネット・リース（ウェルネスジャパン）	B6判/32頁	1985年5月1日
なが生き—No. 2— 「誰の血圧でも変動する」 「スポーツと心臓」	日野原重明（聖路加看護大学学長） 北村 和夫（順天堂大学名誉教授）	B6判/32頁	1985年8月1日
なが生き—No. 3— 「動脈硬化にかからない」 「食物繊維と健康」	中村 治雄（防衛医科大学校教授） 辻 啓介（国立栄養研究所室長）	B6判/32頁	1985年11月1日
なが生き—No. 4— 「心筋梗塞の予防」 「食と心」	上田 英雄（日本心臓財団副会長） 秋山 房雄（元東京大学教授）	B6判/32頁	1986年2月1日
なが生き—No. 5— 「成人病にならないための食事」 「歩いていきいき健康」	五島雄一郎（東海大学病院院長） 丸茂 義人（日本歩け歩け協会副会長）	B6判/32頁	1986年5月1日

【健康ハート叢書】 企画・監修：日本心臓財団、編集・発行：保健同人社

タイトル	監修	概要	発行年月日
心臓病を予防する	曲直部壽夫（国立循環器病センター総長）	B6判/20頁	1985年8月10日
脳卒中を予防する	尾前 照雄（国立循環器病センター病院長）	B6判/20頁	1985年8月10日
高血圧を予防する	池田 正男（自治医科大学教授）	B6判/20頁	1985年8月10日
動脈硬化を予防する	五島雄一郎（東海大学病院長）	B6判/20頁	1985年8月10日
子供の心臓病	草川 三治（東京女子医科大学教授）	B6判/20頁	1985年8月10日

【健康ハート叢書】 発行：日本心臓財団、トーアエイヨー株式会社、制作：日経ラジオ社

*本書は当財団ホームページにて閲覧できます。

タイトル	監修	概要	発行年月
No.1 虚血性心疾患は生活習慣病	杉本 恒明（関東中央病院院長）	B6判/8頁	1998年1月
No.2 誰でも毎日1万歩	村山 正博（聖マリアンナ医科大学教授）	B6判/8頁	1998年12月
No.3 内臓肥満と塩分の低減	朽久保 修（横浜市立大学教授）	B6判/8頁	1999年10月
No.4 あなどれない不整脈	春見 建一（日本心臓財団副会長）	B6判/8頁	2000年8月
No.5 危険因子が重なると	五島雄一郎（東海大学名誉教授）	B6判/8頁	2001年11月
No.6 人が急に倒れた時	岡田 和夫（帝京大学名誉教授）	B6判/8頁	2002年9月
No.7 ストレスと心臓病	笠貫 宏（東京女子医科大学教授）	B6判/8頁	2003年12月
No.8 糖尿病は心筋梗塞の危険因子	山田 信博（筑波大学教授）	B6判/8頁	2004年12月
No.9 メタボリックシンドロームと心臓病	代田 浩之（順天堂大学教授）	B6判/8頁	2006年3月
No.10 人が急に倒れた時	岡田 和夫（日本蘇生協議会会長）	B6判/8頁	2006年11月
No.11 心房細動に気をつけよう	池田 隆徳（杏林大学准教授）	B6判/8頁	2008年3月
No.12 メタボリックシンドロームを予防する	寺本 民生（帝京大学教授）	B6判/8頁	2009年3月
No.13 心臓と腎臓の危険な関係	伊藤 正明（三重大大学教授）	B6判/8頁	2010年3月
No.14 睡眠時無呼吸と心臓病	百村 伸一（自治医科大学教授）	B6判/8頁	2011年3月
No.15 心不全患者さんが気をつけたいこと	山本 一博（鳥取大学教授）	B6判/8頁	2012年2月
No.16 胸骨圧迫とAEDを学ぼう	石見 拓（京都大学講師）	B6判/8頁	2013年3月
No.17 心拍数と心臓病	山科 章（東京医科大学教授）	B6判/8頁	2015年3月
No.18 心房細動ってなに？	清水 渉（日本医科大学教授）	B6判/8頁	2016年3月
No.19 血管年齢を意識する	南野 徹（新潟大学教授）	B6判/8頁	2017年3月
No.20 慢性腎臓病（CKD）と心臓血管病	常喜 信彦（東邦大学准教授）	B6判/8頁	2018年3月
No.21 高齢の患者さんの薬物治療	秋下 雅弘（東京大学教授）	A5判/8頁	2019年3月
No.22 動脈硬化を予防しましょう	小林 欣夫（千葉大学教授）	A5判/8頁	2020年2月

（継続中）



【日本心臓財団ハートニュース】 病院掲示用壁新聞 [B2判・B3判]・患者さん配布用 [A4判ペラ]

*本紙は当財団ホームページにて閲覧できます。

タイトル	監修	発行年月
No.1～7 発行：日本心臓財団、日本循環器学会 協賛：第一製薬株式会社、トーアエイヨー株式会社		
No.1 高血圧 (1)	春見 建一 (国立療養所中野病院名誉所長)	1996年10月
No.2 心臓病 (1)	山田 和生 (名鉄病院院長)	1996年11月
No.3 高脂血症 (1)	五島雄一郎 (東海大学名誉教授)	1996年12月
No.4 高血圧 (2)	尾前 照雄 (国立循環器病センター名誉総長)	1997年1月
No.5 心臓病 (2)	杉本 恒明 (関東中央病院院長)	1997年2月
No.6 高脂血症 (2)	五島雄一郎 (東海大学名誉教授)	1997年3月
No.7 不整脈	河合 忠一 (京都大学名誉教授)	1997年5月
No.8～65 企画：日本循環器学会教育研修委員会、発行：日本心臓財団 協賛：サノフィ・サンテラボ株式会社、第一製薬株式会社、大日本住友製薬株式会社、中外製薬株式会社、トーアエイヨー株式会社		
No.8 肥満と循環器病	松澤 佑次 (大阪大学教授)	1997年7月
No.9 生活習慣病としての循環器病	北畠 顕 (北海道大学教授)	1997年9月
No.10 脳卒中	島田 和明 (自治医科大学教授)	1997年11月
No.11 循環器疾患と糖尿病	山田 信博 (東京大学助教授)	1998年1月
No.12 食生活の注意	松崎 益徳 (山口大学教授)	1998年3月
No.13 知っておきたい薬の話	横山 光宏 (神戸大学教授)	1998年5月
No.14 循環器疾患予防のための運動	村山 正博 (聖マリアンナ医科大学教授)	1998年7月
No.15 ストレスと循環器病	堀 正二 (大阪大学教授)	1998年9月
No.16 喫煙と循環器病 (禁煙のすすめ)	泰江 弘文 (熊本大学教授)	1998年11月
No.17 健康な老いを考える (加齢と循環器病)	大内 尉義 (東京大学教授)	1999年1月
No.18 高血圧と心臓病	竹下 彰 (九州大学教授)	1999年3月
No.19 心不全への挑戦	篠山 重威 (京都大学教授)	1999年5月
No.20 不整脈 (ペースメーカー)	大江 透 (岡山大学教授)	1999年7月
No.21 突然死とは	小川 聡 (慶應義塾大学教授)	1999年9月
No.22 循環器疾患と救急医療	上松瀬勝男 (日本大学教授)	1999年11月
No.23 心臓病と外科治療	松田 暉 (大阪大学教授)	2000年1月
No.24 循環器疾患の検査法	友池 仁暢 (山形大学教授)	2000年3月
No.25 循環器検診—生活習慣病の早期発見	今泉 勉 (久留米大学教授)	2000年5月
No.26 期待される21世紀の心血管病対策	矢崎 義雄 (国立国際医療センター総長)	2000年7月
No.27 循環器疾患のリハビリテーション	上嶋 健治 (岩手医科大学助教授)	2000年9月
No.28 狭心症と心筋梗塞	永井 良三 (東京大学教授)	2000年11月
No.29 虚血性心疾患の早期発見のポイント	竹越 襄 (金沢医科大学学長)	2001年1月
No.30 症状のない虚血性心疾患は少なくない	三浦 傳 (秋田大学教授)	2001年3月
No.31 虚血性心疾患の予防法	石川 欽司 (近畿大学教授)	2001年5月
No.32 急性心筋梗塞治療の最前線	山口 徹 (東邦大学教授)	2001年7月
No.33 狭心症：治療のための基礎知識	木之下正彦 (滋賀医科大学助教授)	2001年9月
No.34 こんな症状があったら—心不全の初発症状	北畠 顕 (北海道大学教授)	2001年11月

タイトル	監修	発行年月
No.35 かぜ症状で発症する急性心筋炎、心膜炎	和泉 徹（北里大学教授）	2002年1月
No.36 慢性心不全治療の現況	堀 正二（大阪大学教授）	2002年3月
No.37 心不全の予後	松崎 益徳（山口大学教授）	2002年5月
No.38 心不全予防のためのライフスタイル—運動の効果	齋藤 宗靖（自治医科大学教授）	2002年7月
No.39 慢性心不全の生活管理—食事と入浴	片桐 敬（昭和大学教授）	2002年9月
No.40 不整脈の診断・治療には心電図が不可欠	小沢友紀雄（日本大学教授）	2002年11月
No.41 不整脈のアブレーション治療	井上 博（富山医科薬科大学教授）	2003年1月
No.42 心房細動と脳塞栓	外山 淳治（愛知県立尾張病院院長）	2003年3月
No.43 緊急時の心肺蘇生と除細動	三田村秀雄（慶應義塾大学教授）	2003年5月
No.44 僧帽弁狭窄症と閉鎖不全症	宮武 邦夫（国立循環器病センター副院長）	2003年7月
No.45 大動脈弁狭窄症と閉鎖不全症	川副 浩平（岩手医科大学教授）	2003年9月
No.46 弁膜症治療の最前線	高本 真一（東京大学教授）	2003年11月
No.47 感染性心内膜炎の予防	中村 憲司（東京女子医科大学助教授）	2004年1月
No.48 血圧とレニン・アンジオテンシン系	藤田 敏郎（東京大学教授）	2004年3月
No.49 高血圧と心不全	菊池健次郎（旭川医科大学教授）	2004年7月
No.50 高血圧と脳卒中	島田 和幸（自治医科大学教授）	2005年1月
No.51 「仮面高血圧」とは？	桑島 巖（東京都老人医療センター部長）	2005年5月
No.52 不整脈と日常生活の注意	鎌倉 史郎（国立循環器病センター部長）	2005年7月
No.53 心臓突然死を防ぐために	栗田 隆志（国立循環器病センター医長）	2005年9月
No.54 血圧コントロールできていますか	今井 潤（東北大学教授）	2006年3月
No.55 あなたにも使える AED	三田村秀雄（済生会中央病院副院長）	2006年5月
No.56 心臓病を防ぐ食生活とは	筒井 裕之（北海道大学教授）	2006年11月
No.57 高血圧と糖尿病を合併すると…	島本 和明（札幌医科大学教授）	2007年3月
No.58 不整脈 Q&A ～こんな症状があったら不整脈	奥村 謙（弘前大学教授）	2007年5月
No.59 狭心症を防ぐために～心臓にやさしい生活のすすめ	野々木 宏（国立循環器病センター部長）	2007年9月
No.60 心房細動ってどんな不整脈？～自律神経活動に注目して	池田 隆徳（杏林大学准教授）	2007年11月
No.61 再び注目されている冠攣縮性狭心症ってどんな病気？	末田 章三（済生会西条病院副院長）	2008年3月
No.62 慢性腎臓病（CKD）と血圧管理～心血管疾患予防のために	伊藤 貞嘉（東北大学教授）	2008年5月
No.63 減塩のすすめ -塩とアルドステロン	藤田 敏郎（東京大学教授）	2008年7月
No.64 増えている高齢者の心不全～拡張不全とは	高橋 利之（JR 東京総合病院部長）	2008年9月
No.65 心臓の働きを調べる検査	今泉 勉（久留米大学教授）	2009年3月

タイトル	監修	発行年月
No.66 ~ 企画・発行：日本心臓財団 協賛：トーアエイヨー株式会社		
No.66 不整脈の非薬物治療～カテーテルアブレーションとは？	内藤 滋人（群馬県立心臓血管センター部長）	2011年3月
No.67 血管の老化と動脈硬化の関係	南野 徹（新潟大学教授）	2013年3月
No.68 高血圧の治療と日常生活の注意	甲斐 久史（久留米大学准教授）	2014年3月
No.69 家庭血圧測定と早朝高血圧	苅尾 七臣（自治医科大学教授）	2015年3月
No.70 慢性腎臓病（CKD）と心血管疾患	深水 圭（久留米大学教授）	2018年3月
No.71 心房細動ってどんな不整脈？	池田 隆徳（東邦大学教授）	2019年3月
No.72 心臓蘇生とAED	齋藤 博則（岡山赤十字病院副部長）	2019年8月

（継続中）

【機関紙（心臓財団ニュース・健康ハート・季報）】

当財団発足時に創刊された機関誌「心臓財団ニュース」は、財団のあゆみとその時の心臓病・脳卒中をめぐる内外のニュースを適宜伝えてきました。1970～1976年までは年1～2回タブロイド版4ページにて発行、1977～1981年には年4回を基本にB5判8ページ、1982～1985年にはA4判4ページに紙面を変更し、年8～10回発行されました。

1983年からは名称を「健康ハート」とし、1986～1992年にはB5判4ページで毎月発行。
1993年からは名称を「季報」と改め、A4判4～16ページにて年4回（季刊）発行しています。



役員在任期間一覧

在任期間は、理事は設立登記時より、旧評議員は第4回理事会にて設置された時より。2012年より新公益法人制度のもと新評議員会設立。所属は就任時のもの。就退任日は原則として理事会・評議員会議事による。

○は現職（2020年6月末現在）

名誉総裁

○	高円宮久子妃殿下	2018/3/1 ~
---	----------	------------

代表理事

○	矢崎 義雄	国立病院機構理事長	2012/4/1 ~
○	西川 章	三菱マテリアル株式会社名誉顧問	2012/4/1 ~

理事長

	草野 義一	日本軽金属取締役	1970/5/15 ~ 1976/3/9
	湯浅 恭三	湯浅法律特許事務所所長	1976/3/9 ~ 1996/1/31
	志立 託爾	三菱信託銀行相談役	1996/2/1 ~ 2011/5/31
○	矢崎 義雄	国立病院機構理事長	2011/6/1 ~

会長（2012年3月まで）

	佐藤喜一郎	経済団体連合会評議員会議長	1970/5/15 ~ 1974/5/24
	土光 敏夫	経済団体連合会会長	1974/7/23 ~ 1980/7/22（名誉会長就任）
	岩佐 凱實	経済団体連合会評議員会議長	1980/7/23 ~ 1996/6/11
	平岩 外四	東京電力株式会社相談役	1996/6/12 ~ 2007/5/22
	志立 託爾	三菱UFJ信託銀行株式会社名誉顧問	2007/6/4 ~ 2011/5/31
	矢崎 義雄	国立病院機構理事長	2011/6/1 ~ 2012/3/31

副会長（2011年5月まで）

	美甘 義夫	関東中央病院院長	1970/5/15 ~ 1983/4/4
	湯浅 恭三	湯浅法律特許事務所所長	1970/5/15 ~ 1976/3/9
	上田 英雄	元東京大学教授	1984/6/19 ~ 1987/6/11
	山本 正淑	厚生団理事長	1985/3/19 ~ 1987/6/11
	伊藤 良雄	三業病院名誉院長	1987/6/12 ~ 1990/6/11
	翁 久次郎	厚生年金事業振興団理事長	1987/7/3 ~ 1996/9/2
	曲直部壽夫	国立循環器病センター名誉総長	1990/6/12 ~ 1993/6/11
	山田 和生	名鉄病院院長	1993/6/12 ~ 1999/5/31
	春見 建一	国立療養所中野病院名誉所長	1999/6/1 ~ 2002/5/13
	杉本 恒明	関東中央病院名誉院長	2002/5/24 ~ 2009/5/31
	矢崎 義雄	国立病院機構理事長	2009/6/1 ~ 2011/5/31

名誉会長（1980年～1993年）

	土光 敏夫	経済団体連合会名誉会長	1980/7/22 ~ 1988/8/4
	武見 太郎	日本医師会会長	1983/5/17 ~ 1983/12/20
	稲山 嘉寛	経済団体連合会名誉会長	1987/6/12 ~ 1987/10/9
	上田 英雄	元東京大学教授	1987/6/12 ~ 1993/10/19

常任理事（1999年5月まで常務理事）

池田 正男	東京大学助教授	1970/5/15 ~ 1983/5/17
山本 正淑	医療金融公庫総裁	1970/5/15 ~ 1985/3/19（副会長～1987/6/11）
吉岡 義二	東京銀行協会客員	1970/5/15 ~ 1984/6/19（顧問就任）
早瀬 正二	岐阜大学教授	1977/5/30 ~ 1987/6/11（顧問就任）
村上 元孝	東京都養育院附属病院院長	1981/6/12 ~ 1987/6/11（顧問就任）
小林太刀夫	東京大学名誉教授	1983/5/17 ~ 1987/6/11（顧問就任）
曲直部 壽夫	国立循環器病センター病院長	1983/5/17 ~ 1990/6/11（副会長～1993/6/11 顧問就任）
大和久泰太郎	元日本 YMCA 同盟総主事	事務総長 1984/9/1、常務理事 1984/11/30 ~ 1994/3/31
花村仁八郎	経済団体連合会副会長	1987/6/12 ~ 1997/1/4
山田 和生	日本循環器学会理事長	1987/6/12 ~ 1993/6/11（副会長～1999/5/31 顧問就任）
河合 忠一	国際心臓連合会長	1987/6/12 ~ 1999/5/31（顧問就任）
椎名 武雄	日本アイ・ピー・エム社長	1990/6/12 ~ 2009/5/31（理事～2010/3/31）
五島雄一郎	東海大学病院名誉院長	1990/6/12 ~ 1997/6/11（評議員副会長～2003/5/28）
尾前 照雄	国立循環器病センター総長	1993/6/12 ~ 1999/5/31（顧問就任）
春見 建一	国立療養所中野病院院長	1993/6/12 ~ 1999/5/31（副会長～2002/5/13）
齋藤 總衛	元日本 YMCA 同盟総主事	事務総長 1994/4/1 ~ 1999/5/31
杉本 恒明	関東中央病院院長	1995/2/15 ~ 2002/5/25 副会長～2009/5/31 顧問就任）
川島 康生	国立循環器病センター名誉総長	1999/6/1 ~ 2005/5/31（顧問就任）
河野 俊二	東京海上火災保険株式会社社長	1999/6/1 ~ 2005/5/31
篠山 重威	京都大学教授	1999/6/1 ~ 2009/5/31（顧問就任）
外山 淳治	愛知県立尾張病院院長	1999/6/1 ~ 2009/5/31（顧問就任）
三好 正也	経済団体連合会参与	1997/6/12 ~ 2001/5/31
矢崎 義雄	国立国際医療センター院長	1997/6/12 ~ 2009/5/31（副会長～2011/5/31 理事長就任）
和田 龍幸	経済団体連合会事務総長	2001/6/1 ~ 2005/5/31
竹下 彰	麻生飯塚病院顧問	2002/5/25 ~ 2009/3/15
中村 芳夫	経済団体連合会専務理事	2005/6/1 ~ 2011/5/31
樋口 公啓	東京海上日動火災保険相談役	2005/6/1 ~ 2011/5/31
○ 北村 惣一郎	国立循環器病センター名誉総長	2009/6/1 ~
○ 西川 章	三菱マテリアル相談役	2009/6/1 ~
○ 山口 徹	虎の門病院院長	2009/6/1 ~
○ 飴谷 恭平	事務局長	2013/6/26 ~

理事

佐藤喜一郎	経済団体連合会評議員会議長	会長 1970/5/15 ~ 1974/5/24
美甘 義夫	関東中央病院院長	副会長 1970/5/15 ~ 1983/4/4
湯浅 恭三	湯浅・坂本法律特許事務所所長	副会長 1970/5/15 ~ 1976/3/9
草野 義一	日本軽金属取締役	理事長 1970/5/15 ~ 1976/3/9
池田 正男	東京大学助教授	常務理事 1970/5/15 ~ 評議員会副会長 1983/5/17 ~ 1990/6/11 (顧問就任)
稲山 嘉寛	新日本製鉄株式会社社長	1970/5/15 ~ 1987/6/11 (名誉会長就任)
岩佐 凱實	株式会社富士銀行頭取	1970/5/15 ~ 会長 1980/7/22 ~ 1996/6/11
冲中 重雄	虎の門病院院長	1970/5/15 ~ 1976/3/9 (顧問就任)
加地 幸一	加地貿易株式会社社長	1970/5/15 ~ 1987/6/11
川島 勸市	川島紡績株式会社社長	1970/5/15 ~ 1973/3/30 (監事)
木川田一隆	東京電力株式会社社長	1970/5/15 ~ 1977/3/14
木村 登	久留米大学教授	1970/5/15 ~ 1983/5/17 (顧問就任)
木本 誠二	三井記念病院院長	1970/5/15 ~ 1976/3/9 (顧問就任)
小林太刀夫	東京大学教授	1970/5/15 ~ 常務理事 1983/5/17 ~ 1987/6/11 (顧問就任)
榊原 仟	東京女子医科大学教授	1970/5/15 ~ 1979/9/28
佐々木周一	日本原子力船開発事業団理事長	1970/5/15 ~ 1982/8/4
笹本 浩	慶應義塾大学教授	1970/5/15 ~ 1979/12/14
瀬川美能留	野村證券株式会社会長	1970/5/15 ~ 1976/3/9
花村仁八郎	経済団体連合会専務理事	1970/5/15 ~ 常務理事 1987/6/12 ~ 1997/1/4
早瀬 正二	岐阜大学教授	1970/5/15 ~ 常務理事 1977/5/30 ~ 1987/6/11
前川孫二郎	京都大学名誉教授	1970/5/15 ~ 1971/2/3
松宮 一也	吉田国際教育基金専務理事	1970/5/15 ~ 1972/9/17
山本 正淑	医療金融公庫総裁	常務理事 1970/5/15 ~ 1987/6/11
吉岡 義二	東京銀行協会客員	常務理事 1970/5/15 ~ 1984/6/19 (顧問就任)
吉田 常雄	国立大阪病院院長	1970/5/15 ~ 1976/3/9 (顧問就任)
高安 正夫	京都大学教授	1971/3/30 ~ 1979/6/1 (顧問就任)
武田長兵衛	日本製薬工業協会会長	1973/4/1 ~ 1980/9/1
新井 正明	生命保険協会会長	1973/6/7 ~ 1976/3/9
江戸 英雄	三井不動産株式会社会長	1976/3/9 ~ 1987/6/11
日野原重明	聖路加看護大学学長	1976/3/9 ~ 1987/6/11 (顧問就任)
弘世 現	生命保険協会会長	1976/3/9 ~ 1977/7/15
曲直部 壽夫	大阪大学教授	1976/3/9 ~ 常務理事 1983/5/17 ~ 副会長 1990/6/12 ~ 1993/6/11 (顧問就任)
村上 元孝	東京都養育院附属病院院長	1976/3/9 ~ 常務理事 1981/6/12 ~ 1987/6/11
山本源左衛門	東京海上火災保険株式会社相談役	1976/3/9 ~ 1987/6/11
平岩 外四	東京電力株式会社社長	1977/5/30 ~ 会長 1996/6/12 ~ 2007/5/22
塚本 亮一	生命保険協会会長	1977/7/16 ~ 1979/11/15
木村 栄一	日本医科大学教授	1979/6/1 ~ 1982/2/11
山中 宏	生命保険協会会長	1979/11/15 ~ 1981/7/17
五島雄一郎	東海大学教授	1980/3/19 ~ 常務理事 1990/6/12 ~ 評議員会副会長 1997/6/12 ~ 2003/5/28
中村 隆	東北大学名誉教授	1980/3/19 ~ 1983/5/17 (顧問就任)
小西新兵衛	武田薬品工業株式会社会長	1981/3/20 ~ 1992/3/23
高島 隆平	生命保険協会会長	1981/7/17 ~ 1984/5/22
村尾 覚	東京大学教授	1982/4/8 ~ 1985/3/31 (評議員就任)、1987/6/12 ~ 1993/6/11
椎名 武雄	日本アイ・ピー・エム株式会社社長	1983/3/22 ~ 常務理事 1990/6/12 ~ 常任理事 1999/6/1 ~ 2009/5/31

	花岡 堅而	日本医師会会長	1983/3/22 ~ 1984//3/31
	相澤 豊三	日本脳卒中学会理事長	1983/5/17 ~ 1993/6/11
	尾前 照雄	九州大学教授	1983/5/17 ~ 常務理事 1993/6/12 ~ 1999/5/31 (顧問就任)
	北村 和夫	順天堂大学教授	1983/5/17 ~ 1990/6/12 (顧問就任)
	長坂 強	公益法人協会評議員	1983/5/17 ~ 1987/6/11
	羽田 春免	日本医師会会長	1984/4/1 ~ 1990/6/11 (顧問就任)
	千代 賢治	生命保険協会会長	1984/5/22 ~ 1984/7/15
	西尾 信一	生命保険協会会長	1984/7/15 ~ 1985/7/16
	大和久泰太郎	元日本 YMCA 同盟総主事	事務総長 1984/9/1、常務理事 1984/11/30 ~ 1994/3/31
	山田 和生	名鉄病院院長	1985/5/16 ~ 常務理事 1987/6/12 ~ 副会長 1993/6/12 ~ 1999/5/31 (顧問就任)
	川瀬源太郎	生命保険協会会長	1985/7/16 ~ 1986/7/16
	土田 晃透	生命保険協会会長	1986/7/16 ~ 1987/7/17
	伊藤 良雄	三楽病院名誉院長	副会長 1987/6/12 ~ 1990/6/11
	河合 忠一	京都大学教授	常務理事 1987/6/12 ~ 1999/5/31 (顧問就任)
	磯田 一郎	株式会社住友銀行会長	1987/6/12 ~ 1990/6/11 (監事就任)
	金森 政雄	三菱重工工業株式会社社長	1987/6/12 ~ 1990/6/11
	佐波 正一	株式会社東芝相談役	1987/6/12 ~ 1996/6/11 (評議員会長就任)
	重松 逸造	放射線影響研究所理事長	1987/6/12 ~ 1993/6/11
	豊田 英二	トヨタ自動車株式会社社長	1987/6/12 ~ 1999/5/31
	渡辺 文夫	東京海上火災保険株式会社社長	1987/6/12 ~ 1988/6/21
	若原 泰之	生命保険協会会長	1987/7/17 ~ 1988/7/15、1992/7/17 ~ 1993/6/12
	竹田 晴夫	東京海上火災保険株式会社社長	1988/6/21 ~ 1996/6/11
	上山 保彦	生命保険協会会長	1988/7/15 ~ 1989/7/21
	櫻井 孝穎	生命保険協会会長、 第一生命保険会長	1989/7/21 ~ 1990/7/20、1999/6/1 ~ 2005/5/31
	大国 真彦	日本大学教授	1990/6/12 ~ 1999/5/31
	小町 喜男	筑波大学教授	1990/6/12 ~ 1999/5/31
	戸嶋 裕徳	久留米大学教授	1990/6/12 ~ 1999/5/31
	春見 建一	国立療養所中野病院院長	1990/6/12 ~ 常務理事 1993/6/12 ~ 副会長 1999/6/1 ~ 2002/5/13
	水島 廣雄	株式会社そごう社長	1990/6/12 ~ 1993/6/11
	伊藤 助成	生命保険協会会長	1990/7/20 ~ 1991/7/19
	波多健治郎	生命保険協会会長、明治生命会長	1991/7/19 ~ 1992/7/17、1996/6/12 ~ 1999/5/31
	森田 桂	武田薬品工業株式会社社長	1992/3/23 ~ 1993/6/11 (評議員就任)
	浦上 敏臣	住友生命保険相互会社社長	1993/6/12 ~ 1996/6/11 (評議員就任)
	川島 康生	国立循環器病センター病院長	1993/6/12 ~ 常任理事 1999/6/1 ~ 2005/5/31 (顧問就任)
	河村 喜典	三共株式会社社長	1993/6/12 ~ 2001/5/31
	杉本 恒明	関東中央病院院長	1993/6/12 ~ 常務理事 1995/2/15 ~ 常任理事 1999/6/1 ~ 副会長 2002/5/25 ~ 2009/5/31 (顧問就任)
	外山 淳治	名古屋大学教授	1993/6/12 ~ 常任理事 1999/6/1 ~ 2009/5/31 (顧問就任)
○	矢崎 義雄	東京大学教授	1993/6/12 ~ 常務理事 1997/6/12 ~ 常任理事 1999/6/1 ~ 副会長 2009/6/1 ~ 理事長 2011/6/1 ~
	ランベルト・クルト	バイエル薬品株式会社社長	1993/6/12 ~ 1996/1/31
	齋藤 總衛	元日本 YMCA 同盟総主事	常務理事、事務総長 1994/4/1 ~ 1999/5/31
	志立 託爾	三菱信託銀行株式会社相談役	理事長 1996/2/1 ~ 2011/5/31
	ヴォルフガング・プリシュケ	バイエル薬品株式会社社長	1996/2/1 ~ 2000/2/29
	河野 俊二	東京海上火災保険株式会社社長	1996/6/12 ~ 常任理事 1999/6/1 ~ 2005/5/31

	三好 正也	経済団体連合会参与	常務理事 1997/6/12 ~ 常任理事 1999/6/1 ~ 2001/5/31
	大賀 典雄	ソニー株式会社社長	1999/6/1 ~ 2009/5/31
○	小川 聡	慶應義塾大学教授	1999/6/1 ~
	小泉 明	日本医師会副会長	1999/6/1 ~ 2002/5/24
	篠山 重威	京都大学教授	常任理事 1999/6/1 ~ 2009/5/31 (顧問就任)
	細田 磋一	榊原記念病院院長	1999/6/1 ~ 2003/5/31 (監事就任)
	山口 武典	国立循環器病センター病院長	1999/6/1 ~ 2009/5/31 (顧問就任)
	アンソニー・ウイン	バイエル薬品株式会社社長	2000/3/13 ~ 2002/8/20
	和田 龍幸	経済団体連合会事務総長	常任理事 2001/6/1 ~ 2005/5/31
	高藤 鉄雄	三共株式会社社長	2001/6/1 ~ 2007/5/31
	竹下 彰	麻生飯塚病院顧問	常任理事 2002/5/24 ~ 2009/3/15
	糸氏 英吉	日本医師会副会長	2002/5/24 ~ 2004/6/2
	栄木 憲和	バイエル薬品株式会社社長	2002/8/21 ~ 2014/6/24
○	山口 徹	虎の門病院院長	2003/6/1 ~ 常任理事 2009/6/1 ~
	北島 顕	カレスサッポロ臨床研究担当顧問	2004/6/3 ~ 2011/5/31
	櫻井 秀也	日本医師会副会長	2004/6/3 ~ 2006/6/4
○	北村惣一郎	国立循環器病センター総長	2005/6/1 ~ 常任理事 2009/6/1 ~
	中村 芳夫	経済団体連合会専務理事	常任理事 2005/6/1 ~ 2011/5/31
	樋口 公啓	東京海上日動火災保険株式会社 相談役	常任理事 2005/6/1 ~ 2015/6/24
○	今村 聡	日本医師会常任理事	2006/6/5 ~
	森田 清	第一三共株式会社社長	2007/6/4 ~ 2011/5/31
○	西川 章	三菱マテリアル株式会社相談役	常任理事 2009/6/1 ~
○	児玉 逸雄	名古屋大学教授	2009/6/1 ~
○	永井 良三	東京大学教授	2009/6/1 ~
	松森 昭	京都大学准教授	2009/6/1 ~ 2011/5/31
	森 健一	東京理科大学教授	2009/6/1 ~ 2015/6/24
○	小野 高史	東海旅客鉄道株式会社顧問	2011/6/1 ~
○	児玉 安司	弁護士・三宅坂総合法律事務所	2011/6/1 ~
○	庄田 隆	第一三共株式会社社長	2011/6/1 ~
○	横出 正之	京都大学医学部附属病院 探索医療臨床部教授	2011/6/1 ~
○	飴谷 恭平	事務局長	常任理事 2013/6/26 ~
	高木 哲人	バイエル薬品株式会社執行役員	2014/6/24 ~ 2016/6/15
	綿引 宏行	東京海上日動火災保険株式会社 常務執行役員	2015/6/24 ~ 2016/6/15
	犬山 里代	バイエル薬品株式会社執行役員	2016/6/15 ~ 2019/9/30
○	中村 直樹	東京海上日動火災保険株式会社 常務執行役員	2016/6/15 ~
○	小室 一成	東京大学大学院医学系研究科 循環器内科学教授	2017/6/27 ~
○	山中 聡	バイエル薬品株式会社執行役員	2019/11/1 ~

監事

井上 薫	株式会社第一銀行頭取	1970/5/15 ~ 1990/6/11
鹿島守之助	鹿島建設株式会社会長	1970/5/15 ~ 1975/12/3
武井 大助	昭和産業株式会社相談役	1970/5/15 ~ 1972/3/30
川島 勘市	川島紡績株式会社社長	1973/3/30 ~ 1976/2/13
駒井健一郎	株式会社日立製作所会長	1976/3/9 ~ 1978/3/28
松永 義正	日本軽金属株式会社社長	1976/3/9 ~ 1995/11/4
吉山 博吉	株式会社日立製作所社長	1978/3/28 ~ 1999/5/31
磯田 一郎	株式会社住友銀行相談役	1990/6/12 ~ 1993/6/11
増田 祐孝	日本軽金属株式会社社長	1996/2/1 ~ 2003/5/31
末松 謙一	株式会社さくら銀行常任顧問	1999/6/12 ~ 2011/5/31 (顧問就任)
細田 瑳一	榊原記念病院院長	2003/6/1 ~ 2011/5/31 (顧問就任)
○ 上松瀬勝男	東京ハートセンター病院長	2011/6/1 ~
○ 石尾 肇	石尾公認会計士事務所	2011/6/1 ~

評議員会会長 (新公益法人移制度行前 2012年3月31日まで)

矢野 一郎	第一生命保険相互会社相談役	1971/4/27 ~ 1979/5/31 (顧問就任)
小山 五郎	株式会社三井銀行相談役	1979/6/1 ~ 1996/5/31
佐波 正一	株式会社東芝相談役	1996/5/31 ~ 2005/5/31
西川 章	三菱マテリアル株式会社相談役	2005/6/1 ~ 2009/5/31 (常任理事就任)
高木 茂	三菱地所株式会社相談役	2009/6/1 ~ 2012/3/31 (議長就任)

評議員会副会長 (新公益法人移制度行前 2012年3月31日まで)

上田 英雄	中央鉄道病院院長	1975/3/11 ~ 1983/5/17 (顧問就任)
池田 正男	自治医科大学教授	1983/5/17 ~ 1990/6/11
村瀬 敏郎	日本医師会副会長	1990/6/12 ~ 1992/6/11 (顧問就任)
坂上 正道	日本医師会副会長	1992/6/12 ~ 1993/6/11 (評議員就任)
村尾 覚	関東中央病院名誉院長	1993/6/12 ~ 1996/6/28
五島雄一郎	東海大学名誉教授	1997/6/12 ~ 2003/5/28
仲村 英一	結核予防会理事長	2004/3/22 ~ 2012/3/31

評議員（新公益法人移制度行前 2012年3月31日まで）

赤坂 武	日本鋼管社長	1971/3/30～1972/3/31
芦原 義重	関西電力株式会社会長	1971/3/30～1987/6/11
阿部 達夫	東邦大学医学部教授	1971/3/30～1982/5/25
石原幹一郎	国民健康保険中央会会長	1971/3/30～1972/3/31
伊原 隆	株式会社横浜銀行頭取	1971/3/30～1976/9/24
江戸 英雄	三井不動産社長	1971/3/30～1976/3/31
大島 研三	日本大学医学部第二内科	1971/3/30～1987/6/11
勝木司馬之助	九州大学医学部教授	1971/3/30～1987/6/11
数納 清	朝日生命社長	1971/3/30～1987/6/11
駒井健一郎	日立製作所社長	1971/3/30～1976/3/31
佐伯 勇	近畿日本鉄道株式会社社長	1971/3/30～1987/6/11
佐々木直亮	弘前大学医学部衛生学教室教授	1971/3/30～1996/6/11
塩野孝太郎	塩野義製菓株式会社社長	1971/3/30～1989/11/20
鳴谷 亮一	群馬大学医学部教授	1971/3/30～1987/6/11
重松 逸造	国立公衆衛生疫役部長	1971/3/30～1987/6/11
鈴木 万平	三共株式会社社長	1971/3/30～1975/12/3
武田長兵衛	武田薬品工業株式会社社長	1971/3/30～1973/4/1（理事就任）
竹中 鍊一	株式会社竹中工務店社長	1971/3/30～1993/6/11
千頭 暎臣	三菱信託銀行会長	1971/3/30～1983/2/27
津上 退助	津上製作所社長	1971/3/30～1974/7/4
土井 正治	住友化学工業株式会社会長	1971/3/30～1987/6/11
土光 敏夫	東芝会長	1971/3/30～1974/7/23（会長就任）
戸山 靖一	大阪成人病センター	1971/3/30～1987/6/11
内藤 祐次	エーザイ株式会社社長	1971/3/30～1999/5/31
中田 乙一	三菱地所株式会社社長	1971/3/30～1996/6/11
中村 俊男	株式会社三菱銀行頭取	1971/3/30～1978/3/28
中山 一郎	日本軽金属株式会社社長	1971/3/30～1987/6/11
根津嘉一郎	東武鉄道株式会社社長	1971/3/30～1982/5/25
橋本 虎六	東北大学医学部薬理学教室	1971/3/30～1987/6/11
日高 輝	山一証券株式会社会長	1971/3/30～1987/6/11
弘世 現	日本生命保険社長、名誉会長	1971/3/30～1976/3/9（理事就任） 1987/7/3～1996/1/10
藤野忠次郎	三菱商事社長	1971/3/30～1985/7/23
藤本 一郎	川崎製鉄株式会社社長	1971/3/30～1987/6/11
堀田 庄三	住友銀行会長	1971/3/30～1987/6/11
本間 嘉平	大成建設株式会社会長	1971/3/30～1982/5/25
増尾彦太郎	大栄商会社長	1971/3/30～1975/2/13
松尾 正雄	厚生省医務局長	1971/3/30～1973/3/31
三瀬 淳一	山口大学医学部内科	1971/3/30～1987/6/11
村尾 誠	北海道大学医学部教授	1971/3/30～1987/6/11
村上 元孝	養育院附属病院院長	1971/3/30～1976/3/9（理事就任）
矢野 一郎	第一生命保険相談役	1971/3/30（4/27より評議員会会長～1979/5/31）
山田 栄一	シチズン時計株式会社社長	1971/3/30～1982/5/25
山本源左衛門	社団法人日本損害保険協会会長	1971/3/30～1976/3/31
横山 通夫	中部電力株式会社会長	1971/3/30～1983/5/17
若杉 末雪	三井物産株式会社社長	1971/3/30～1973/5/10
和田 達雄	横浜市立大学教授	1971/3/30～1982/5/25

滝沢 正	厚生省医務局長	1973/4/1 ~ 1975/3/31
相沢 豊三	慶應義塾大学名誉教授	1975/3/11 ~ 1983/5/17 (理事就任)
上田 英雄	中央鉄道病院院長	評議員会副会長 1975/3/11 ~ 1983/5/17 (顧問就任)
小山 五郎	株式会社三井銀行会長	1975/3/11 ~ 1979/6/1 (評議員会会長就任)
田口 連三	石川島播磨重工業株式会社会長	1975/3/11 ~ 1987/6/11
友松 達弥	神戸大学教授	1975/3/11 ~ 1987/6/11 (顧問就任)
日野原重明	聖路加国際病院看大学長	1975/3/11 ~ 1976/3/9 (理事就任)
石丸 隆治	厚生省医務局長	1975/4/1 ~ 1977/3/31
池田 芳蔵	三井物産社長	1976/3/9 ~ 1983/5/17
新井 正明	住友生命相互会社社長	1976/4/1 ~ 1987/6/11
江橋 節郎	東京大学教授	1976/4/1 ~ 1990/6/11 (顧問就任)
小野 威	鹿島建設株式会社会長	1976/4/1 ~ 1977/10/20
木村 栄一	日本医科大学教授	1976/4/1 ~ 1979/6/1 (理事就任)
三枝 正裕	東京大学教授	1976/4/1 ~ 1993/6/11
鷹津 正	大阪医科大学教授	1976/4/1 ~ 1987/6/11 (顧問就任)
豊田 英二	トヨタ自動車工業株式会社社長	1976/4/1 ~ 1987/6/11
中村 元臣	九州大学教授	1976/4/1 ~ 1993/6/11
増尾 嘉彦	大栄商会株式会社社長	1976/4/1 ~ 1983/5/17
佐分利輝彦	厚生省医務局長	1977/4/1 ~ 1993/6/11
渥美 建夫	鹿島建設株式会社社長	1977/10/21 ~ 1978/3/28
石川 六郎	鹿島建設株式会社社長	1978/3/28 ~ 1987/6/11
山田 春	三菱銀行会長	1978/3/28 ~ 1987/6/11
大谷 藤郎	医療金融公庫理事	1981/6/12 ~ 1987/6/11
河村 喜典	三共社長	1981/6/12 ~ 1993/6/11 (理事就任)
北村 和夫	順天堂大学教授	1981/6/12 ~ 1983/5/17 (理事就任)
野原 義次	東京医科大学教授	1981/6/12 ~ 1987/6/11
山田 和生	名古屋大学教授	1981/6/12 ~ 1985/5/16 (理事就任)
浅野 献一	東京大学教授	1982/5/25 ~ 1987/6/11
伊藤 義郎	北海道心臓協会会長	1982/5/25 ~ 1993/6/11
名取 禮二	東京慈恵会医科大学学長	1982/5/25 ~ 1983/5/17
吉岡 博人	東京女子医科大学学長	1982/5/25 ~ 1987/6/11
八尋 俊邦	三井物産会長	1983/5/17 ~ 1993/6/11
阿部 正和	東京慈恵会医科大学学長	1983/5/17 ~ 1990/6/11
伊藤 良雄	三楽病院院長	1983/5/17 ~ 1987/6/11
河合 忠一	京都大学教授	1983/5/17 ~ 1985/3/31 (選考委員長就任、後理事就任)
安田 寿一	北海道大学教授	1983/5/17 ~ 1999/5/31
廣澤弘七郎	東京女子医科大学教授	1985/4/1 ~ 1993/6/11
村尾 覚	東京大学教授	1985/4/1 ~ 1987/6/11 (理事就任)
足立慶次郎	田辺製薬社長	1987/6/12 ~ 1990/6/11
伊藤 雅俊	イトーヨーカ堂社長	1987/6/12 ~ 1990/6/11
飯村 攻	札幌医科大学教授	1987/6/12 ~ 1999/5/31
磯村 孝二	佐久総合病院内科医長	1987/6/12 ~ 1993/6/11
入澤 宏	国立生理学研究所教授	1987/6/12 ~ 1991/11/19
岩 喬	金沢大学教授	1987/6/12 ~ 1996/6/11
大国 真彦	日本大学教授	1987/6/12 ~ 1990/6/11 (理事就任)
大塚 明彦	大塚製薬社長	1987/6/12 ~ 1999/5/31
荻野 義夫	日本光電工業社長	1987/6/12 ~ 1990/11/10
鹿島 昭一	鹿島建設社長	1987/6/12 ~ 1990/6/11

金澤 知博	秋田大学教授	1987/6/12 ~ 1993/6/11
亀山 正邦	住友病院院長	1987/6/12 ~ 1990/6/11 (名誉顧問就任)
河北 成一	滋賀医科大学教授	1987/6/12 ~ 1996/6/11
川原 正人	日本放送協会会長	1987/6/12 ~ 1990/6/11
楠川 禮造	山口大学教授	1987/6/12 ~ 1993/6/11
小町 喜男	筑波大学教授	1987/6/12 ~ 1990/6/11 (理事就任)
小山晋太郎	心臓血管研究所所長	1987/6/12 ~ 1993/6/11
佐々木 秀一	東京商工会議所副会頭	1987/6/12 ~ 1990/6/11
佐治 敬三	大阪商工会議所会頭	1987/6/12 ~ 1996/6/11
澤井 廣量	日本循環器管理研究協議会事務局長	1987/6/12 ~ 2012/3/31
真藤 恒	日本電信電話社長	1987/6/12 ~ 1990/6/11
杉本 恒明	東京大学教授	1987/6/12 ~ 1993/6/11 (理事就任)
竹田弘太郎	名古屋商工会議所会頭	1987/6/12 ~ 1990/6/11
武田 豊	新日本製鉄社長	1987/6/12 ~ 1990/6/11
田淵 節也	野村証券会長	1987/6/12 ~ 1992/6/11
千代 賢治	住友生命会長	1987/6/12 ~ 1993/6/11
戸嶋 裕徳	久留米大学教授	1987/6/12 ~ 1990/6/11 (理事就任)
永山 時雄	昭和シェル石油会長	1987/6/12 ~ 1992/6/11
西尾 信一	第一生命社長	1987/6/12 ~ 1999/6/11
土方 武	住友化学工業会長	1987/6/12 ~ 1993/6/11
篠野 脩一	国立公衆衛生院疫学部長	1987/6/12 ~ 1999/5/31
福田 孝	フクダ電子会長	1987/6/12 ~ 1998/8/19
藤原 富男	大日本製薬社長	1987/6/12 ~ 1990/6/11
松澤 卓二	富士銀行会長	1987/6/12 ~ 1993/6/11
水野 康	藤田学園保健衛生大学教授	1987/6/12 ~ 1993/6/11
盛田 昭夫	ソニー会長	1987/6/12 ~ 1996/6/11
家森 幸男	島根医科大学教授	1987/6/12 ~ 1999/5/31
新井 達太	東京慈恵会医科大学教授	1990/6/12 ~ 1993/6/11
稲垣 義明	千葉大学教授	1990/6/12 ~ 1996/6/25
岩垂 孝一	万有製薬会長	1990/6/12 ~ 1999/5/31
川崎 富作	川崎病研究情報センター所長	1990/6/12 ~ 1993/6/11
川島 康生	国立循環器病センター病院長	1990/6/12 ~ 1993/6/11 (理事就任)
クラウス D. ユリーチャー	バイエル薬品社長	1990/6/12 ~ 1992/3/23
齋藤 裕	新日本製鉄社長	1990/6/12 ~ 1999/5/31
佐野 肇	中外製薬社長	1990/6/12 ~ 1993/6/11
島 桂次	日本放送協会会長	1990/6/12 ~ 1992/6/2
鈴木 正	第一製薬社長	1990/6/12 ~ 2005/5/31
田中 照夫	トーアエイヨー社長	1990/6/12 ~ 1996/6/11
田中 弘允	鹿児島大学教授	1990/6/12 ~ 2005/5/31
千畑 一郎	田辺製薬社長	1990/6/12 ~ 1999/5/31
外山 淳治	名古屋大学教授	1990/6/12 ~ 1993/6/11 (理事就任)
永野 允	東京慈恵会医科大学教授	1990/6/12 ~ 1993/6/11
中村 一郎	第一勧業銀行会長	1990/6/12 ~ 1992/7/21
藤澤友吉郎	藤沢薬品工業社長	1990/6/12 ~ 1999/5/31
宮崎 明	鹿島建設社長	1990/6/12 ~ 1999/5/31
森岡 茂夫	山之内製薬社長	1990/6/12 ~ 1999/5/31
吉利 一雄	塩野義製薬社長	1990/6/12 ~ 1992/10/30
荻野 和郎	日本光電工業社長	1990/11/10 ~ 2012/3/31 (公益財団法人新評議員就任)

ランベルト・クルト	バイエル薬品社長	1992/3/23 ~ 1993/6/11 (理事就任)
宮崎 邦次	第一勧業銀行会長	1992/7/21 ~ 1996/6/12
塩野 芳彦	塩野義製薬社長	1992/10/30 ~ 1999/9/17
荒川 規矩男	福岡大学教授	1993/6/12 ~ 1999/5/31
有田 眞	大分医科大学教授	1993/6/12 ~ 2012/3/31
今井 昭一	新潟大学教授	1993/6/12 ~ 1999/5/31
上島 弘嗣	滋賀医科大学教授	1993/6/12 ~ 2012/3/31 (公益財団法人新評議員就任)
岡島 光治	藤田保健衛生大学教授	1993/6/12 ~ 1999/5/31
小澤 高将	名古屋大学教授	1993/6/12 ~ 1999/5/31
河村 慧四郎	大阪医科大学教授	1993/6/12 ~ 2003/5/31
北 徹	京都大学教授	1993/6/12 ~ 2012/3/31
草川 三治	聖母病院院長	1993/6/12 ~ 1996/6/11
小柳 仁	東京女子医科大学教授	1993/6/12 ~ 2012/3/31 (公益財団法人新評議員就任)
齋藤 盛之	日本ベーリンガーインゲルハイム社長	1993/6/12 ~ 1997/3/13
坂上 正道	日本医師会副会長	1993/6/12 ~ 1996/3/31
篠山 重威	京都大学教授	1993/6/12 ~ 1999/5/31 (常任理事就任)
杉下 靖郎	筑波大学教授	1993/6/12 ~ 2003/12/17
津村 昭	ツムラ社長	1993/6/12 ~ 1996/6/11
豊嶋 英明	新潟大学教授	1993/6/12 ~ 2012/3/31
永山 治	中外製薬社長	1993/6/12 ~ 2012/3/31
波多健治郎	明治生命相談役	1993/6/12 ~ 2005/5/31
早川 弘一	日本医科大学教授	1993/6/12 ~ 2005/5/31
平岡 昌和	東京医科歯科大学教授	1993/6/12 ~ 2012/3/31 (公益財団法人新評議員就任)
森田 桂	武田薬品工業社長	1993/6/12 ~ 2005/5/31
若原 泰之	朝日生命社長	1993/6/12 ~ 2002/2/28
細田 瑛一	東京女子医科大学教授	1996/6/1 ~ 1999/5/31 (理事就任)
横山 光宏	神戸大学教授	1996/6/1 ~ 2012/3/31
伊藤 助成	日本生命会長	1996/6/12 ~ 2005/4/21
伊部 幸頭	ゼリア新薬工業社長	1996/6/12 ~ 2005/3/31
浦上 敏臣	住友生命社長	1996/6/12 ~ 2001/8/31
奥田 正司	第一勧業銀行会長	1996/6/12 ~ 1997/7/4
谷口 準	ファイザー製薬社長	1996/6/12 ~ 1998/3/12
辻 和之	トーアエイヨー社長	1996/6/12 ~ 1999/5/31
風間八左衛門	ツムラ社長	1996/6/12 ~ 1999/5/31
代田久米雄	日本ベーリンガーインゲルハイム社長	1997/3/14 ~ 1999/5/31
レスリー R. バターソン	ファイザー製薬社長	1998/3/13 ~ 2000/5/22
上田 一雄	九州大学教授	1999/6/1 ~ 2012/3/31
小野田正愛	山之内製薬社長	1999/6/1 ~ 2001/5/31
川端 常樹	日本ベーリンガーインゲルハイム社長	1999/6/1 ~ 2001/8/31
北島 顕	北海道大学教授	1999/6/1 ~ 2004/6/2 (理事就任)
児玉 逸雄	名古屋大学教授	1999/6/1 ~ 2009/5/31 (理事就任)
白土 邦男	東北大学巨樹	1999/6/1 ~ 2012/3/31 (公益財団法人新評議員就任)
田中登志於	田辺製薬社長	1999/6/1 ~ 2005/5/31
土井 貞臣	トーアエイヨー社長	1999/6/1 ~ 2009/5/31
内藤 晴夫	エーザイ社長	1999/6/1 ~ 2012/3/31

仲村 英一	医療情報システム開発センター 理事長	1999/6/1 ~ 2012/3/31
福田孝太郎	フクダ電子社長	1999/6/1 ~ 2012/3/31
藤山 朗	藤沢薬品工業社長	1999/6/1 ~ 2005/5/31
堀 正二	大阪大学教授	1999/6/1 ~ 2012/3/31 (公益財団法人新評議員就任)
村山 正博	聖マリアンナ医科大学学長	1999/6/1 ~ 2012/3/31
門間 和夫	東京女子医科大学教授	1999/6/1 ~ 2012/3/31
塩野 元三	塩野義製薬社長	2000/1/1 ~ 2009/5/31
アラン B. ブーツ	ファイザー製薬社長	2000/5/22 ~ 2005/5/31
竹中 登一	山之内製薬社長	2001/6/1 ~ 2005/5/31
クリストフ・ ホーパッハ	日本ベーリンガーインゲルハイム 会長	2001/9/1 ~ 2002/9/17
吉野 泰生	住友生命会長	2001/9/1 ~ 2008/3/17
小林 建俊	日本ベーリンガーインゲルハイム 副社長	2002/9/18 ~ 2004/3/22
上松瀬勝男	日本大学教授	2003/6/1 ~ 2011/5/31 (監事就任)
山口 巖	筑波大学教授	2003/6/1 ~ 2012/3/31
大澤 昭夫	日本ベーリンガーインゲルハイム 社長	2004/3/23 ~ 2008/3/17
笠貫 宏	東京女子医科大学教授	2004/3/23 ~ 2012/3/31
永井 良三	東京大学教授	2004/3/23 ~ 2009/5/31 (理事就任)
青木 初夫	アステラス製薬会長	2005/6/1 ~ 2007/5/31
金子亮太郎	明治生命社長	2005/6/1 ~ 2006/3/13
木下 恭輔	アコム株式会社会長	2005/6/1 ~ 2012/3/31
児玉 和紀	放射線影響研究所疫学部長	2005/6/1 ~ 2012/3/31
ソーレン・ セリンダー	ファイザー社長	2005/6/1 ~ 2006/3/13
高木 茂	三菱地所株式会社相談役	2005/6/1 ~ 2012/3/31 (2009/6/1 より評議員会会長、公益財団法人新評議員就任)
高野 照夫	日本医科大学教授	2005/6/1 ~ 2012/3/31
鄭 忠和	鹿児島大学教授	2005/6/1 ~ 2012/3/31 (公益財団法人新評議員就任)
長谷川閑史	武田薬品工業社長	2005/6/1 ~ 2011/5/31
葉山 夏樹	田辺三菱製薬社長	2005/6/1 ~ 2010/3/29
岩崎 博充	ファイザー社長	2006/3/13 ~ 2012/3/29
松尾 憲治	明治生命社長	2006/3/13 ~ 2012/3/31
市川 邦英	アステラス専務執行役員	2007/6/1 ~ 2008/6/12
松森 昭	京都大学助教授	2007/6/1 ~ 2009/5/31 (理事就任)
神田 高志	日本ベーリンガーインゲルハイム 事業統括	2008/3/17 ~ 2010/3/29
横山 進一	住友生命会長	2008/3/17 ~ 2012/3/31
山田 活郎	アステラス執行役員	2008/6/12 ~ 2012/3/31 (公益財団法人新評議員就任)
元村 啓司	トーアエイヨー社長	2009/6/1 ~ 2011/5/31
梅田 一郎	ファイザー社長	2010/3/29 ~ 2011/5/31
加藤 俊浩	日本ベーリンガーインゲルハイム 執行役員	2010/3/29 ~ 2012/3/31
土屋 裕弘	田辺三菱製薬社長	2010/3/29 ~ 2012/3/31
金野 秀美	トーアエイヨー常務取締役	2011/6/1 ~ 2012/3/31 (公益財団法人新評議員就任)
中岡 一郎	武田薬品日本開発センター所長	2011/6/1 ~ 2012/3/31 (公益財団法人新評議員就任)
豊沢 泰人	ファイザーコーポレート アフケアズ統括部長	2011/6/1 ~ 2012/3/31 (公益財団法人新評議員就任)

公益財団法人 評議員 (2012年～)

評議員会議長

	高木 茂	三菱地所株式会社相談役	2012/4/1～2015/6/24
○	関口 憲一	明治安田生命保険相互会社特別顧問	2015/6/24～

評議員

○	和泉 徹	北里大学教授	2012/4/1～
	岩沙 弘道	三井不動産会長	2012/4/1～2016/6/15
○	上島 弘嗣	滋賀医科大学生活習慣病 予防センター特任教授	2012/4/1～
○	荻野 和郎	日本光電工業会長	2012/4/1～
○	小柳 仁	東京女子医科大学名誉教授	2012/4/1～
	金野 秀美	トーアエイヨー常務取締役	2012/4/1～2017/7/10
	佐々木 譲	アクセル社長	2012/4/1～2018/6/30
○	白土 邦男	東北大学名誉教授	2012/4/1～
○	鄭 忠和	獨協医科大学特任教授・ 和温療法研究所所長	2012/4/1～
	豊沢 泰人	ファイザー執行役員経営政策管理 本部長	2012/4/1～2016/6/15
	中岡 一郎	武田薬品工業医薬開発本部 日本開発センター所長	2012/4/1～2014/6/24
○	平岡 昌和	厚生労働省労働保険審査会会長	2012/4/1～
○	藤原 久義	兵庫県立尼崎病院院長	2012/4/1～
○	堀 正二	大阪府立成人病センター総長	2012/4/1～
○	百村 伸一	自治医科大学附属 さいたま医療センター教授	2012/4/1～
	山田 活郎	アステラス製薬上席執行役員	2012/4/1～2012/6/15
	佐藤 之彦	アステラス製薬執行役員営業本部長	2012/6/19～2016/8/10
○	中村 浩己	武田薬品工業日本開発センター メディカルアフェアーズ部長	2014/6/24～
○	重松 宏	国際医療福祉大学教授	2015/6/24～
○	小野澤康夫	三井不動産常務執行役員	2016/6/15～
	上出 厚志	アステラス製薬執行役員医療政策 部長	2016/8/10～2018/6/18
○	高橋 敦男	トーアエイヨー取締役社長	2017/7/10～
○	知原 修	アステラス医療政策部長	2018/6/18～

◇願 問◇

石坂 泰三	植村甲午郎	永野 重雄	武見 太郎	樋口 一成	土光 敏夫
草野 義一	冲中 重雄	木本 誠二	吉田 常雄	矢野 一郎	高安 正夫
中村 隆	木村 登	上田 英雄	吉岡 義二	小林太刀夫	早瀬 正二
日野原重明	村上 元孝	宇野 收	石川 六郎	羽田 春兔	伊藤 良雄
北村 和夫	池田 正男	小山 五郎	湯浅 恭三	村瀬 敏郎	曲直部壽夫
坪井 栄孝	○尾前 照雄	○河合 忠一	山田 和生	植松 治雄	唐澤 祥人
原中 勝征	○川島 康生	佐波 正一	○篠山 重威	○杉本 恒明	○外山 淳治
○山口 武典	○末松 謙一	○細田 瑛一	○横倉 義武	○古川貞二郎	○中川 俊男

1970年、財団発足にあたってのご挨拶

日本心臓財団発足時の理念をご理解いただくために、発足時に作成された冊子の一部を掲載いたします。

ごあいさつ

このたび厚生省、経団連、日本循環器学会をはじめとする各方面の御理解と御支援を得て、日本心臓財団は財団法人として発足いたしました。

現在わが国においては、脳卒中及び心臓病によって1日700人、1年間で25万人を越える人々が鬼籍に入り、100万人を越える人々が経済の第一線を退いて療養生活を余儀なくされております。

しかるに厚生省の70年度予算では、癌対策費33億6千万円に対し、脳卒中予防対策費は1千6百万円にすぎず、心臓血管病対策は、アメリカ（1億6千万ドルを計上）等に比較して、非常に遅れている現状であります。

こうした実情に鑑み、私たち経済人は、医学界の諸先生とともに心臓血管病制圧のため基金財団の設立を発起いたしました。

私たちは、わが国に恐ろしい結果をもたらしている心臓血管病を制圧し、もって国民の保健と福祉の向上を図りたいと念願致しております。

各界諸賢におかれましては、この社会的必要事に対し、深いご理解とご支援を賜りますよう、心からお願ひ申し上げる次第でございます。

財団法人 日本心臓財団

会長 佐藤 義一郎



厚生大臣

大野 常雄

国家百年の計は国民の健康確保と教育の振興にありと私は信じます。いまや脳卒中をふくむ心臓血管病は、中年層以上に最多発の疾患で、国民総死亡の40パーセントを占め第1位ですが、それにも係らずこの国民最大の敵に対する対策が国民的運動として未だ展開されておらぬのは甚だ遺憾であります。

かつて結核は、わが国民総死亡の第1位であって、癌、脳卒中をはるかに凌ぐものでありましたが、結核撲滅に立ち上った民間の献身的な奉仕者・医師の努力に加えて、医学の著しい進歩と政府の予防対策の結果、いまや死亡率を第7位まで低下せしめるという輝やかな成果をあげました。

心臓血管病の予防、治療、リハビリテーションに対しては、欧米諸国にあっては、その研究と対策が非常に進んでおり、罹病率を従来の3分の1に減じうとの結果が出ております。しかるにわが国では、ややもすれば脳卒中、心筋硬塞などの高血圧病は不可抗力的に突発するものと観念して、予防効果に期待することが甚だ薄かったきらいがあります。

時代の進歩とともに、わが国の厚生行政のうえからも一日も閑却することのできぬ心臓血管病対策に対して、このたび経済界の有志諸氏と医学界の科学者諸氏が、相携えて有力なる日本心臓財団を設立されたことはまことに力づよい事で、慶賀に堪えません。

わが国民医療の向上のため、貴財団の健全な発展を心からお祈り申し上げます。



経済団体連合会会長

植村 研次

このたび厚生省より認可を得て、ここ数年来の念願でありました日本心臓財団が財団法人として発足する運びに至ったことは、まことに慶賀にたえません。

今から6年前、第3回アジア・太平洋心臓病学会が日本で開催された際、心臓病制圧という共同事業を通して世界平和を確立しようと、世界各国に心臓財団設立を呼びかけ、その成果によりノーベル平和賞の有力候補となっているポール・ホワイト博士が来日されました。そして博士から、日本でも経済界の指導者たちが秀れた医学者たちと提携して脳卒中を含む心臓疾患の制圧に是非とも乗り出してほしいという熱心な要請がありました。この呼びかけに応じて、数名の実業家・医学者がその準備をすすめられ、ここに佐藤・草野両氏をはじめとする経済人が、美甘・冲中両博士を中心とする諸先生と相携えて、その理想の実現に踏み出されたわけであります。

ちなみに、その目的とする心臓血管病の制圧は、われわれ人類の共通の敵・第1位のキラーに対する挑戦であり、その果たす国家的・国際的な役割の大なるを想い、小生と致しましても、これが達成のために努力を惜しまない所存であります。つきましては、各位におかれましてもこそってこれに賛同され、ご協力を賜わるよう心から期待する次第であります。

久しく待望された日本心臓財団がいよいよ発足することになり、関係者一同の喜びは何物にも代え難いものがある。本財団の目的は、日本に於ける心臓血管病の実態に応じて研究を広く助成し、外国との学問的交流を助長するとともに、心臓血管病に関する国民的啓蒙活動をすることにある。時恰かも世界27ヶ国の心臓財団の加盟から成り立っている国際心臓財団は、本年9月を期して国際心臓病連盟として新発足し、日本心臓財団もこれに加入する運びとなったことは、偶然とはいえ時期的にもまことに幸運であったといえる。

日本では死因として脳血管障害（脳卒中）が心臓病より優位であるのが現状であるが、今の勢いで高度産業化が進めば、将来欧米型の心臓病優位の状態にならないという保証はない。

最近世界保健機構（WHO）は、「心臓病はますます死亡の膨大な比率を占めるに至り、今にしてその原因・予防に研究を集中しなければ、心臓病は人類が直面した最大の流行病になる」という警告を発している。各国の心臓財団、国際心臓病連盟も、このWHO警告を受け入れるのに非常に熱意を示しており、日本もその仲間入りすることになるのは誠に意義深く、日本循環器学会としても感銘が大である。

何卒各方面のご理解とご援助をお願いする次第である。

財団法人日本心臓財団副会長
日本循環器学会理事

奥 甘 義 夫



5月6日、日本工業倶楽部講堂で開かれた「日本心臓財団発会記念講演会」で講演するP・ホワイト博士。各界から集った多数の聴衆を前にホワイト博士は心臓病を予防するには何よりも“not to grow fat or to smoke, walk, walk and walk”であると力説された。



6年前、池田首相(右)に日本心臓財団の設立について語るMr. Albert M. Baer (国際心臓財団後援会長)

私たち経済人が日頃心痛致しますことは、実に多くの同僚や世間の人が、脳卒中や心臓病のために志なかばにして倒れていってしまったことでもあります。

6年前、国際心臓財団のホワイト博士が来日され、この病気は医学の進歩によって必ず3分の1に減少できるのだから財界は医学界に全面的に協力せよという要請があり、我々有志が財団の結成を準備致しましたが、当時は直ちに財界人の賛同が得られず、その時機の到来を待った次第でした。そして今、私たちは医学界の諸先生と相携えて心臓血管病の制圧に立ち上がった次第であります。

当財団に於て、私たち畑違いの人間が運営に携わるのは、自由な幅広い研究助成を行なうことによって、巷間に流布されている医学界の閉鎖性・学閥といった弊風を打破し、開放的で流動的な研究体制を作り上げ、もってわが国医学の向上に寄与したいと思うからであります。且つ、世界の各国が多数加盟している国際的機関におくればせながら我が国が参加する事も、私たち経済人の担うべき重要な責務であると考えられるものであります。

本財団が、その事業を遂行するのに必要な基金は金3億6千万円ありますが、幸に貴台に於かれましても、我等有志の意のあるところを諒とせられ、満腔の賛意を以て御協力下さいますよう、お願い申し上げます次第であります。

財団法人日本心臓財団理事長

草野義一

設立趣旨

厚生省の発表によると、わが国の国民死亡原因の第1位は脳卒中、第2位はガン、第3位は心筋硬塞、心不全などの心臓病であり、脳卒中は昭和26年以来第1位を独占しております。ここで、心臓血管病といわれる第1位の脳卒中と第3位の心臓病とによる死亡は、全死亡の半分近くを占め、これへの対策は国民保健上最も緊要な課題となっております。ことに、その発病が働き盛りである40~60歳代に頻発していることは、わが国全体の生産活動の面からも由々しき事柄であって、これが制圧は真に挙国的急務であるといつて過言ではありません。

もとより、心臓血管病は世界共通のものであり、国際社会にあっては既に20数ヶ国が心臓病制圧のための推進団体を有し、「人類共通の敵—心臓血管病」という認識のもとに制圧のための国際交流を遂げております。しかるにわが国においては、基礎医学の振興はもとより、予防、治療対策さえ十分になされておらぬ状態であり、いたずらにこれら疾患による死亡者の増加をみている現状であります。

戦後25年、自由世界第2位の経済大国にまで成長したわが国において、心臓血管病に関して今なおこのような状態にあることは、誠に遺憾に堪えません。このため、わが国においても、民間団体として心臓血管病制圧のための基金財団を先ず確立し、研究・予防の全国的・総合的な推進体制を整え、もってわが国医学・医療の振興を図るとともに、国民の保健福祉の向上のための一大契機を旨とすものでもあります。

戦後、それまで圧倒的に死亡率の高かった結核による死亡は全国民あげての撲滅運動の結果著しく減少するところとなった。しかしその反面、脳卒中や心臓病による死亡が漸増し、これら心臓血管病への対策は、最大の国民的課題となってきた。

時恰かも、1964年、京都において国際心臓病学会のアジア・太平洋心臓学会総会が開催され、来日した国際心臓財団（1957年創立、加盟国27）会長のポール・ホワイト博士は、人類の敵・心臓血管病制圧への日本の参加を要請され、わが国に於ても制圧のための基金財団の設立を呼びかけられた。

しかし乍ら、要請を受けた経済界においては直ちにその足並みが揃うに至らず、しばしの延期を余儀なくさせられてきた。

そして昨年来、医学界より再び強い要望が出されるとともに、脳卒中及び心臓病が、壮年期を過ぎて社会的に最も活発な活動の時期の人々に突発的に起こり、社会活動に著しい支障をきたす事例が甚だ多く、これが克服は大きな社会問題であるとの認識が経済界に高まり、1970年5月厚生省の認可を得て、右基金の募集を実行することになった。

なお、1966年の国際心臓財団総会に於て、当財団理事である池田博士がその副会長に選出され、わが国がアジアに於るリーダーとして、心臓血管病の制圧のために尽力すべきであるとの国際的委託がなされた次第である。

設立経過



国際心臓財団
創立者・会長
ポール・D・ホワイト博士

国際心臓財団(International Cardiology Federation)の精神

"It is the conviction of the founders of the I. C. F. that through their cooperative efforts to combat cardiovascular disease, doctors and laymen working together can play a most important role in establishing international friendship and understanding, leading ultimately to world peace."

われわれは、医師と民間人とが互に協力して、心臓血管病を克服しようとする共同作業が、国際親善と相互理解をうちたて、やがては恒久的な世界平和を築く上で重要な役割を果たすものであると確信する。

国際心臓財団加盟国一覧

1 オーストラリア	8 デンマーク	15 アイルランド	22 ポルトガル
2 ベルギー	9 フィンランド	16 イタリア	23 スウェーデン
3 ブラジル	10 フランス	17 ケニア	24 スエーデン
4 カナダ	11 グアテマラ	18 オランダ	25 イス
5 セイロン	12 アイスランド	19 ニュージーランド	26 イギリス
6 チリ	13 インド	20 ノルウェー	27 アメリカ
7 チェコ	14 インドネシア	21 ベル	28 日本

財団の名称

本財団は 財団法人 日本心臓財団 (JAPAN HEART FOUNDATION, INC.) と称する。

基金

本財団の基本財産は金3億6千万円也とし、広く全国有志の寄附に俟つ。

基金の募集

広く各界有志者を以て、財団設立の賛成人会を組織し、実行委員会及び募金事務局を設けて基金の募集を促進する。

事業

本財団の基本財産から生じる果実等を以て下記の事業を行なう。

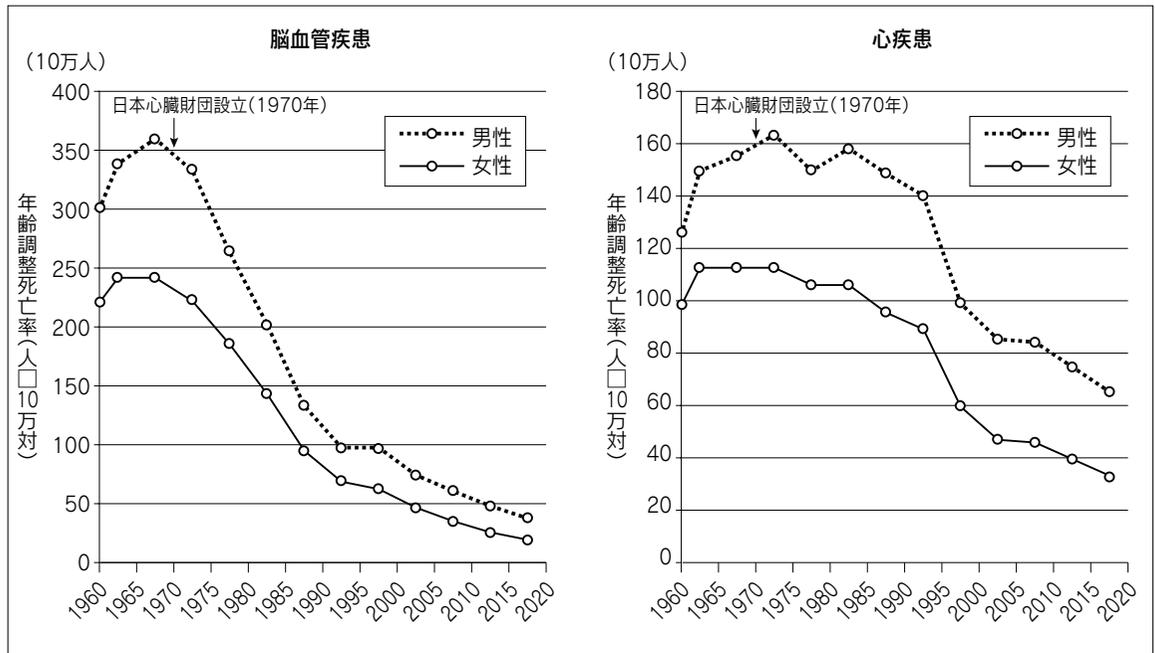
- 1 心臓血管病の予防方法・治療方法及び罹病後の社会復帰に関する調査研究の助成。
- 2 心臓血管病に関する予防知識の普及及び啓蒙。
- 3 心臓血管病に関する海外諸団体との連携。
- 4 その他心臓血管病制圧のために必要な事業。

役員

顧問	石坂 泰三	理事	池田 正男
"	植村甲午郎	"	稲山 嘉寛
"	永野 重雄	"	岩佐 凱実
"	武見 太郎	"	沖中 重雄
"	樋口 一成	"	加地 幸一
		"	川島 勤市
会長	佐藤喜一郎	"	木川田一隆
副会長	美甘 義夫	"	木村 登
"	湯浅 恭三	"	木本 誠二
理事長	草野 義一	"	小林太刀夫
		"	榑原 任
		"	佐々木周一
		"	笹本 浩
		"	瀬川美能留
		"	花村仁八郎
		"	早瀬 正二
		"	前川孫二郎
		"	松宮 一也
監事	鹿島守之助	"	山本 正淑
"	武井 大助	"	吉岡 義二
"	井上 薫	"	吉田 常雄

11

財団発足当時の厚生大臣挨拶では、脳血管疾患、心疾患は3分の1に減少できるであろう、と強調されていました。ここに、これらの疾患の年齢調整死亡率の年次推移グラフをお示して、50周年記念誌の締めくくりといたします。



脳血管疾患・心疾患の年齢調整死亡率の年次推移

ご寄附を賜りましたすべての方々へ

このたび日本心臓財団は設立 50 周年を迎えましたが、このように充実した活動を継続することができたのは、すべて皆様のご寄附による賜物でございます。

民間の公益法人である日本心臓財団は、設立時の基金を経済界より出資いただき、その後も多くの個人、企業の方々のご寄附により活動を支えられてまいりました。

循環器医学の発展のために若い研究者を育てる助成活動におきましても、財団固有の研究奨励事業に加え、多くの企業からのご協賛を得て多彩な研究助成、留学助成を行ってまいりましたが、これらは企業からのご寄附及び個人からのご寄附・遺贈がもとになっております。こうした助成により多くの若手研究者が育成され独創的な研究成果を挙げたことは資料に示すとおりです。

また、国民に対する啓発活動におきましても、その活動は法人賛助会員、個人賛助会員に加え、多くの方々からのご寄附に支えられております。このような皆様の誠意に少しでも応えるべく、ホームページによるわかりやすく正確な情報発信、無料のメールによる医療相談「セカンドオピニオン」、毎年 8 月 10 日を中心とした健康ハートの日キャンペーンでの無料医療相談、心電図・動脈硬化度測定など、さまざまな啓発活動を行っております。

さらには企業との共催、後援等、さまざまな形での協同事業による啓発活動は、企業の CSR 活動に支えられており、財団のみではできないような広く多彩な活動を行うことを可能にさせていただいております。

近年では、月刊誌「心臓」の発行を支えていただくことを中心に、病院会員、教室会員にもご寄附を賜っており、より充実した内容にして診療にお役立ていただいております。

次ページに現在ご支援いただいております法人賛助会員と病院・教室会員を掲載させていただきました。

50 年の活動を支えていただいたすべての企業、団体、個人のご芳名を掲げることにはできず、割愛させていただきましたが、ここに深く感謝の意を表させていただきます。

そして、さらなる飛躍のために、今後も引き続き、ご支援ご協力いただけますと幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

公益財団法人 日本心臓財団
理事長 矢崎 義雄

教室(医局)・病院(医院)・医師会賛助会員の皆様

教室(医局)賛助会員

北海道大学循環器内科
 札幌医科大学循環器内科
 弘前大学循環器腎臓内科
 東北大学循環器内科
 東北医科薬科大学循環器内科
 山形大学第一内科
 筑波大学循環器内科
 獨協医科大学心臓・血管内科
 獨協医科大学埼玉医療センター
 循環器内科
 群馬大学循環器内科
 千葉大学循環器内科
 埼玉医科大学国際医療センター
 心臓内科
 自治医科大学附属さいたま医療
 センター循環器内科
 日本大学循環器内科
 帝京大学循環器内科
 帝京大学附属溝口病院循環器内科
 帝京大学ちば総合医療センター
 循環器内科
 日本医科大学循環器内科
 日本医科大学多摩永山病院循環器
 内科
 日本医科大学千葉北総病院循環器
 内科
 東京大学循環器内科
 順天堂大学循環器内科
 順天堂大学医学部附属静岡病院
 東京医科歯科大学循環器内科

慶應義塾大学循環器内科
 東京医科大学循環器内科
 東京医科大学八王子医療センター
 循環器内科
 東京慈恵会医科大学循環器内科
 東京慈恵会医科大学葛飾医療
 センター循環器内科
 東京女子医科大学東医療センター
 心臓血管診療部
 昭和大学藤が丘病院循環器内科
 東邦大学循環器内科
 東邦大学医療センター大橋病院
 循環器内科
 杏林大学循環器内科
 横浜市立大学循環器内科
 聖マリアンナ医科大学循環器内科
 北里大学循環器内科
 東海大学循環器内科
 東海大学医学部附属八王子病院
 新潟大学循環器内科
 金沢大学循環器内科
 金沢大学心臓血管外科
 金沢医科大学循環器内科
 富山大学第二内科
 信州大学循環器内科
 浜松医科大学循環器内科
 名古屋大学循環器内科
 名古屋市立大学循環器内科
 藤田医科大学循環器内科
 三重大学循環器内科

滋賀医科大学呼吸循環器内科
 京都大学循環器内科
 京都府立医科大学循環器・腎臓
 内科
 関西医科大学循環器内科
 奈良県立医科大学第1内科
 大阪大学循環器内科
 大阪大学臨床遺伝子治療学
 近畿大学奈良病院循環器内科
 神戸大学循環器内科
 神戸大学心臓血管外科
 鳥取大学循環器内科
 広島大学循環器内科
 山口大学循環器内科
 香川大学循環器・腎臓・脳卒中
 内科
 徳島大学循環器内科
 愛媛大学循環器内科
 高知大学老年病・循環器・神経
 内科
 九州大学循環器内科
 福岡大学心臓血管内科
 久留米大学心臓血管内科
 佐賀大学循環器内科
 長崎大学循環器内科
 熊本大学循環器内科
 大分大学循環器内科
 宮崎大学循環器内科
 鹿児島大学心臓血管内科

病院(医院)賛助会員

北海道大野記念病院
 北海道社会事業協会帯広病院
 札幌中央病院
 札幌心臓血管クリニック
 札幌東徳洲会病院
 木原循環器科内科医院
 旭川リハビリテーション病院
 仙台厚生病院
 仙台循環器病センター
 本荘第一病院
 三友堂病院
 福島赤十字病院
 大原綜合病院
 国際医療福祉大学病院
 新小山市民病院
 高安内科・循環器科クリニック
 茨城県立中央病院
 常陸大宮済生会病院
 慶友会慶友整形外科病院
 千栄会高瀬クリニック
 博仁会第一病院
 輝城会沼田脳神経外科循環器科
 病院
 鶴谷病院

蜂谷病院
 かわぐち心臓呼吸器病院
 北里大学メディカルセンター
 埼玉県立循環器・呼吸器病センター
 さいたま市民医療センター
 深谷赤十字病院
 関越病院
 東葛病院
 板橋中央綜合病院
 江戸川病院
 関東中央病院
 榊原記念病院
 聖路加国際病院心血管センター
 虎の門病院
 野村病院
 武蔵野赤十字病院
 東大和病院
 小田原循環器病院
 横浜南共済病院
 横浜栄共済病院
 済生会横浜市南部病院
 済生会富山病院
 富山赤十字病院
 金沢医療センター

抱生会丸の内病院
 岐阜県総合医療センター
 澄心会岐阜ハートセンター
 慈朋会澤田病院
 松波綜合病院
 聖隷浜松病院
 市立湖西病院
 澄心会名古屋ハートセンター
 藤田医科大学ばんだね病院
 トヨタ記念病院
 伊勢赤十字病院
 近江八幡市立総合医療センター
 宇治病院
 京都桂病院
 ゆやまクリニック
 毅峰会吉田病院
 小松病院
 松下記念病院
 みどり病院
 北播磨総合医療センター
 高清会高井病院
 健生会土庫病院
 誠佑記念病院
 公立那賀病院

医師会賛助会員

新宮市立医療センター	福岡大学西新病院
しげい病院	福岡新水巻病院
東広島医療センター	小倉記念病院
済生会広島病院	春陽会うえむら病院
福山循環器病院	新小文字病院
県立広島病院	福岡青洲会病院
JR広島病院	ヨコクラ病院
岩国医療センター	済生会熊本病院
美祢市立病院	大分岡病院
済生会今治病院	高田中央病院
今治第一病院	都城市郡医師会病院
市立宇和島病院	青仁会池田病院
喜多医師会病院	鹿児島市医師会病院
近森会近森病院	鹿児島生協病院
済生会福岡総合病院	かりゆし会ハートライフ病院
杉循環器内科病院	翔南会翔南病院
福岡記念病院	

日本医師会
東京都医師会
藤岡多野医師会
前橋市医師会
上尾市医師会
葛飾区医師会

法人賛助会員の皆様

(五十音順)

株式会社アクセル	様	三栄メディシス株式会社	様	日鉄鉱業株式会社	様
旭化成ゾールメディカル	様	JX金属株式会社	様	日本軽金属株式会社	様
株式会社	様	株式会社ジェイ・エム・エス	様	日本光電工業株式会社	様
アステラス製薬株式会社	様	株式会社スズケン	様	日本心臓ペースメーカー友の会	様
アストラゼネカ株式会社	様	住友大阪セメント株式会社	様	日本ペーリンガーイングルハイ	様
アボットメディカルジャパン	様	住友金属鉱山株式会社	様	ム株式会社	様
合同会社	様	株式会社SUMCO	様	日本メドトロニック株式会社	様
アムジェン株式会社	様	株式会社世界貿易センター	様	日本ライフライン株式会社	様
株式会社池野商店	様	ビルディング	様	野村不動産ライフ&スポーツ	様
有限会社池野ビルメンテナンス	様	ゼリア新薬工業株式会社	様	株式会社	様
宇部興産株式会社	様	第一三共株式会社	様	バイエル薬品株式会社	様
エドワーズライフサイエンス	様	大正製薬株式会社	様	ファイザー株式会社	様
株式会社	様	ダイナメディックジャパン	様	フクダ電子株式会社	様
オキシゲンアンドパートナーズ	様	株式会社	様	ブルーミング中西株式会社	様
株式会社	様	大日本住友製薬株式会社	様	古河機械金属株式会社	様
小野薬品工業株式会社	様	武田薬品工業株式会社	様	ボストン・サイエンティフィック	様
オムロンヘルスケア株式会社	様	株式会社TASLY JAPAN	様	ジャパン株式会社	様
カーディナルヘルス ジャパン	様	田辺三菱製薬株式会社	様	マーケット・メーカーズ・インク	様
合同会社	様	中外製薬株式会社	様	三井金属鉱業株式会社	様
キャノンメディカルシステムズ	様	帝人ファーマ株式会社	様	株式会社三井住友銀行	様
株式会社	様	テルモ株式会社	様	三菱アルミニウム株式会社	様
救心製薬株式会社	様	東京海上日動火災保険	様	株式会社三菱総合研究所	様
株式会社協和企画	様	株式会社	様	三菱電線工業株式会社	様
キリンホールディングス	様	東邦亜鉛株式会社	様	三菱マテリアル株式会社	様
株式会社	様	株式会社東横イン	様	明治安田生命保険相互会社	様
株式会社グロースライフ	様	トーアエイヨー株式会社	様	持田製薬株式会社	様
興和株式会社	様	NISSHA株式会社	様		
サノフィ株式会社	様	株式会社日清製粉グループ本社	様		

編集後記

日本心臓財団が設立 50 周年を迎えた記念誌として、その活動記録を中心に本誌を作成いたしました。過去にも 10 年ごとの節目に「ハートねんぷ」を発行していることもあり、今回は現在継続している活動を中心といたしましたが、その活動もまた過去の多くの活動の積み重ねによる賜物であり、事務局に残されている古い写真をデジタル化するなど、50 年の歩みを目に見える形で残すよう心がけました。

一方で単なる記録集としてではなく、公益活動の一環として発行するにふさわしいよう、循環器医学の 50 年の歩みと今後について学術的に考察したシンポジウムを掲載し、また多くの啓発活動についても、その目的と活動内容について詳細に記載いたしました。

ページをめくるごとに、当財団を支えてくださった多くの方々の熱意とご苦労が伝わってきます。お名前を一人ひとりあげることではできませんが、あらためてここに感謝を申しあげる次第です。

設立 50 周年を迎えた 2020 年は、COVID-19 の世界的なパンデミックとなる感染拡大が起り、多くの活動を自粛せざるを得ない状況になりました。今後は with コロナの時代に、どのような形で効果的な活動を継続していくかを考え、実践していきたいと思います。

事務局も新公益法人制度のもとに公益財団法人となった 2012 年より西新宿の事務所で活動してきましたが、今回、神田に移転し、新たな活動拠点のもとにスタートいたします。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

最後に、本誌を制作するにあたり、多くの助言と協力をいただいた杉本恒明先生と濱西島子さんに厚く感謝申し上げます。

公益財団法人 日本心臓財団
事務局

日本心臓財団設立50周年記念誌 ハートねんぷ 50

2021 年 1 月 20 日

発行：公益財団法人日本心臓財団

〒 101-0047 東京都千代田区内神田 2-7-10 松楠ビル 6 階

TEL: 03-5209-0810 FAX: 03-5209-0830

<https://www.jhf.or.jp>
